令和２年度

病院年報

第44号

伊勢崎市民病院

理　　念

誠実で質の高い医療

基本方針

1．安全な医療サービスに努めます

2．急性期医療を中心とした医療を提供します

3．救急医療の向上を図ります

4．がん診療の充実に努めます

5．地域医療連携を推進します

6．医療従事者の育成に努めます

7．公共性と効率性の確保に努めます

まえがき

令和２年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、状況は改善と悪化を繰り返し、終息しないままでした。

そのような状況の中で、当病院は地域医療支援病院、災害拠点病院及び第２種感染症指定病院に指定され、伊勢崎保健医療圏の公立病院であるため、令和２年２月に県の要請で大型客船ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナ感染症患者の入院受入に始まり、群馬県内発生の新型コロナ感染症患者の入院医療を引き受けてきました。

感染症病床は４床ですが、一部の病棟を新型コロナ感染症患者用の専用病床に再編し、新型コロナと一般の入院医療を両立させた体制を構築しましたが、院内クラスターの発生は１度もありませんでした。新型コロナ対応に携わった職員らはもちろんのこと、全職員の献身的な努力に対して、病院を代表して心より感謝申し上げます。

令和２年度の新型コロナ感染症のパンデミックは第１波から第３波を経験しましたが、その間に国は新型コロナ対策に対して緊急事態宣言、経済対策に対して GO TO キャンペーン（トラベル、イート）という矛盾した対策の結果、新型コロナの終息どころか拡大方向に進み、病院経営においても危機的な経営状況でした。外来及び入院患者は共に約１割の減少であり、医業収支におきましては、約１１億円の赤字となりました。しかし、行政の新型コロナ病床確保に対する新型コロナ対策等支援金の補助により、経常収支においては若干の黒字となりました。

コロナ禍であっても社会保障関連の改革は進んでおり「全世代型社会保障会議」の最終報告や「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法の一部を改正する法律」の閣議決定など、病院関連の重要な案件が報告されました。医師の働き方改革に関する「医師の労働時間の短縮及び健康確保のための制度の創設」及び他職種間のタスクシフト・シェアリングを目的とした「診療放射線・臨床検査技師等に関する法律、臨床工学技士・救急救命士法の一部改正」「新興感染症に対する医療法の一部改正」「外来医療機能の明確化及び連携に関する事項」など、病院が早急に着手すべき事項があります。ウイズコロナ下ですが、今後、上記事項を取り入れた病院の効率化と医療の質の向上を目的に多職種協働による組織改革を行う予定です。

令和２年度は、手術支援ロボットダヴィンチは Si１台から Xi、X２台への買い替えが決まり、呼吸器外科及び婦人科手術に適応を拡大する計画とし、ハイブリッド手術室は、心臓血管外科がステントグラフト、整形外科が脊椎手術の使用に加え、心臓血管外科及び循環器内科による TAVR（経カテーテル大動脈弁置換術）及び MitraClip（経皮的僧帽弁形成術）の開始を決定しました。

本年６月にダヴィンチを更新し、呼吸器外科も使用を開始しており、８月に TAVR の施設認定が承認されたことで、治療を開始する予定となっています。

今後も急性期病院として高度な医療を追求する目的で高度先進医療機器の導入を積極的に行い、当該患者さんに対して低侵襲で安心・安全な医療を提供して行きたいと考えています。

令和３年度に入っても新型コロナは変異株の出現と度重なる緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の発令による行動自粛の自主的緩和により、感染は拡大して第４波及び第５波の襲来がありました。本年１０月には感染者は減少しましたが、今後も当病院は新型コロナと一般医療の両立を図るため、地域の病院や医院との連携と機能分担を明確にした上で、地域医療に貢献したいと考えております。

令和３年１２月１日

伊勢崎市病院事業管理者

小　林　　幹　男

目　　次

Ⅰ　病院の現況

Ⅰ　病　院　の　現　況

１．病　院　の　概　要　（令和3年3月31日現在）

（1）	開　設　者	伊　勢　崎　市
（2）	開設年月日	平成17年1月1日(伊勢崎佐波医療事務市町村組合から継承、組合開設 昭和23年5月24日)
（3）	管　理　者	小　林　幹　男
（4）	施設名称	伊勢崎市民病院
（5）	病　院　長	小　林　裕　幸
（6）	所　在　地	〒372-0817　群馬県伊勢崎市連取本町12番地1
（7）	電話番号	(0270) 25－5022（代表）　ＦＡＸ（0270）25－5023
（8）	診療科目	内科、精神科（心療内科）、神経内科、循環器内科、内視鏡内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔(くう)外科、緩和ケア内科、救急科
（9）	病　床　数	一般490床、感染症4床、計494床
(10)	外来受付	午前8時30分～午前11時
(11)	人間ドック	1日ドック　週5回
(12)	人工透析	ベッド数　28床
(13)	救急体制	救急センター、救急指定、第二次救急医療病院群輪番制
(14)	集中治療室設置	ＩＣＵ　8床
(15)	がん診断治療施設	ＭＲ診断装置（2台）、血管撮影装置（3台）、乳房撮影装置（2台） 全身用マルチスライスＣＴ装置（2台）、SPECT-CT、放射線治療装置（ライナック）
(16)	リハビリテーション施設	理学療法室（心電図セントラルモニタ、プレステップ、エルゴメーター） 作業療法室　電動昇降式訓練用（キッチン、洗面化粧台、トイレット） 言語訓練室
(17)	未熟児施設	ベッド数　7床、人工呼吸器、生体情報モニター、経皮酸素分圧測定装置
(18)	病理解剖施設	病理組織検査室、検鏡室、電子顕微鏡室、解剖室、標本室

(19)　専門外来等

内科	甲状腺・胆膵・肝臓・消化管・喘息呼吸器・腎臓内科・糖尿病
循環器内科	不整脈
神経内科	もの忘れ
小児科	アレルギー・神経発達・慢性疾患・予防接種・乳児健診・内分泌
外科	乳腺・肝胆膵・大腸肛門・呼吸器・甲状腺・食道胃・下部消化管 がん遺伝カウンセリング
整形外科	股関節・小児股関節
皮膚科	特殊・レーザー
泌尿器科	小線源・排尿機能・ＣＡＰＤ・腎・腎腫瘍・前立腺・腫瘍免疫 前立腺ホルモン・前立腺パス・前立腺肥大症
眼科	特殊
耳鼻いんこう科	特殊・補聴器
歯科口腔外科	外来小手術・口腔粘膜
看護外来	乳腺看護・緩和看護・糖尿病フットケア・糖尿病療養指導士・小児糖尿病療養指導士・ストーマ・ウロストーマ・助産師・母乳
その他	セカンドオピニオン

(20)　診療指定等

病院の指定状況等	
保険医療機関	指定自立支援医療機関（精神通院医療）
労災指定	原爆被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定	群馬県エイズ診療協力病院
指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）	管理栄養士必置指定施設
特定疾患・小児慢性特定疾患医療	指定難病指定医療機関
救急告示	短期人間ドック
第二種感染症指定医療機関	群馬県周産期協力医療機関
地域がん診療連携拠点病院	群馬県臨床検査値標準化施設認証
災害拠点病院（地域災害医療センター）	大腸癌研究会施設会員
国保療養取扱機関	群馬肺癌研究会幹事施設
養育医療機関	ステントグラフト実施施設
生活保護指定医療機関	マンモグラフィ検診施設
地域医療支援病院	ＮＳＴ稼働施設
肝疾患専門医療機関	

(21) 施 設 基 準

基本診療料の施設基準等に関する届出事項	
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料１）	総合入院体制加算２
臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算	妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算１	医師事務作業補助体制加算１（15 対 1）
急性期看護補助体制加算（50 対 1）	療養環境加算
重症者等療養環境特別加算	重症皮膚潰瘍管理加算
がん拠点病院加算	栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算１	医療安全対策地域連携加算１
感染防止対策加算１	感染防止対策地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算	患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算	後発医薬品使用体制加算１
病棟薬剤業務実施加算１・２	データ提出加算２
入退院支援加算１	入院時支援加算
地域連携診療計画加算	総合機能評価加算
認知症ケア加算１	排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算	特定集中治療室管理料３
早期離床・リハビリテーション加算	早期栄養介入管理加算
小児入院医療管理料４	プレイルーム加算
緩和ケア病棟入院料２	地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算２	

特掲診療料の施設基準等に関する届出事項	
外来栄養食事指導料の注２	糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
糖尿病透析予防指導管理料	小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	婦人科特定疾患治療管理料
小児科外来診療料	院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注３に規定する救急搬送看護体制加算	外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料	ハイリスク妊産婦共同管理料Ⅰ
がん治療連携計画策定料	がん治療連携管理料
外来排尿自立指導料	薬剤管理指導料
医療機器安全管理料１・２・歯科	歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医学管理料
持続血糖測定器加算（間欠注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）	持続血糖測定器加算（間欠注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査	ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査
先天性代謝異常症検査	ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算Ⅰ・Ⅳ	遺伝カウンセリング加算
植込型心電図検査	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験	皮下連続式グルコース測定

神経学的検査	小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算１・２	ＣＴ撮影及びMRＩ撮影
冠動脈CT撮影加算	心臓MRＩ撮影加算
乳房MRＩ撮影加算	頭部MRＩ撮影加算
全身MRＩ撮影加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１	連携充実加算
無菌製剤処理料	心大血管疾患リハビリテーション料Ｉ
脳血管疾患等リハビリテーション料Ｉ	運動器リハビリテーション料Ｉ
呼吸器リハビリテーション料Ｉ	がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料２	エタノールの局所注入（甲状腺・副甲状腺）
人工腎臓（慢性維持透析を行った場合１）	導入期加算１
透析液水質確保加算２	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
センチネルリンパ節加算	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
椎間板内酵素注入療法	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）	乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	
経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
経皮的冠動脈ステント留置術	胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）	補助人工心臓
腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上））	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	膀胱水圧拡張術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
人工尿道括約筋植込・置換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
医科点数表第２章第１０部手術の通則５及び６に掲げる手術	手術の休日加算１、時間外加算１及び深夜加算１
輸血管理料Ｉ	輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	麻酔管理料（Ｉ・Ⅱ）
放射線治療専任加算	外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療	１回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算（ＩＧＲＴ）	体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療	定位放射線治療呼吸移動対策加算
クラウン・ブリッジ維持管理料	

食事療養に関係する基準	
入院時食事療養（Ⅰ）	食堂加算
特別食加算	

(22) 教 育 指 定 等

臨床研修病院（基幹型）（平成15年10月30日厚生労働省指定）	
臨床研修病院（平成3年4月1日厚生省指定）	
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本神経学会専門医制度准教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本泌尿器科学会専門医制度基幹教育施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本医学放射線学会専門医制度修練機関
日本脳神経外科学会専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（研修･関連）施設	日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本呼吸器学会専門医制度認定施設
日本病理学会認定病理専門医制度研修認定施設Ｂ	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科）	日本肝臓学会認定施設
日本消化器外科学会専門医制度修練施設	日本呼吸器外科学会専門医制度基幹施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設	日本心臓血管外科手術データベース施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	日本大腸肛門病学会専門医認定施設
日本透析医学会専門医制度認定施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）
日本ペインクリニック学会指定研修施設	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
日本臨床細胞学会認定施設	日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本脈管学会研修指定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本医学教育学会機関会員
日本緩和医療学会認定研修施設	日本人間ドック学会会員施設
認定臨床微生物検査技師制度研修施設	日本消化器がん検診学会認定指導施設
群馬大学産婦人科研修プログラム専門研修連携施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本口腔外科学会認定准研修施設	特定行為研修指定研修機関（３区分）
太田医療技術専門学校臨床工学科実習施設	伊勢崎敬愛看護学院実習施設
桐生大学医療保健学部看護学科実習施設	桐生大学医療保健学部栄養学科実習施設
群馬大学医学部医学科卒前教育臨床実習施設	群馬県立県民健康科学大学看護学部実習施設
群馬パース大学保健科学部看護学科実習施設	群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻実習施設
上武大学看護学部看護学科実習施設	群馬大学医学部保健学科作業療法学専攻実習施設
高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科実習施設	群馬パース大学保健科学部検査技術学科実習施設
高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科実習施設	西武学園医学技術専門学校臨床検査科実習施設
高崎健康福祉大学薬学部実習施設	高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科実習施設
帝京大学医療技術学部臨床検査学科実習施設	高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科実習施設
東邦大学薬学部実習施設	日本看護協会看護研修学校臨地実習施設
東群馬看護専門学校母性看護・小児看護学実習施設	本庄児玉看護専門学校実習施設
前橋医療福祉専門学校医療秘書学科実習施設	目白大学保健医療学部言語視覚学科実習施設
桐生大学別科助産専攻実習施設	目白大学保健医療学部理学療法学科実習施設
群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部実習施設	

2．位 置 と 案 内

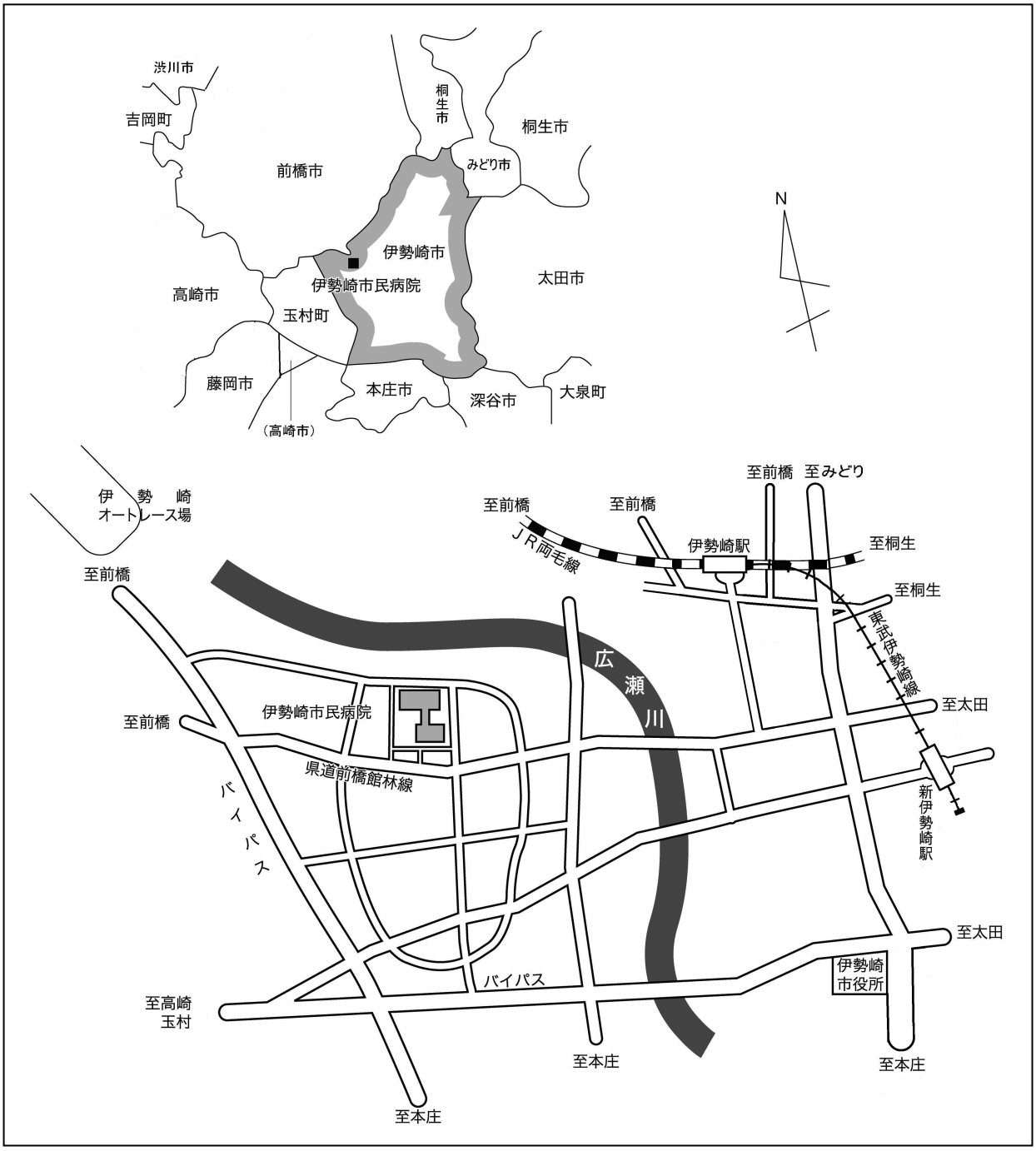
本市は群馬県南東部、関東平野の北西に位置し、前橋市、高崎市、桐生市、太田市、みどり市などの群馬県の主要都市に囲まれ、その中央部に位置しています。また、赤城山麓の南面に位置し、北部に一部丘陵地があるほか、全体はほぼ平坦地であり、南部には利根川が流れ、その支流である広瀬川、粕川、早川、韮川などの河川や沼池があります。

交通はJR両毛線と東武伊勢崎線が結節する鉄道交通の要衝であるとともに、北関東自動車道が東西に横断し、伊勢崎インターチェンジ、波志江PA・スマートインターチェンジが設置されています。また、東部を貫通する国道17号線上武国道、南北を結ぶ国道462号線と県道伊勢崎大間々線、さらに北に国道50号線、南に国道354号線が東西に横断しています。そのほか主要地方道が市の中心部から放射状に伸びており、交通アクセスに恵まれています。

気候は県内では比較的温暖で、雨の日が少なく日照時間が長いという特徴があります。冬季は「上州のからっ風」と呼ばれる寒風が吹きます。

面積は、139.44㎢、東西13.1㎞、南北約18.4㎞で南北にやや細長い形状をしています。

人口は、約21万3千人で県内12市中4番目の人口規模を持つ都市です。



３．沿　　革

昭和 23 年	5 月 24 日	佐波伊勢崎医療事務市町村組合を設立し日本医療団より土地建物施設（西町）一切を譲り受ける
	7 月 20 日	佐波伊勢崎国民健康保険団体連合会を設立　名称「伊勢崎病院」
昭和 24 年	6 月 10 日	幸町小暮病院土地建物買収（23 床）
	11 月 30 日	西町（現三光町）より幸町（現中央町）へ病院移転
	12 月 1 日	診療開始
昭和 26 年	12 月 23 日	病棟、診療棟、レントゲン室、産院増築（計 75 床）
昭和 37 年	11 月 8 日	伊勢崎佐波医療事務市町村組合と改称
昭和 38 年	7 月 23 日	病院開設許可（200 床）
	9 月 10 日	新病院起工
昭和 39 年	7 月 14 日	救急病院告示
	8 月 31 日	新病院完成（200 床）
	9 月 30 日	佐波伊勢崎国民健康保険団体連合会　解散
	10 月 1 日	新病院開設　初代管理者　伊勢崎市長　中澤豊七氏就任
		初代病院長　平山圭一郎氏就任
		診療科目　内科、神経科、小児科、外科、整形外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、理学診療科、歯科
	10 月 26 日	病院施設使用許可（200 床）
昭和 40 年	1 月 4 日	人間ドック開設
	4 月 1 日	地方公営企業法一部適用（財務規定等）
	9 月 16 日	総合病院の名称承認
昭和 41 年	12 月 15 日	自治大臣から財政再建団体としての指定を受け、財政健全化のための計画を樹立
昭和 42 年	3 月 14 日	財政再建計画承認申請の承認
	3 月 18 日	病院開設許可事項一部変更許可（伊勢崎伝染病院市町村組合立伝染病棟（45 床）を伊勢崎病院敷地内に併設）
	5 月 2 日	第 2 代管理者　伊勢崎市長　下城義三郎氏就任
昭和 44 年	7月 1 日	第 2 代病院長　岡村輝彦氏就任
昭和 45 年	5 月 7 日	第 3 代管理者　伊勢崎市長　下城雄索氏就任
昭和 47 年	3 月 31 日	財政再建完了
昭和 48 年	4 月 1 日	医師陣の群馬大学医学部全面移行
		第 3 代病院長　近藤忠徳氏就任
		初代名誉院長　七條小次郎氏就任
昭和 49 年	4 月 1 日	皮膚科、泌尿器科医師常勤
昭和 50 年	1 月 23 日	病理医師常勤
	6 月 16 日	病棟増改築工事着工（昭和 49 年度より昭和 51 年度まで 3 ヵ年継続事業）
昭和 51 年	1 月 23 日	病院開設許可事項一部変更許可（200 床増、一般病床計 400 床）
	9 月 1 日	病院施設使用許可（一般病床計 242 床）
	11 月 30 日	病棟増改築工事竣工

昭和 52 年	5 月	1 日	病院施設使用許可（一般病床計 284 床）
	6 月	1 日	院内保育所開設（定員 20 名）
昭和 53 年	1 月	1 日	脳神経外科新設、同科医師及び耳鼻いんこう科医師常勤
	4 月	1 日	群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室開設
	5 月	1 日	病院施設使用許可 （一般病床計 344 床）
	9 月	1 日	放射線科新設
	11 月	8 日	頭部用 CT 導入
昭和 54 年	3 月	1 日	年報第 1 号発行
	4 月	1 日	病院名を伊勢崎病院から伊勢崎市民病院に改称
			伊勢崎佐波広域市町村圏振興整備組合から伊勢崎伝染病院の移管をうける（伝染病床 45 床）
			群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室を群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室に名称変更
			循環器科新設、同科医師常勤
	5 月	1 日	病院施設使用許可（一般病床計 390 床）
	6 月	11 日	眼科医師常勤
	10 月	1 日	指定出納取扱金融機関の伊勢崎信用金庫が病院内に会計窓口を開設
昭和 55 年	4 月	1 日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室が群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校に昇格
			群馬県救急医療システムスタート（当病院に特Ⅱ型の端末機設置）
昭和 56 年	2 月	19 日	ガンマカメラ導入
	6 月	2 日	麻酔科新設、同科医師常勤
	9 月	1 日	自治省財政局「公立病院経営改善事例集」（昭和 56 年度分）調査対象（基幹病院 3、地域中核病院 10、地区病院 11、へき地病院 11）のモデル病院として地域中核病院 10 病院の中に選ばれる
昭和 57 年	10 月	1 日	コンピュータ入院診療会計業務開始
	11 月	1 日	コンピュータ外来診療会計業務開始
昭和 58 年	2 月	1 日	老人保健法施行
	3 月	1 日	コンピュータ薬剤管理業務開始
	9 月	16 日	中国研修医受入（研修期間 6 ヵ月）
			陝西省西安市西安医学院第二付属医院
			李　秀林　病理解剖学教研組付教授
			張　彩霞　講師兼内科主治医師
	12 月	25 日	全身用 CT 導入
昭和 59 年	10 月	20 日	開院 20 周年記念式典を伊勢崎市文化会館において挙行
昭和 60 年	4 月	1 日	コンピュータ財務管理、経理業務開始
昭和 61 年	6 月	3 日	病院増改築工事着工（昭和 60 年度より昭和 62 年度まで 3 ヵ年継続事業）
	7 月	1 日	放射線科医師常勤
	8 月	26 日	病院開設許可事項一部変更許可（50 床増、一般病床計 440 床）
	11 月	1 日	患者給食午後 6 時配膳実施
昭和 62 年	3 月	31 日	初代名誉院長　七條小次郎氏退任
	5 月	22 日	自治体立優良病院表彰制度に基づく全国自治体病院開設者協議会会長及び全国自治体病院協議会会長表彰受賞

	6月 22日	病院施設使用許可(南病棟100床増、東病棟50床減、一般病床計440床)
	10月 1日	薬剤師当直開始
昭和63年	3月 31日	病院増改築工事竣工
	7月 1日	診療放射線技師、臨床検査技師当直開始
平成元年	10月 1日	運動療法施設基準実施承認
	10月 21日	開院25周年記念式典を伊勢崎市文化会館において挙行
平成2年	4月 1日	患者食適温給食実施
	6月 1日	精神神経科医師常勤
	9月 29日	中国研修医受入(研修期間3ヵ月)
		薛 友麗 陝西省 渭南地区医院 副主任医師
		龍 志正 陝西省 西安市蘭田県人民医院 主治医師
	10月 1日	内科外来診療予約制実施
	12月 1日	投薬の施設基準に係る承認
		産婦人科外来診療予約制実施
平成3年	2月 28日	MR診断装置 (1.5T)導入
	4月 1日	臨床研修病院指定
	7月 10日	第44回病院管理実地研究会を当病院において開催(全国自治体病院開設者協議会・全国自治体病院協議会共催)
平成4年	9月 9日	救急医療・救急業務功労団体として群馬県知事表彰受賞
	9月 14日	全科外来診療予約制実施
	12月 1日	特別管理給食加算承認
平成5年	3月 1日	第4代管理者 伊勢崎市長 髙橋基樹氏就任
	5月 13日	平成5年度自治体立優良病院自治大臣表彰受賞
	6月 1日	無菌製剤処理の施設基準に係る承認
	6月 7日	完全週休2日制実施
平成6年	4月 1日	院外処方せん発行 (皮膚科、眼科)
	7月 1日	院外処方せん発行 (産婦人科、耳鼻いんこう科)
	9月 1日	脳ドック開始
	10月 1日	骨ドック開始
	10月 22日	開院30周年記念式典を伊勢崎市文化会館において挙行
	11月 30日	循環器X線診断システム導入
	12月 1日	新看護料2.5:1 看護(A)加算 看護補助料13:1届出受理
平成7年	6月 1日	新看護料2.5:1 看護(A)加算 看護補助料10:1届出受理
	6月 6日	選択メニュー 全病棟 毎週火・木曜実施
	10月 1日	歯科口腔ドック開始
平成8年	4月 1日	病院改築工事着工 (平成6年度より平成9年度まで4ヵ年継続事業)
	5月 8日	群馬県エイズ診療協力病院指定
	6月 1日	院外処方せん発行(小児科、歯科口腔外科)
	9月 2日	前立腺ドック開始

	9月 13日	中国研修医受入（研修期間3ヵ月）
		于　西萍　陝西省婦幼保健院　主治医師
		胡　海田　陝西省人民医院　住院医師
	12月 16日	リアルタイムヘリカルCT導入
平成9年	2月 4日	選択メニュー　全病棟　毎週火・水・木曜実施
	3月 31日	病院開設許可事項一部変更許可（一般病床60床増、計500床、伝染病床、30床）
	4月 1日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校を群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校に改称
	7月 29日	腸管出血性大腸菌感染症における透析治療協力医療機関指定
平成10年	2月 27日	第2期病院改築工事着工（平成9年度から平成11年度まで3ヵ年継続事業）
	3月 15日	病院改築工事竣工
	3月 30日	放射線治療装置（ライナック）導入
	4月 3日	病院施設使用許可（一般病床500床、伝染病床30床）
	5月 6日	新病院稼働（トータルオーダリングシステム導入）
	6月 1日	神経内科、形成外科開設、神経内科医師常勤
平成11年	1月 4日	検診センター・腎センター稼働
	1月 6日	災害拠点病院（地域災害医療センター）指定
	4月 1日	事務局組織改革　病院建設課廃止　担当制導入
		感染症の治療及び患者に対する医療に関する法律施行（感染症4床）
		院外処方せん発行（整形外科、泌尿器科）
	5月 1日	形成外科医師常勤
	5月 12日	老人保健施設ひまわり開設（一般26床、痴呆加算24床）
	6月 1日	院外処方せん発行（放射線科、麻酔科）
	9月 1日	老人訪問看護ステーション開設、レストラン棟開設
	10月 16日	職員共済会35周年記念事業開催
	10月 28日	心臓血管外科新設
	11月 1日	新看護料2:1、看護（A加算）届出受理
	12月 31日	病院北駐車場借用地返還　伊勢崎市西部第一土地区画整理組合34,250㎡、
		伊勢崎市都市計画事業西部土地区画事業（伊勢崎市）5,750㎡
平成12年	1月 11日	病院駐車場機械化整備
	3月 31日	第2期病院改築工事竣工
	4月 1日	介護保険法施行
		介護老人保健施設ひまわり（一般50床）及び訪問看護ステーションいせさきと改称
	6月 1日	診療録管理体制加算・脊髄刺激装置植込術・脊髄刺激装置交換術届出受理
	7月 28日	病院施設使用許可申請許可524床（4階病棟一般20床増、計520床・感染症病床4床）
	7月 31日	4階病棟人間ドック移設、ホームページ開設（http://www.hospital.isesaki.gunma.jp）
	8月 1日	補聴器適合検査届出受理
	9月 1日	計量管理規定の認可（電子顕微鏡）
	10月 1日	心臓ドック開始
	11月 29日	角度可変型3検出器ガンマカメラ（スペクト）導入

平成 13 年	1 月　1 日	作業療法（Ⅱ）の受理　リハビリテーション科作業療法開始
	2 月　1 日	院外処方せん発行（外科・脳神経外科・形成外科）
	2 月　28 日	第 5 代管理者　伊勢崎市長　矢内一雄氏就任
	3 月　1 日	院外処方せん発行（内科・循環器科・精神神経科・神経内科・心臓血管外科）
	4 月　1 日	第 4 代病院長　荒井泰道氏就任
		第 2 代名誉院長　近藤忠徳氏就任
	12 月　25 日	全身用マルチスライスCT装置導入
平成 14 年	1 月　31 日	病院開設許可事項一部変更許可（病院・老人保健施設薬局共用）
	2 月　15 日	病院施設使用申請許可（病院・老人保健施設薬局共用）
	4 月　1 日	地域医療連携室開設、肺癌ドック開始
	7 月　1 日	感染管理室開設
	10 月　23 日	病院機能評価訪問審査
平成 15 年	1 月　20 日	病院機能評価認定（一般病院種別B）
	2 月　1 日	緩和ケア診療加算届出受理　緩和ケアチーム設置
	10 月　30 日	管理型臨床研修病院指定（厚生労働省）
	11 月　22 日	病院地番変更（土地区画整理による　連取町 1180 番地から連取本町 12 番地1に変更）
	12 月　25 日	病院開設許可事項一部変更許可（病院増築工事 1、2、3 階の一部）
平成 16 年	1 月　5 日	女性総合外来開設
	3 月　15 日	レセプト電算処理開始届（4 月請求分から）
	3 月　25 日	病院増築工事竣工（1、2、3 階の一部）
	3 月　30 日	病院施設使用申請許可（救急外来の一部）
	4 月　1 日	医療安全管理室設置
		褥瘡患者管理加算届出受理
	5 月　1 日	臨床研修病院入院診療加算届出受理
	6 月　1 日	外来化学療法届出受理
	12 月　31 日	伊勢崎佐波医療事務市町村組合解散（構成団体：伊勢崎市、佐波郡赤堀町、同郡東村、同郡境町及び同郡玉村町）
		玉村町を除く 4 市町村の合併により、新市（伊勢崎市）に承継
平成 17 年	1 月　1 日	伊勢崎市を開設者とする病院開設許可、使用許可（一般病床 520 床、感染症病床 4 床）、介護老人保健施設開設許可（50 床）及び訪問看護ステーション開設許可、薬剤管理指導料届出受理
	1 月　31 日	病院開設許可事項一部変更許可（前立腺小線源治療室）
	2 月　28 日	第 2 次病院総合情報システム完了（平成 15 年 9 月からの継続事業）
	3 月　28 日	災害派遣医療チーム（DMAT）資格取得
	3 月　31 日	病院施設使用申請許可（前立腺小線源治療室）
	4 月　26 日	前立腺がん密封小線源療法開始
	5 月　18 日	入院において電子カルテ運用開始
	6 月　1 日	群馬県周産期協力医療機関認定
	10 月　1 日	セカンドオピニオン外来開設
	11 月　1 日	NST（栄養サポートチーム）稼動施設認定（日本静脈経腸栄養学会）

平成 18 年	1 月　4 日	治験管理室開設
	3 月　3 日	DPC 対象病院として調整係数通知（18 年 6 月から開始）
	3 月 31 日	マルチスライス CT 装置導入、PACS 及び放射線部門情報システム導入
	4 月　1 日	院外処方完全実施
		一般入院基本料 10 対 1、救急医療管理加算、乳幼児救急医療管理加算、栄養管理実施加算、医療安全対策加算、ハイリスク分娩管理加算、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）、小児食物アレルギー負荷検査、コンタクトレンズ検査料 1、単純CT撮影及び単純MRI撮影、歯科治療総合医学管理料、歯科疾患総合指導料届出受理
	5 月 29 日	病院開設許可事項一部変更許可（一般病床をICU4 床に変更）
	5 月 30 日	病院施設使用申請許可（一般病床をICU4 床に変更）
	6 月 23 日	病院開設許可事項一部変更許可（集中治療室増改修工事に伴うICU8 床外変更）
	7 月　1 日	特定集中治療室管理料（4 床）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）届出受理
	8 月 24 日	がん診療連携拠点病院指定（厚生労働省）
	9 月　1 日	がん診療連携拠点病院加算届出受理
	9 月 29 日	病院開設許可事項一部変更許可（言語聴覚療法室）
	10 月　1 日	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）届出受理
	10 月　5 日	病院施設使用申請許可（言語聴覚療法室）
		言語聴覚療法開始
	11 月　1 日	輸血管理料Ⅰ届出受理
	12 月　1 日	敷地内禁煙実施
	12 月 26 日	病院施設使用申請許可（集中治療室増改修工事に伴うICU6 床外）
平成 19 年	1 月　1 日	褥瘡ハイリスク患者ケア管理加算届出受理
		集中治療室 6 床運用
	3 月　1 日	エタノール局所注入届出受理
	3 月 15 日	集中治療室増改修工事竣工
	3 月 27 日	病院施設使用申請許可（集中治療室増改修工事に伴うICU2 床外）
	4 月　1 日	8 階B病棟を「循環器センター」化
		レセプトオンライン化
	5 月　1 日	緩和ケア診療加算届出受理
	5 月 16 日	輸血システム稼動
	6 月　1 日	特定集中治療室管理料 8 床届出受理
	7 月　1 日	院内保育所土曜日保育開始
	10 月 23 日	病院機能評価訪問審査（更新）
	11 月　1 日	一般入院基本料 7 対 1 届出受理
	12 月　3 日	外来診療の順番表示開始
	12 月 25 日	病院開設許可事項一部変更許可（南棟 2 階の一部構造及び用途等変更）
		（病床種別病床数の変更、一般病床 17 床の増床）
平成 20 年	1 月 20 日	病院機能評価認定更新（Ver.5）
	2 月　1 日	生命保険等にかかる診断書作成支援システム稼動

	3月　1日	看護必要度入力支援システム稼動
	3月 31日	FPDバイプレーンフルデジタルIVRシステム導入
		第2代名誉院長　近藤忠徳氏退任
	4月　1日	院内保育所24時間保育開始
		超急性期脳卒中加算、妊産婦緊急搬送入院加算、ハイリスク妊婦管理加算、
		後期高齢者退院調整加算届出受理
	6月　1日	医師事務作業補助体制加算(75対1)届出受理
	8月　1日	伊勢崎市民病院経営検討委員会設置
	9月　1日	小児入院医療管理料2届出受理
	11月　1日	伊勢崎市民病院経営検討審議会設置
平成21年	1月　1日	入院時医学管理加算届出受理
	1月 23日	第6代管理者　伊勢崎市長　五十嵐清隆氏就任
	3月 16日	伊勢崎市民病院経営検討審議会から伊勢崎市民病院の経営改革、今後のあり方に関する答申書が
		提出される
	3月 17日	病院開設許可事項一部変更許可(緩和ケア病棟床面積変更)
	3月 18日	病院開設許可事項一部変更許可(本館棟17床減)
	3月 19日	がん診療総合センター(緩和ケア病棟竣工)
	3月 30日	伊勢崎市民病院改革プラン及び伊勢崎市民病院経営健全化計画策定
	3月 31日	病院施設使用申請許可(緩和ケア病棟17床)
	4月　1日	小児入院医療管理料3、プレイルーム加算届出受理
		医師事務作業補助体制加算(100対1)届出受理
	6月　1日	緩和ケア病棟入院料(17床)届出受理
		褥瘡ハイリスク患者ケア管理加算辞退届出
	7月　1日	災害派遣医療チーム群馬DMAT病院指定
	8月 31日	がん診療総合センター(内視鏡センター、外来化学療法センター)竣工
	9月 14日	病院施設使用申請許可(内視鏡センター、外来化学療法センター)
	9月 24日	一般撮影(CR・FPD)システム、画像配信(PACS)システム導入
	10月　1日	相談支援センターを1階外来棟から2階がん診療総合センターに移動
		がんサロンオアシス開設
		外来化学療法加算Ⅰ(31床)届出受理
	11月　1日	外来化学療法加算Ⅰ(20床)届出受理
		医師事務作業補助体制加算(75対1)届出受理
平成22年	2月　1日	経皮的冠動脈形成術届出受理
	3月 25日	紹介患者専用受付を旧栄養科相談室に移動(栄養科相談室は旧治験管理室に移動)
	4月　1日	救急医療管理加算、乳幼児救急医療管理加算、感染防止対策加算、救急搬送患者地域連携受入加算、
		がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者カウンセリング料、がん治療連携計画策定料、
		肝炎インターフェロン治療計画料、センチネルリンパ節生検、CT撮影及びMRI撮影、
		抗悪性腫瘍剤処方管理加算、透析液水質確保加算、乳がんセンチネルリンパ節加算 1・2、補助人工心臓、
		体外衝撃波胆石破砕術、麻酔管理料(Ⅰ)(Ⅱ)、運動器リハビリテーション料(Ⅰ)届出受理

	4月　8日	第2売店(コンビニエンスストア)オープン
	4月 15日	看護師研修室常設
	5月　1日	HPV核酸同定検査届出受理
	6月　1日	輸血管理料Ⅰ届出受理
	7月　1日	検体検査管理加算(Ⅱ)届出受理
	8月　1日	急性期看護補助体制加算 2(75対1)、医師事務作業補助体制加算(50対1) 届出受理
		逆紹介専用窓口開設
	8月 24日	総務省経営アドバイザー派遣事業実施
	8月 25日	総務省経営アドバイザー派遣事業実施
	10月　1日	栄養サポートチーム加算届出受理
	11月　1日	院内保育所定員増員(定員25名)
	12月 18日	循環器X線診断システム更新
平成23年	1月　4日	歯科口腔外科で全曜日の紹介型外来を開始
	2月　1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術届出受理
	3月 11日	DMAT(災害派遣医療チーム)東日本大震災被災地派遣(福島県・宮城県:隊員ほか計10名)
	3月 22日	病院職員定数改正議決(定数726名)
	4月　1日	全診療科で火曜日及び金曜日の紹介型外来を開始(歯科口腔外科を除く)
	6月 10日	関東信越厚生局による基本診療科・特掲診療科の施設基準等適時調査
	6月 22日	地域医療支援病院承認(群馬県知事)
	10月　1日	第3次病院総合情報システム(電子カルテ等基幹システム)稼働開始(平成23年度から3箇年継続事業)
	11月　1日	医師事務作業補助体制加算(25対1) 届出受理
	11月　3日	MR診断装置(1.5T)更新
	12月　9日	伊勢崎市民病院経営検討審議会から伊勢崎市民病院の経営健全化に係る評価意見書が提出される
平成24年	3月 31日	外来透析食、食事配膳終了
	4月　1日	第5代病院長　小林幹男氏就任
		第3代名誉院長　荒井泰道氏就任
		放射線診断科、放射線治療科、緩和ケア内科、救急科新設
		一般病棟入院基本料7対1(新基準)、救急管理加算、感染防止対策加算Ⅰ、
		感染防止対策地域連携加算、救急搬送患者地域連携紹介加算、データ提出加算、
		糖尿病透析予防指導管理料、夜間休日救急搬送医学管理料、外来リハビリテーション診療料、
		時間内歩行試験、ヘッドアップルティルト試験、CT撮影及びMRI撮影、脳血管疾患等リハビリテーション料
		(Ⅰ)初期加算、運動器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算、呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算、
		輸血管理料及び輸血適正使用加算、病理診断管理加算届出受理
	5月　1日	内視鏡内科新設
		院内トリアージ実施料、外来放射線照射診療料届出受理
	6月　1日	後発医薬品使用体制加算 2、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術届出受理
	6月 13日	病院開設許可事項一部変更許可(本館1階の一部構造及び用途変更)
	8月　1日	入退院支援センター開設
		患者サポート充実加算届出受理

	9月　1日	医師事務作業補助体制加算(20対1)届出受理
	10月　1日	外来において電子カルテ運用開始
		データ提出加算2届出受理
	11月　1日	先進医療　実物大臓器立体モデルによる手術支援(大腿骨頭置換術における)届出受理
	12月　1日	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算届出受理
平成25年	2月　28日	病院施設使用許可(本館1階診察室、待合廊下、廊下)
	3月　6日	新放射線治療装置(ライナック)稼働
	3月　31日	第3代名誉院長　荒井泰道氏退任
	7月　1日	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)届出受理
	8月　26日	病院開設許可事項一部変更許可(本館4階の一部構造及び用途変更)
	9月　1日	通院2日ドック開始
		医師事務作業補助体制加算(Ⅰ)届出受理
	10月　1日	検体検査管理加算（Ⅳ）届出受理
		新CT装置稼働(64列)
	11月　1日	定位放射線治療、画像誘導放射線治療、呼吸性移動対策加算
		冠動脈CT撮影加算、CT撮影加算、(128列）届出受理
		新CT装置稼働(128列×2管球)
	12月　9日	伊勢崎市民病院の経営改革、今後のあり方に関する答申書(最終答申)
	12月　11日	伊勢崎市民病院中期経営計画策定
平成26年	1月　1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術　届出受理
		小児入院医療管理料4　24床→33床変更届出
	3月　28日	病院開設許可事項一部変更許可(本館4階の廊下及び透析室)
	3月　31日	新腎センター稼働
	4月　1日	病院施設使用許可申請許可504床(4階病棟一般20床減、計500床・感染症病床4床)
		上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)、
		医療機器安全管理料(歯科)、歯科口腔リハビリテーション料2、口腔病理診断管理加算1、
		医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術　胃瘻造設術、経皮的冠動脈形成術、
		経皮的冠動脈ステント留置術、がん患者指導管理料2、がん患者指導管理料3、
		腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、医療機器安全管理料2　届出受理
		内科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	5月　1日	医師事務作業補助体制加算1　20対1補助体制加算、体外衝撃波膵石破砕術　届出受理
	7月　1日	透析液水質確保加算2届出受理
	9月　1日	内視鏡手術用支援機器加算　届出受理
		手術支援ロボット稼働
	10月　1日	がん患者リハビリテーション料　届出受理
平成27年	3月　1日	特定集中治療室管理料3　届出受理
	3月　1日	ホームページリニューアル
	4月　1日	一日ドックＳコース開始
		群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校を群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室に改称

	6 月　3 日	小児糖尿病療養指導士外来開設
	8 月　1 日	手術の休日加算1、手術の時間外加算1、手術の深夜加算1　届出受理
	8 月　1 日	持続血糖測定器加算、皮下連続式グルコース測定　届出受理
	10 月　22 日	病院機能評価訪問審査
	23 日	病院機能評価訪問審査
	12 月　1 日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術　届出受理
平成 28 年	1 月　15 日	病院機能評価認定（一般病院2、緩和ケア病棟）
	3 月　7 日	新入退院支援センター稼働
	4 月　1 日	一般病床を 490 床に減床
	4 月　1 日	下肢末梢動脈指導管理加算　届出受理
	5 月　1 日	膀胱水圧拡張術、退院支援加算（加算1）届出受理
	7 月　1 日	医師事務作業補助体制加算 1　15 対 1　届出受理
	8 月　1 日	小児入院医療管理料 3　33 床→35 床変更届出、病棟薬剤業務実施加算 1 届出受理
	9 月　1 日	３－Dマンモグラフィ装置更新
平成 29 年	1 月　1 日	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）、神経学的検査　届出受理
	1 月　31 日	SPECT－CT装置更新
	2 月　1 日	看護職員夜間配置加算（夜間配置加算 16 対 1）、認知症ケア加算 1、排尿自立指導料　届出受理
	3 月　16 日	伊勢崎市民病院新改革プランおよび新公立病院改革プランに関する事業推進計画（アクションプラン）策定
	4 月　1 日	総合入院体制加算 2　届出受理
	7 月　1 日	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）　届出受理
	9 月　1 日	新第1駐車場使用開始
	9 月　8 日	産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞
平成 30 年	1 月　26 日	MRI装置更新（3 テスラ）
	4 月　1 日	医療安全対策地域連携加算1、抗菌薬適正使用支援加算、入院時支援加算、夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）、人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1）、導入期加算1　届出受理
	5 月　1 日	胸腔鏡下弁形成術、胸腔鏡下弁置換術、食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）　届出受理
	5 月　14 日	ハイブリッド手術室稼働

	6月　1日	後発医薬品使用体制加算1、特定集中治療室管理料3（早期離床・リハビリテーション加算）、人工尿道括約筋植込・置換術　届出受理
	8月　1日	乳腺炎重症化予防ケア・指導料　届出受理
	10月　1日	栄養サポートチーム加算　届出受理
	10月 13日	病棟改修（7階A病棟から9階A病棟へ移動）
	12月 15日	病棟改修（6階A病棟から7階A病棟へ移動）
平成31年	2月　1日	病棟薬剤業務実施加算2、1回線量増加加算　届出受理
	3月　1日	腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）　届出受理
	3月　9日	病棟改修（8階B病棟から6階A病棟へ移動）
令和元年	6月　3日	整形外科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	6月 29日	病棟改修（9階B病棟から8階B病棟へ移動）
	9月　1日	腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）　届出受理
	9月 14日	病棟改修（7階B病棟から9階B病棟、8階A病棟から7階B病棟へ移動）
	11月　1日	歯科初診料、歯科外来診療環境体制加算1　届出受理
	11月 30日	病棟改修（7階B病棟から8A病棟、6B病棟から7B病棟へ移動）
	12月　2日	泌尿器科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
令和2年	1月　1日	総合評価加算、遺伝学的検査　届出受理
	2月　1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）　届出受理
	3月　7日	病棟改修（7階B病棟から6階B病棟へ移動）
	4月　1日	地方公営企業法の全部適用へ移行。病院事業管理者の設置 第7代管理者（病院事業管理者）　小林幹男氏就任 第6代病院長　小林裕幸氏就任 外科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始 入退院支援加算の注8に掲げる総合機能評価加算、地域医療体制確保加算、救急医療管理加算、緩和ケア病棟入院料2、がん患者指導管理料ニ、夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1、持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定児器を用いる場合）、BRCA1／2遺伝子検査、先天性代謝異常症検査、椎間板内酵素注入療法、小児科外来診療料　届出受理
	5月　1日	腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、小児運動器疾患指導管理料　届出受理
	6月　1日	地域歯科診療支援病院歯科初診料、歯科外来診療環境体制加算2、婦人科特定疾患治療管理料、心臓MRI撮影加算　届出受理
	7月　1日	診療記録管理体制加算1、特定集中治療室管理料3（早期栄養介入管理加算）　届出受理
	7月 27日	第4次病院総合情報システム（電子カルテ等基幹システム）稼動開始（令和元年度から2箇年継続事業）
	9月　1日	遺伝カウンセリング加算　届出受理
	10月　1日	外来栄養食事指導料（注2）、連携充実加算　届出受理

	11 月　1 日	頭部MRI撮影加算、全身MRI撮影加算　届出受理
令和 3 年	1 月　23 日	伊勢崎市長　臂泰雄氏（開設者）就任
	2 月　1 日	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴う)　届出受理
	2 月　22 日	特定行為研修指定研修機関指定（3 区分：呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、動脈血液ガス分析関連、循環動態に係る薬剤投与関連）
	3 月　3 日	救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞
	3 月　24 日	伊勢崎市民病院新改革プラン継続計画及び伊勢崎市民病院新改革プラン継続計画に関する推進事業計画（アクションプラン）策定

４．施設の概要

（１）土　　地

①敷地及び借用地面積　　（伊勢崎都市計画事業西部第一土地区画整理事業に伴い換地処分後面積）（単位　㎡）

用　　途	面　　積（換地後）
病　院　敷　地	29,304.85
浄化槽・A駐車場用地	3,275.00
B 駐 車 場 用 地	476.00
C 駐 車 場 用 地	1,491.99
第 3 駐 車 場 用 地	3,993.00
第 4 駐 車 場 用 地	2,168.00
第 5 駐 車 場 用 地	2,118.00
計	42,826.84
第 1 駐 車 場 用 地 （ 市 有 地 ）	6,251.61
計	6,251.61
合　　計	49,078.45

②土地取得の状況　　（伊勢崎都市計画事業西部第一土地区画整理事業前面積）（単位　㎡）

年　　度	用　　途	面　　積
昭 和 38 年 度	病院敷地	21,682.60
53	第４駐車場用地（旧第２）	1,906.00
55	病院敷地	983.00
59	Ｂ駐車場用地（旧第３）	476.00
平 成 元 年 度	第３駐車場用地（一部）（旧第１）	240.00
〃	病院敷地	7,545.92
2	〃	3,275.00
7	〃	570.00
9	病院公舎敷地（連取町）	880.21
10	Ｃ駐車場用地	1,490.00
11	第３駐車場用地（旧第１）	2,902.00
12	用　　地（連取町）	74.98
13	第５駐車場用地	2,117.00
14	用　　地（連取町）	165.12

（2）建　　物

①建物建設状況

（単位　㎡）

建物名称	建築年月	構　　造	延面積	摘　　要
南　棟	（増築）昭和62. 6	鉄筋コンクリート造４階建	6,668.52	
〃 〃	（改修）平成10. 2 （改修）平成21. 3	〃 〃		3. 4階を介護老人保健施設等に改修 2階を緩和ケア病棟に改修
倉　庫	（増築）平成 8. 3	軽量鉄骨プレハブ造平家建	145.74	
汚水処理施設	（新築）平成 8. 7	鉄筋コンクリート造平家建	173.00	（構築物）
病院公舎（４棟）	（購入）平成10. 2	軽量鉄骨造２階建	458.17	連取町
病院公舎（１棟）	（売却）平成15.11	〃	113.17	連取町　建物延　345.000
病院公舎（１棟）	（売却）平成16. 5	〃	117.51	連取町　建物延　227.49
病院公舎（２棟）	（売却）平成21.12	〃	227.49	連取町　建物2棟売却
病院本館	（改築）平成10. 3	鉄骨・鉄筋コンクリート造10階建	36,443.70	
〃	（改修）平成12. 7			4階病棟を一部人間ドッグ室に改修
〃	（増築）平成16. 3	鉄骨・鉄筋コンクリート造	605.68	１階から３階増築
〃	（増築）平成19. 3	鉄骨・鉄筋コンクリート造	595.99	集中治療室増改修他
〃	（増築）平成21. 8	鉄骨・鉄筋コンクリート造	1,622.12	がん診療総合センター棟増築
〃	（改修）平成26. 3			4階病棟を一部腎センターに改修
〃	（改修）平成28. 3			1階入退院支援センターを改修
倉　庫	（増築）平成10. 10	軽量鉄骨プレハブ造平家建	32.76	
〃	（増築）平成20. 1	〃	144.59	
透析排水処理槽棟	（増築）平成11. 2	鉄筋コンクリート造平家建	16.67	（構築物）
車　庫	（移設）平成10.10	軽量鉄骨プレハブ造平家建	77.23	
レストラン棟	（増築）平成11. 8	鉄骨造平家建	252.45	
渡り廊下	（増築）平成11. 9	〃	162.54	
キャノピー（大）	（増築）平成11. 9	〃	486.00	
〃　　（小）	（増築）平成11. 9	〃	17.50	
自転車置場（本館南）	（増築）平成11. 9	〃	53.82	がん診療総合センター棟増築の為撤去
〃　（本館北）	（増築）平成11.12	軽量鉄骨造	25.36	
〃　（本館西）	（増築）平成21. 8	〃	49.01	

（３） 設　　備　（令和２年度 購入分）

①医療機器購入一覧表（5,000 千円以上）

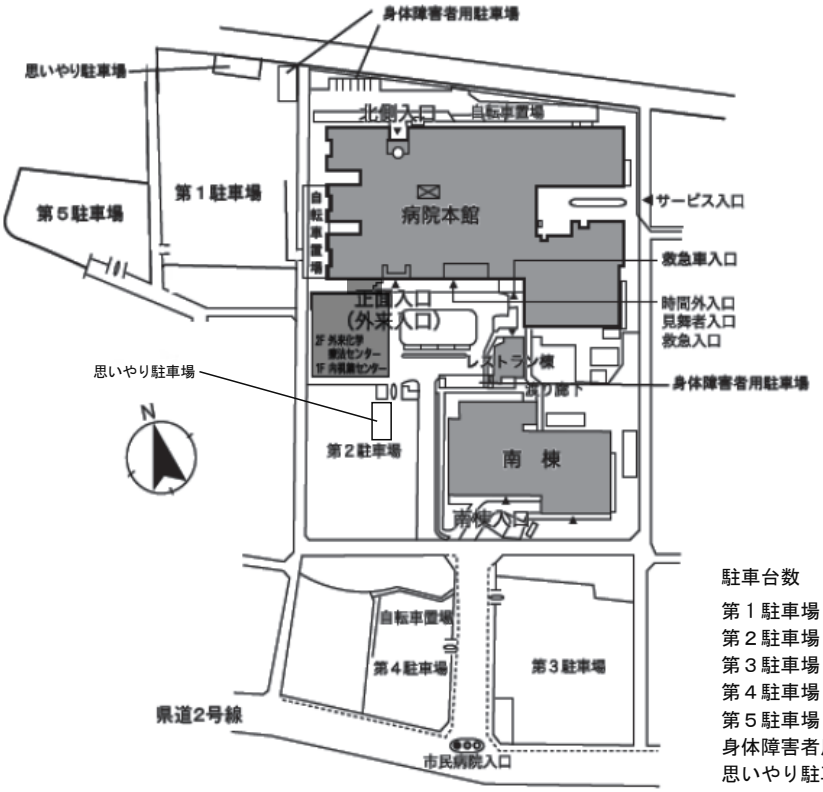
医 療 機 器 名	製 造 会 社	規　　格	数 量
病理検体印字システム	松波硝子工業㈱		１式
全身麻酔器	GE ヘルスケア・ジャパン㈱	CARESTATION　CS650　Pro	１式
全自動化学発光酵素免疫測定システム	富士レビオ㈱	ルミパルス R　G1200　Plus	１式
高周波手術装置（電気メス FT10）	コヴィディエンジャパン㈱	FT10	１式
生理検査システム（脳神経）	日本光電工業㈱	VitaPlus	１式
気管支鏡システム	オリンパス㈱	VISERA ELITE OTV-S190	１式
血液浄化装置	東レ・メディカル㈱	TR55X-Ⅱ	１式
個人用多用途透析装置	日機装㈱	DBB-200Si	１式
手術台システム	ミズホ㈱	MOT-VS600Dj18-600-10	１式
人工呼吸器	ﾄﾞﾚｰｹﾞﾙ･ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱	Evita　V300	２式
回診車 X 線撮影装置	㈱日立製作所	Sirius Starmobile tiara	１台
体外式膜型人工肺	泉工医科工業㈱		１式
汎用超音波画像診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン㈱	Venue　R2.5	１式
電動リモートコントロールベッド	パラマウントベッド㈱		１式
臨床用ポリグラフ	フクダ電子㈱	CL-2000L	１式
ベッドサイドモニタ	日本光電工業㈱		１式

(4)建 物 配 置 図
（令和3年3月現在）

病　院　本　館

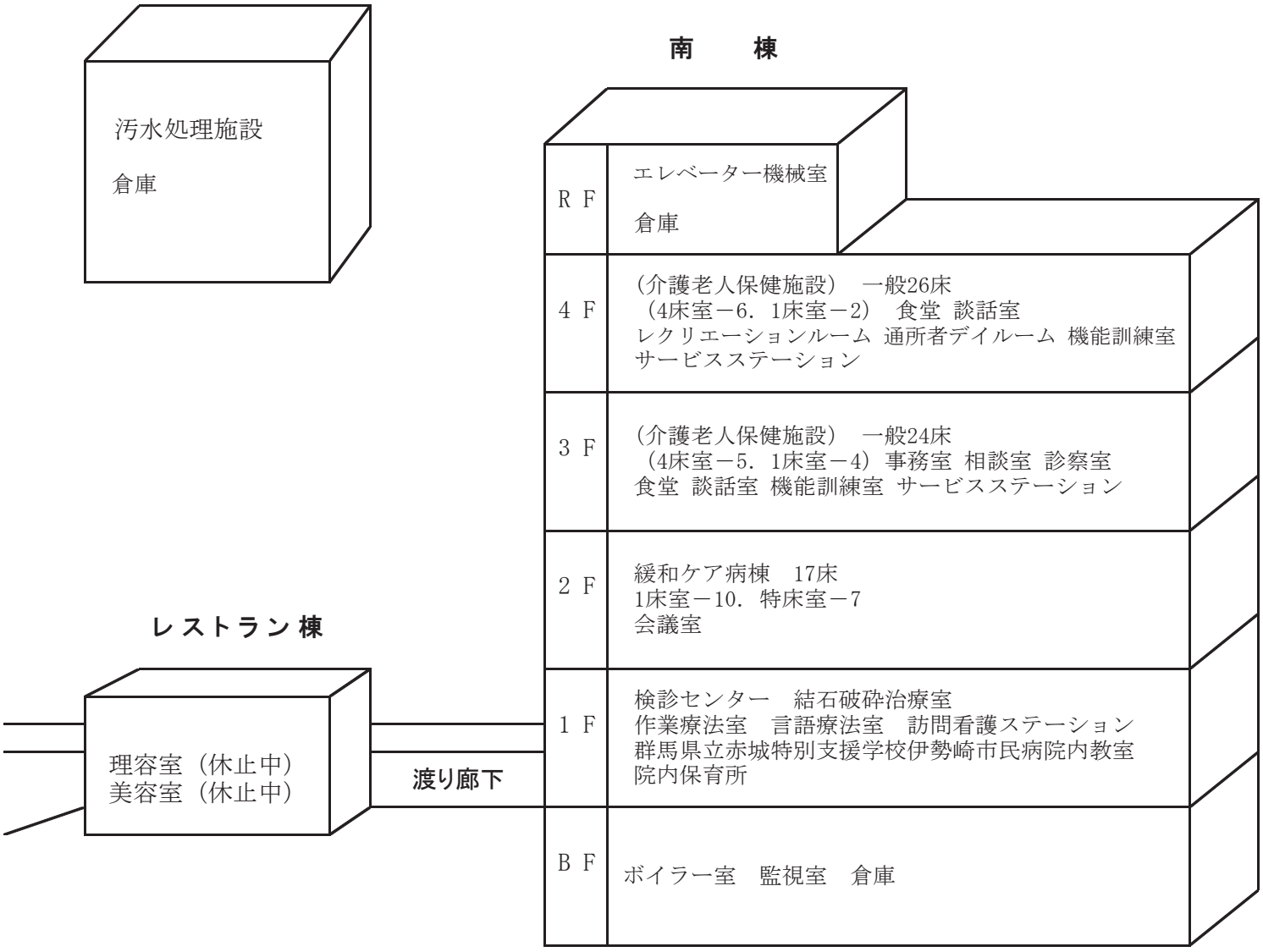
		ヘリポート エレベーター機械室 倉庫
	10 F	大会議室　　中会議室　　小会議室　　空調機械室
	9 F	A病棟　50床 （4床室－10．1床室－5．1床室HCU－3．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－10．1床室－4．1床室HCU－4．特床室－2）
	8 F	A病棟　46床　処置室 （4床室－9．1床室－5．1床室HCU－3．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－10．1床室－4．1床室HCU－4．特床室－2）
	7 F	A病棟　48床 （4床室－9．2床室－1．1床室－5．1床室HCU－3．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－10．1床室－8．特床室－2）
	6 F	A病棟　48床 （4床室－9．1床室－4．2床室HCU－1．1床室HCU－4．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－9．3床室－1．1床室－9．1床室HCU－1．特床室－1）
	5 F	A病棟　31床　ﾌﾟﾚｲﾙｰﾑ　指導室　多目的室 （3床室－2．未熟児室－7床．2床室－2．1床室－13．1床室HCU－1） B病棟　42床　機材室 （4床室－9．1床室－5．特床室－1）陣痛室　分娩室　新生児室
	4 F	A病棟　4床 感染症（1床室－4）　腎センター（人工透析室） 空調機械室
	3 F	手術室 ICU　8床 ME室 病理検査室 電顕室 医療部 医療部管理室 研究会室 図書資料室 講義室 会議室 医療安全管理室
2 F	外来化学療法センター 相談支援センター がんサロン「オアシス」	2 F 麻酔科 外科 耳鼻いんこう科 皮膚科 小児科 歯科口腔外科 産婦人科 緩和ケア内科 中央処置室　生理・検体検査室　薬剤部　中央材料室　ベッドセンター 医療サービス課　電話交換室　職員厚生室　共済会室　会議室　治験管理室 病院事業管理者室　病院長室　副院長室　経営企画部長室　看護部長室　専門委員室 管理事務室　物流倉庫　物流管理室　リネン庫　エネルギーセンター 電気室
1 F	内視鏡センター 内視鏡内科	1 F 整形外科 泌尿器科 放射線診断科 放射線治療科 内科 循環器内科 心臓血管外科 神経内科 眼科 精神科（心療内科）脳神経外科 リハビリテーション科 中央処置室 救急処置室 中央放射線科 一般検査室 入退院支援センター 調剤室 栄養指導室 医療サービス課 地域医療連携室 栄養科 警備員室兼防災センター 解剖室 売店 コンビニエンスストア ATM　エントランスホール

渡り廊下



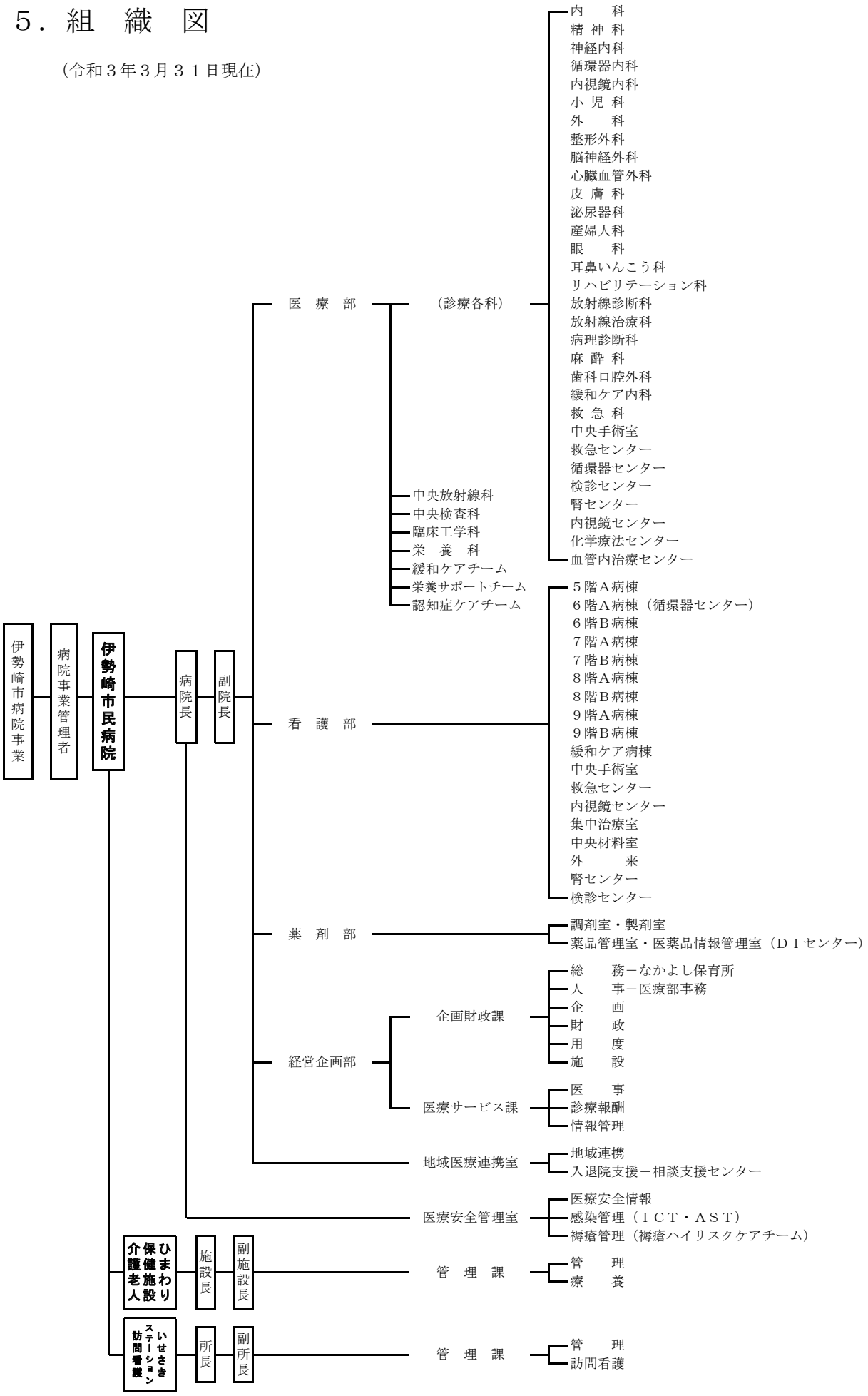
駐車台数

第１駐車場	１７７台
第２駐車場	１０３台
第３駐車場	１５８台
第４駐車場	６２台
第５駐車場	８１台
身体障害者用	１６台
思いやり駐車場	１６台



５．組　織　図

（令和３年３月３１日現在）



6．職員の現況

（1）職員数の現況

①職員数の年度別推移（職員数は各年度末の人数）

職種別		年度	28		29		30		元		2	
			常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医療部	医師		94	27	88	20	97	17	98	22	98	26
	歯科医師		1	0	2	0	2	0	2	0	3	0
	事務員		1	2	1	2	1	2	1	3	2	2
	計		96	29	91	22	100	19	101	25	103	28
看護部門	保健師		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	助産師		23	1	21	2	21	2	22	2	20	2
	看護師		447	41	450	41	457	40	450	34	442	39
	准看護師		1	2	1	2	1	2	0	2	0	1
	看護助手		3	28	3	29	2	28	0	26	0	27
	事務員他		1	4	1	3	1	3	3	2	2	2
	計		477	76	478	77	484	75	477	66	466	71
専任	緩和ケアチーム		1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
	医療安全管理室		4	2	4	2	4	2	4	1	5	1
	地域医療連携室	看護師	8	3	7	2	9	3	9	3	7	3
		事務員	3	5	3	5	3	4	3	8	3	9
		社会福祉士	5	2	6	1	6	1	6	1	8	1
	計		21	12	21	10	23	10	23	13	24	14
技術部門	放射線	診療放射線技師	22	2	21	1	22	1	22	1	23	1
	検査	臨床検査技師	25	9	25	10	27	9	26	12	25	13
		事務員	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
	リハビリテーション	理学療法士	13	0	13	0	13	0	14	0	14	0
		作業療法士	6	0	6	0	6	0	6	0	6	0
		言語聴覚士	4	0	5	0	5	0	5	0	5	0
		事務員	0	3	0	3	0	3	0	3	0	3
	薬剤部	薬剤師	23	1	22	1	25	1	27	1	28	1
		事務員	0	5	0	5	0	5	0	5	0	5
	眼科	視能訓練士	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	歯科	歯科衛生士	1	2	2	1	3	1	3	0	3	0
	臨床工学技士		10	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	臨床心理士		1	0	1	1	1	0	1	1	1	0
	栄養	栄養士	8	0	7	5	7	5	8	4	9	4
		調理師	4	0	4	0	3	0	2	0	2	1
		事務員	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	計		119	25	118	30	124	27	126	29	128	30
事務部門	経営企画部長		1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
	経営企画副部長		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	企画財政課	事務員	21	5	21	7	21	7	21	7	22	8
		技師	7	0	7	0	7	0	7	0	7	0
		保育士	1	5	1	5	1	5	2	5	2	4
	医療サービス課	事務員	11	40	11	42	10	41	10	42	9	42
		診療情報管理士	4	0	4	0	5	0	5	0	6	0
		看護師	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	計		46	50	45	54	46	53	47	54	47	54
合計			759	192	753	193	777	184	774	187	768	197

※非常勤については、会計年度任用職員を含む。

（２）主要役職員の現況

役　職　名	氏　　名	摘　　要
伊勢崎市長	臂　　泰　雄	
伊勢崎市病院事業管理者	小　林　幹　男	
伊勢崎市民病院長	小　林　裕　幸	
副院長兼麻酔科部長兼中央手術室長	吉　川　大　輔	
副院長兼小児科部長兼 医療安全管理室長	前　田　昇　三	
副院長兼心臓血管外科部長兼循環器病センター長兼集中治療室長	大　林　民　幸	
副院長兼経営企画部長	大　和　克　弘	
医療部長兼泌尿器科主任診療部長兼腎センター長	竹　澤　　豊	
看護部長	木　村　恭　子	
薬剤部長	大　和　由美子	
訪問看護ステーションいせさき所長	登　山　寿美江	
○伊勢崎市民病院		
病院長	小　林　裕　幸	（内科）
副院長兼麻酔科部長	吉　川　大　輔	（中央手術室長兼務） （地域医療連携担当医師兼務）
副院長兼小児科部長	前　田　昇　三	（医療安全管理室長兼務）
副院長兼心臓血管外科部長	大　林　民　幸	（循環器病センター長兼務） （集中治療室長兼務）
◇医　療　部		
医療部長兼泌尿器科主任診療部長	竹　澤　　豊	（腎センター長兼務）
医療副部長兼皮膚科主任診療部長	田　村　敦　志	
医療副部長兼麻酔科主任診療部長	富　田　行　成	（臨床工学科長兼務） （集中治療室長補佐兼務）
診療部長	田　中　司玄文	（介護老人保健施設副施設長兼務）
内　科		
主任診療部長	石　原　真　一	（化学療法センター長兼務） （介護老人保健施設療養係兼務）
診療部長	細　井　康　博	（栄養サポートチーム担当兼務） （介護老人保健施設療養係兼務）
診療部長	大　谷　健　一	（研修医教育担当兼務） （介護老人保健施設療養係兼務）
診療部長	増　尾　貴　成	
診療部長	中　林　利　博	（検診センター長兼務）
神経内科		
主任診療部長	櫻　井　篤　志	（リハビリテーション科長兼務）
循環器内科		
主任診療部長	樋　口　京　介	
診療部長	髙　松　寛　人	
小　児　科		
主任診療部長	髙　野　洋　子	

役　職　名	氏　　名	摘　　要
外　科		
主任診療部長	保　田　尚　邦	
診療部長	富　澤　直　樹	（栄養科長兼務） （栄養サポートチーム長兼務）
診療部長	鈴　木　秀　樹	
診療部長	片　山　和　久	
診療部長	大　澤　秀　信	
診療部長	菅　野　雅　之	
診療部長	諸　原　浩　二	
診療部長	家　田　敬　輔	
整形外科		
主任診療部長	田　中　宏　志	（リハビリテーション担当医師兼務）
診療部長	飯　塚　　伯	
診療部長	割　田　敏　朗	
診療部長	小　林　亮　一	
心臓血管外科		
主任診療部長	大　木　　聡	
診療部長	安　原　清　光	（血管内治療センター長兼務） （医師事務作業補助チーム担当医師）
診療部長	小此木　修　一	
皮　膚　科		
診療部長	長谷川　道　子	（介護老人保健施設療養係兼務）
泌尿器科		
診療部長	齋　藤　佳　隆	
診療部長	悦　永　　徹	
診療部長	牧　野　武　朗	
産婦人科		
主任診療部長	狩　野　　智	
耳鼻いんこう科		
主任診療部長	川　田　倫　之	
放射線診断科		
主任診療部長	市　川　智　章	
主任診療部長	徳　永　真　理	
放射線治療科		
主任診療部長	樋　口　啓　子	
病理診断科		
医　長	髙　山　佳　泰	
麻　酔　科		
診療部長	安　齋　　健	
歯科口腔外科		
主任診療部長	五　味　暁　憲	
緩和ケア内科		
主任診療部長	押　本　直　子	
診療部長	廣　野　正　法	

役　職　名	氏　　名	摘　　要
救　急　科		
主任診療部長	鈴　木　一　也	（救急センター長）
中央手術室		
室長（兼）	吉　川　大　輔	（副院長兼麻酔科部長）
救急センター		
センター長（兼）	鈴　木　一　也	（救急科主任診療部長）
検診センター		
センター長（兼）	中　林　利　博	（内科診療部長）
腎センター		
センター長（兼）	竹　澤　　豊	（医療部長兼泌尿器科主任診療部長）
化学療法センター		
センター長（兼）	石　原　真　一	（内科主任診療部長）
診療部長	吉　田　武　史	
◇リハビリテーション科		
科　長（兼）	櫻　井　篤　志	（神経内科主任診療部長）
技師長	丸　橋　俊　弘	
技師長補佐	後　藤　雄　一	
係　長	西　田　和　生	
係　長	松　井　道　浩	
◇中央放射線科		
技師長	武　田　　久	
技師長補佐	尾　池　真　弓	
係　長	高　橋　雅　彦	
係　長	杉　山　和　代	
係　長	高　木　信　樹	
◇中央検査科		
技師長	松　島　秀　子	
技師長補佐	荒　木　和　也	
係　長	新　保　千　春	
係　長	高　木　すづ江	
◇臨床工学科		
科　長（兼）	富　田　行　成	（医療副部長） （麻酔科主任診療部長）
◇栄　養　科		
科　長（兼）	富　澤　直　樹	（外科診療部長）
◇看　護　部		
看護部長	木　村　恭　子	
看護副部長	中　村　小枝子	
看護副部長	新　井　友　子	
看護副部長	金　井　靖　子	（８階Ａ病棟看護師長兼務）
看護師長	入　澤　のり子	

役　職　名	氏　　名	摘　　要
５階Ａ病棟		
看護師長	大　澤　里　美	
６階Ａ病棟		
看護師長	下　山　映　子	
６階Ｂ病棟		
看護師長	安　部　美和子	
７階Ａ病棟		
看護師長	高　橋　ひろみ	
７階Ｂ病棟		
看護師長	加　藤　久美子	
８階Ａ病棟		
看護師長	金　井　靖　子	（看護副部長）
８階Ｂ病棟		
看護師長	高　橋　美穂子	
９階Ａ病棟		
看護師長	福　島　加　代	
９階Ｂ病棟		
看護師長	長　岡　陽　子	
緩和ケア病棟		
看護師長	井　田　維世子	
中央手術室		
看護師長	岡　部　香　織	
救急センター		
看護師長	剣　持　いづみ	
内視鏡センター		
看護師長	天　田　寿　江	
集中治療室		
看護師長	荒　牧　敦　子	
中央材料室		
看護師長	岡　部　香　織	（中央手術室看護師長兼務）
外　来		
看護師長	須　永　知香子	
腎センター		
看護師長	新　井　静　江	
検診センター		
看護師長	小　暮　志　保	
◇薬　剤　部		
薬剤部長	大　和　由美子	
薬剤副部長	名　坂　輝　子	
薬剤副部長	下　城　正　明	（介護老人保健施設療養係兼務）
係　長	栗　原　康　弘	（介護老人保健施設療養係兼務）
係　長	須　永　美千代	（介護老人保健施設療養係兼務）

役　職　名	氏　　名	摘　　要
◇経営企画部		
副院長兼経営企画部長	大　和　克　弘	
企画財政課		
課　長	小 此 木　　聡	（介護老人保健施設管理課長兼務） （訪問看護ステーション管理課長兼務）
総務係長	茂　木　　潤	
総務係長	高　木　貴　子	
総務係長	井　野　登美子	
人事係長	茂　木　　淳	
企画係長	桑　名　隆　毅	
企画係長	大　月　　剛	
財政係長	高　柳　哲　也	
用度係長	須　永　裕　明	
施設係長	深　町　俊　介	
施設係長	田　村　泰　男	
医療サービス課		
課　長	松　原　弘　和	
医事係長	西　巻　雅　浩	
医事係長	井　野　香代子	
診療報酬係長	小　島　崇　史	
情報管理係長	須　斎　暁　男	
◇地域医療連携室		
室　長	大　下　洋　美	
地域連携係長	大　和　恭　子	
入退院支援係長	髙　橋　博　明	
◇医療安全管理室		
室　長（兼）	前　田　昇　三	（副院長兼小児科部長）
室長補佐	塚　原　みどり	
医療安全情報係長	石　原　恵美子	
感染管理係長	後　藤　　恵	
○介護老人保健施設ひまわり		
施設長	小　林　幹　男	
副施設長	田　中　司玄文	（診療部長兼務）
管理課		
課　長（兼）	小 此 木　　聡	（経営企画部企画財政課長兼務）
管理係長	長　沼　龍　司	
療養係看護師長	飯　塚　敦　子	
○訪問看護ステーションいせさき		
所　長	登　山　寿美江	
管理課		
課　長（兼）	小 此 木　　聡	（経営企画部企画財政課長兼務）

Ⅱ　業 務 統 計

Ⅱ 業 務 統 計

1．医 事 統 計

（1）入院・外来患者の状況

①診療科別入院患者数

（単位 人）

年度	区分 \ 科別	内科	精神科	神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科	合計	1日平均	前年比%
28	患者数	54,654	0	1,316	9,091	8,572	14,227	15,753	11,052	8,846	1,747	11,687	9,647	357	4,118	3	16	4,044	222	504	155,856	427.0	103.0
	1日平均	149.7	0	3.6	24.9	23.5	39.0	43.2	30.3	24.2	4.8	32.0	26.4	1.0	11.3	0	0	11.1	0.6	1.4			
29	患者数	50,708	0	4,403	10,538	8,372	14,920	15,198	6,023	9,072	1,412	12,387	8,868	326	3,236	0	4	3,722	34	175	149,398	409.3	95.9
	1日平均	138.9	0	12.1	28.9	22.9	40.9	41.6	16.5	24.9	3.9	33.9	24.3	0.9	8.9	0	0	10.2	0.1	0.5			
30	患者数	50,597	0	6,335	8,938	7,817	16,303	15,773	3,470	8,797	2,672	11,829	7,326	285	3,802	0	2	4,384	122	421	148,873	407.9	99.7
	1日平均	138.6	0	17.4	24.5	21.4	44.7	43.2	9.5	24.1	7.3	32.4	20.1	0.8	10.4	0	0	12.0	0.3	1.2			
元	患者数	50,938	0	6,902	9,295	8,767	17,205	14,378	0	10,056	2,362	12,418	6,935	256	3,315	0	0	4,172	67	330	147,396	402.7	98.7
	1日平均	139.2	0	18.9	25.4	24.0	47.0	39.3	0	27.5	6.5	33.9	18.9	0.7	9.1	0	0	11.4	0.2	0.9			
2	患者数	48,206	0	4,480	10,705	4,562	14,143	12,654	0	8,105	2,135	11,077	6,295	205	2,404	0	1	4,307	264	387	129,930	356.0	88.4
	1日平均	132.1	0	12.3	29.3	12.5	38.7	34.7	0	22.2	5.8	30.3	17.2	0.6	6.6	0	0	11.8	0.7	1.1			

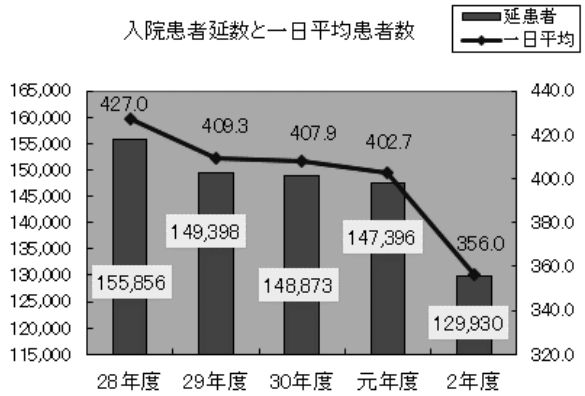
注1：退院数含む　注2：人間ドック除く

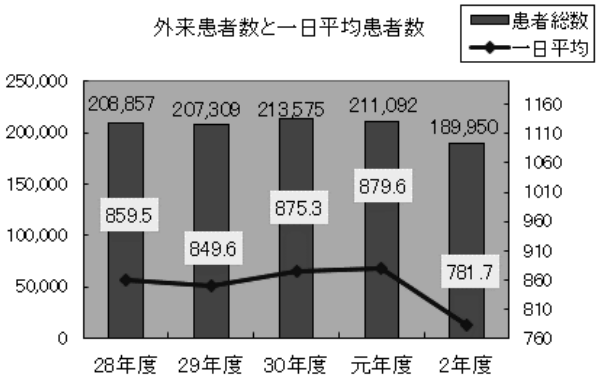
②診療科別外来患者数

（単位 人）

年度	区分 \ 科別	内科	精神科	神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科	合計	1日平均	前年比%
28	患者数	48,297	1,210	1,556	10,058	18,279	19,588	13,806	4,925	3,823	7,161	28,086	20,222	8,074	7,535	4,694	1,764	911	1,043	7,825	208,857	859.5	100.1
	1日平均	198.8	5.0	6.4	41.4	75.2	80.6	56.8	20.3	15.7	29.5	115.6	83.2	33.2	31.0	19.3	7.3	3.7	4.3	32.2			
29	患者数	48,200	383	2,637	9,159	18,987	20,450	13,346	4,245	4,710	7,068	28,265	19,856	7,571	7,767	4,034	1,732	600	782	7,517	207,309	849.6	98.8
	1日平均	197.5	1.6	10.8	37.5	77.8	83.8	54.7	17.4	19.3	29.0	115.8	81.4	31.0	31.8	16.5	7.1	2.5	3.2	30.8			
30	患者数	49,479	186	3,408	8,545	19,489	22,811	13,411	3,698	5,143	8,683	27,453	18,849	6,721	9,389	4,051	1,699	725	974	8,861	213,575	875.3	103.0
	1日平均	202.8	0.8	14.0	35.0	79.9	93.5	55.0	15.2	21.1	35.6	112.5	77.3	27.5	38.5	16.6	7.0	3.0	4.0	36.3			
元	患者数	50,076	138	3,866	8,048	19,465	24,382	12,885	2,258	5,230	8,493	27,389	18,083	4,609	9,258	3,711	1,566	758	991	9,886	211,092	879.6	100.5
	1日平均	208.7	0.6	16.1	33.5	81.1	101.6	53.7	9.4	21.8	35.4	114.1	75.3	19.2	38.6	15.5	6.5	3.2	4.1	41.2			
2	患者数	46,647	19	3,857	8,181	14,453	23,220	11,583	825	4,640	7,365	25,379	16,433	4,132	7,777	3,655	1,237	720	722	9,105	189,950	781.7	88.9
	1日平均	192.0	0.1	15.9	33.7	59.5	95.6	47.7	3.4	19.1	30.3	104.4	67.6	17.0	32.0	15.0	5.1	3.0	3.0	37.5			

③年度別グラフ





④月別入院患者数

（単位　人，%）

項目＼月別	2・4	5	6	7	8	9	10	11	12	3・1	2	3	計
対象病床数	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	－
前月繰越患者数	283	280	310	286	354	344	319	349	227	313	266	314	－
新入院患者数	811	734	857	879	981	997	1,011	978	947	1,008	856	1,058	11,117
退院患者数	867	737	827	903	913	1,007	1,036	948	1,069	922	903	1,010	11,142
入院患者延数	10,441	9,418	10,007	10,219	11,131	11,491	11,710	11,521	11,745	11,382	10,165	10,700	129,930
１日平均入院患者数	348.0	303.8	333.6	329.6	359.1	383.0	377.7	384.0	378.9	367.2	363.0	345.2	356.0
平均在院日数	12.2	12.0	11.5	11.2	11.5	11.2	11.3	11.8	11.4	11.7	11.4	10.3	11.4
病床利用率（延患者数）	70.5	61.5	67.5	66.7	72.7	77.5	76.5	77.7	76.7	74.3	73.5	69.9	72.1
病床利用率（24時現在）	64.6	56.7	61.9	60.8	66.7	70.7	69.7	71.3	69.7	68.3	67.0	63.3	65.9

※平均在院日数については計算対象としない患者を除いて算出した。

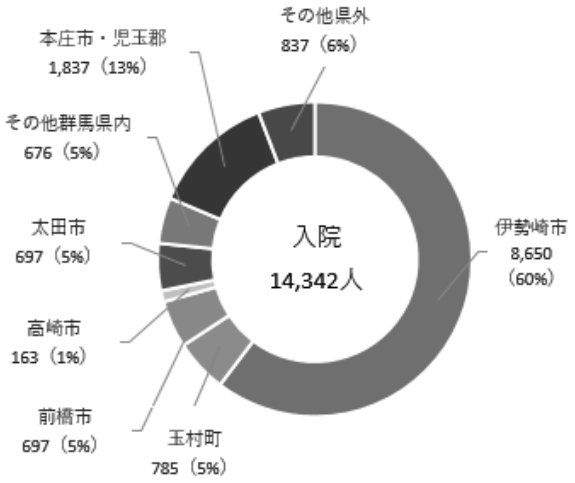
⑤月別外来患者数

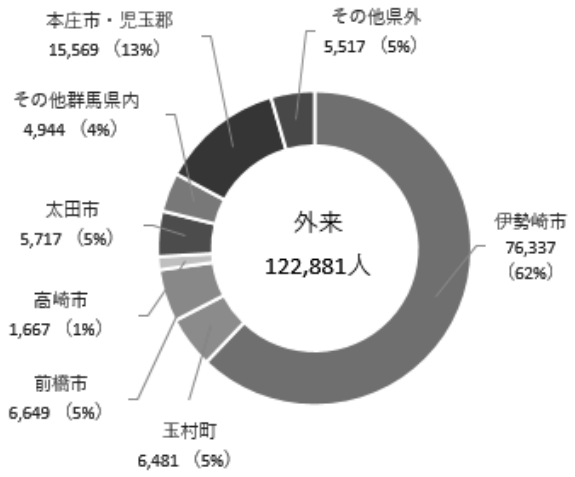
（単位　人，%）

項目＼月別		2・4	5	6	7	8	9	10	11	12	3・1	2	3	計
外来患者延数		13,658	12,766	15,828	16,559	15,852	16,501	17,273	15,927	16,661	15,579	14,737	18,609	189,950
１日平均外来患者数		650.4	709.2	719.5	788.5	792.6	825.1	785.1	838.3	833.1	819.9	818.7	809.1	781.7
新来患者数		1,099	1,111	1,504	1,694	1,659	1,690	1,732	1,557	1,478	1,337	1,166	1,598	17,625
再来患者数		12,559	11,655	14,324	14,865	14,193	14,811	15,541	14,370	15,183	14,242	13,571	17,011	172,325
１日外来患者数	最高	739	812	806	887	918	950	894	945	901	902	989	912	－
	最低	485	613	603	598	642	683	666	689	702	694	662	660	－
新来比		8.0	8.7	9.5	10.2	10.5	10.2	10.0	9.8	8.9	8.6	7.9	8.6	9.3
外来／入院比（患者数）		1.9	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2

※新来比　＝　新来患者数／外来患者延数×100

⑥地区別患者数（実数）





⑦セカンドオピニオン外来患者数

（単位　人）

年度	28	29	30	元	2
患者数	14	12	14	11	8

（２）病床利用率・平均在院日数

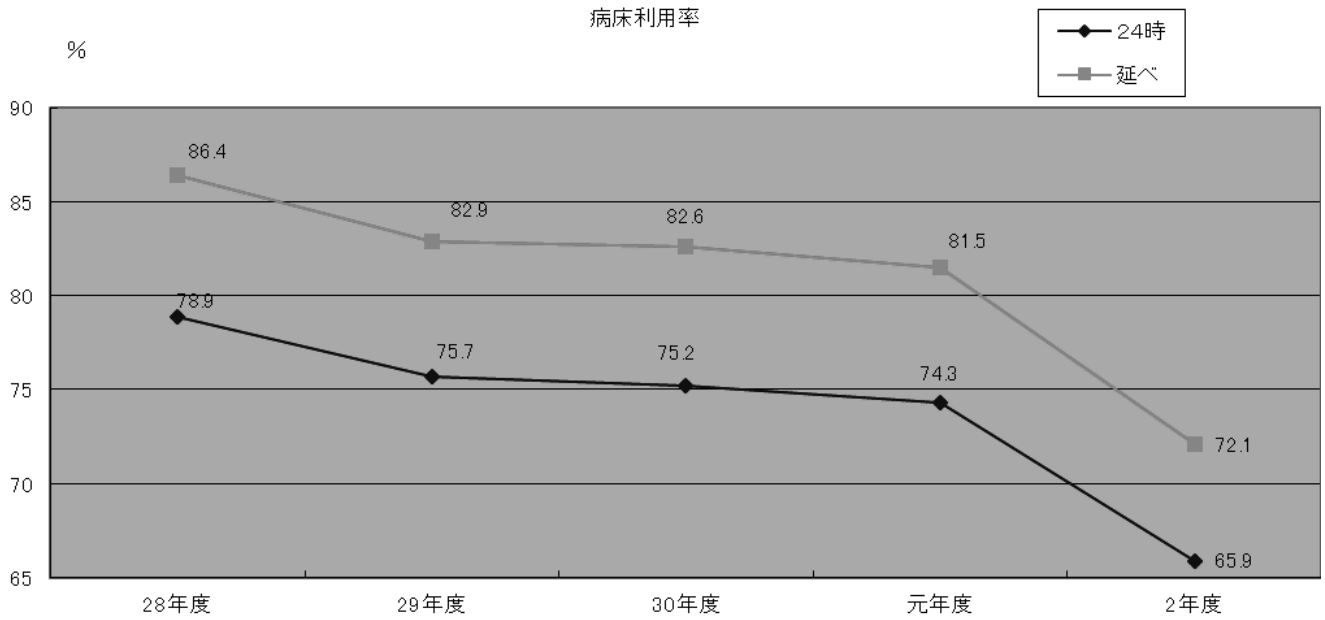
①病床利用率

（ア）病　棟　別

※令和３年３月 31 日現在

病棟別	病床数	１日平均（人）（２４時現在）	利用率（%）		摘　　要
			２４時現在	延べ	
４Ａ	4	0	0	0	感染症
５Ａ	31	15.0	43.0	51.5	小児科
５Ｂ	42	19.7	46.8	54.0	産婦人科・外科（乳腺）・泌尿器科（女性）
６Ａ	48	41.8	87.1	93.4	循環器内科・心臓血管外科
６Ｂ	50	38.3	76.6	82.2	整形外科・皮膚科・歯科口腔外科
７Ａ	48	28.4	59.2	66.4	内科・神経内科・眼科・耳鼻いんこう科
７Ｂ	50	8.4	16.7	18.0	内科
８Ａ	46	36.6	79.6	86.8	泌尿器科・内科
８Ｂ	50	39.6	79.1	84.5	内科
９Ａ	50	39.9	79.8	87.7	外科・内科
９Ｂ	50	41.2	82.4	90.1	内科
緩和病棟	17	11.0	65.0	69.4	
ICU	8	5.5	69.2	70.8	
計	494	325.4	65.9	72.1	

（イ）推移グラフ



②平均在院日数

診 療 科 別

（単位　日）

年度 / 診療科	28	29	30	元	2
内科	11.8	12.1	11.5	11.7	12.4
精神科	―	―	―	―	―
神経内科	15.4	22.5	22.0	24.2	22.5
循環器内科	10.4	11.4	11.4	10.6	12.2
小児科	5.6	5.9	5.3	5.7	7.4
外科	11.4	11.7	12.4	12.1	11.3
整形外科	19.6	19.9	20.0	18.6	17.7
脳神経外科	26.9	27.3	31.6	―	―
心臓血管外科	17.8	15.5	16.2	19.6	19.9
皮膚科	9.0	8.9	9.8	8.9	9.6
泌尿器科	7.8	7.9	7.3	8.5	7.4
産婦人科	8.1	9.1	9.0	9.2	8.5
眼科	2.2	2.0	1.7	5.3	1.6
耳鼻いんこう科	5.2	4.8	5.3	5.1	4.9
放射線科	2.0	―	-	―	―
麻酔科	0.8	0.3	1.0	―	―
緩和ケア内科	14.7	16.6	18.2	17.3	17.1
救急科	5.2	1.8	5.6	2.6	7.9
歯科口腔外科	9.5	4.5	2.6	2.4	2.4
合計	11.1	11.3	11.0	11.1	11.4

$$＊平均在院日数＝\frac{在院患者延数}{1／2（入院患者数＋退院患者数）}$$

（3）診療点数・診療収益の状況

①各科診療実績

（ア）入院・外来収益

（単位　千円，%）

診療科＼年度		28		29		30		元		2	
		収益	前年比	収益	前年比	収益	前年比	収益	前年比	収益	前年比
入院	内科	2,427,592	108.2	2,305,672	95.0	2,419,470	104.9	2,459,222	101.6	2,361,844	96.0
	精神科	0	―	0	―	0	－	0	－	0	－
	神経内科	57,050	―	195,437	342.6	278,199	142.3	301,560	108.3	192,860	64.0
	循環器内科	655,632	103.4	715,359	109.1	595,854	83.3	667,108	112.0	798,865	119.8
	小児科	493,786	113.7	504,578	102.2	482,462	95.6	536,249	111.1	301,283	56.2
	外科	1,063,137	95.6	1,117,107	105.1	1,269,635	113.7	1,364,112	107.4	1,193,826	87.5
	整形外科	937,200	109.4	878,545	93.7	1,058,922	120.5	1,096,991	103.6	991,793	90.4
	脳神経外科	460,324	89.2	233,563	50.7	133,697	57.2	0	－	0	－
	心臓血管外科	1,234,268	93.7	1,494,327	121.1	1,504,263	100.7	1,522,339	101.2	1,406,747	92.4
	皮膚科	69,305	105.4	58,648	84.6	110,144	187.8	103,004	93.5	94,799	92.0
	泌尿器科	888,705	99.5	942,635	106.1	954,475	101.3	965,210	101.1	881,569	91.3
	産婦人科	608,932	92.9	563,371	92.5	495,644	88.0	470,190	94.9	457,763	97.4
	眼科	28,536	50.5	26,801	93.9	22,920	85.5	21,112	92.1	17,596	83.3
	耳鼻いんこう科	246,312	103.5	213,135	86.5	234,078	109.8	229,185	97.9	173,427	75.7
	放射線科	268	―	0	―	0	－	0	－	0	－
	麻酔科	793	38.9	287	36.2	85	29.6	0	皆減	48	皆増
	緩和ケア内科	206,122	112.8	186,097	90.3	229,585	123.4	225,939	98.4	227,937	100.9
	救急科	10,952	59.9	2,645	24.2	7,878	297.8	5,502	69.8	14,378	261.3
	歯科口腔外科	21,678	125.0	9,854	45.5	28,796	292.2	22,157	76.9	29,484	133.0
	合計	9,410,592	101.8	9,448,061	100.4	9,826,107	104.0	9,989,881	101.7	9,144,219	91.5
外来	内科	1,344308	94.6	1,237,630	92.1	1401, 418	113.2	1,415,602	101.0	1,272,971	89.9
	精神科	5,922	82.7	1,834	31.0	845	46.1	581	68.8	90	15.5
	神経内科	33,929	120.3	44,195	130.3	50,338	113.9	49,332	98.0	56,379	114.3
	循環器内科	99,486	89.8	97,191	97.7	91,509	94.2	87,591	95.7	100,278	114.5
	小児科	146,414	95.3	152,552	104.2	155,757	102.1	159,806	102.6	129,993	81.3
	外科	558,297	93.3	655,206	117.4	644,984	98.4	745,487	115.6	737,709	99.0
	整形外科	114,079	121.6	103,217	90.5	109,650	106.2	106,977	97.6	101,551	94.9
	脳神経外科	43,925	95.2	33,115	75.4	29,969	90.5	16,697	55.7	9,919	59.4
	心臓血管外科	50,568	111.5	64,420	127.4	71,360	110.8	70,760	99.2	63,928	90.3
	皮膚科	49,891	113.4	52,244	104.7	72,316	138.4	71,176	98.4	75,617	106.2
	泌尿器科	972,468	100.8	1,054,495	108.4	1,045,198	99.1	1,159,807	111.0	1,168,636	100.8
	産婦人科	184,435	85.9	179,487	97.3	172,422	96.1	173,965	100.9	164,022	94.3
	眼科	113,876	108.6	132,295	116.2	137,105	103.6	129,649	94.6	118,152	91.1
	耳鼻いんこう科	65,826	109.4	60,496	91.9	76,034	125.7	69,416	91.3	62,085	89.4
	放射線科	113,170	101.9	125,312	110.7	117,630	93.9	99,234	84.4	114,133	115.0
	麻酔科	8,869	92.1	10,259	115.7	10,873	106.0	7,605	69.9	6,094	80.1
	緩和ケア内科	7,287	93.4	3,787	52.0	4,722	124.7	4,740	100.4	4,437	93.6
	救急科	20,362	117.7	14,369	70.6	20,016	139.3	21,043	105.1	14,787	70.3
	歯科口腔外科	31,103	97.9	31,551	101.4	47,173	149.5	52,182	110.6	52,353	100.3
	合計	3,964,215	97.4	4,053,655	102.3	4,259,319	105.1	4,441,653	104.3	4,253,134	95.8
合計		13,374,807	100.5	13,501,716	100.9	14,085,426	104.3	14,431,530	102.5	13,397,353	92.8

（イ）年度別・診療科別一人一日当たり診療点数（入院・外来）　　（単位　点, %）

診療科	年度	28		29		30		元		2	
		1日1人当り点数	前年比%	1日1人当り点数	前年比%	1日1人当り点数	前年比%	1日1人当り点数	前年比%	1日1人当り点数	前年比%
入院	内科	4,441.7	101.5	4,547.0	102.4	4,781.8	105.2	4,827.9	101.0	4,899.5	101.5
	精神科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
	神経内科	4,335.1	皆増	4,438.7	102.4	4,391.5	98.9	4,369.2	99.5	4,304.9	98.5
	循環器内科	7,211.9	104.5	6,788.4	94.1	6,666.5	98.2	7,177.1	107.7	7,462.5	104.0
	小児科	5,760.5	112.4	6,027.0	104.6	6,172.0	102.4	6,116.7	99.1	6,604.2	108.0
	外科	7,472.7	104.3	7,487.3	100.2	7,787.7	104.0	7,928.6	101.8	8,441.1	106.5
	整形外科	5,949.3	101.5	5,780.7	97.2	6,713.5	116.1	7,629.6	113.6	7,837.8	102.7
	脳神経外科	4,165.1	90.7	3,877.9	93.1	3,852.9	99.4	0	皆減	0	－
	心臓血管外科	13,952.8	89.1	16,471.9	118.1	17,099.7	103.8	15,138.6	88.5	17,356.5	114.7
	皮膚科	3,967.1	100.3	4,153.5	104.7	4,122.1	99.2	4,360.9	105.8	4,440.3	101.8
	泌尿器科	7,604.2	106.1	7,609.9	100.1	8,068.9	106.0	7,772.7	96.3	7,958.6	102.4
	産婦人科	6,312.1	98.1	6,352.8	100.6	6,765.6	106.5	6,780.0	100.2	7,271.9	107.3
	眼科	7,993.3	87.1	8,221.2	102.9	8,042.2	97.8	8,247.0	102.5	8,583.5	104.1
	耳鼻いんこう科	5,981.4	95.2	6,586.4	110.1	6,156.7	93.5	6,913.6	112.3	7,214.1	104.3
	放射線科	8,933.3	－	0	皆減	0	－	0	－	0	－
	麻酔科	4,956.3	70.4	7,182.0	145.0	4,236.5	59.0	0	皆減	4,815.0	皆増
	緩和ケア内科	5,097.0	102.5	4,999.9	98.1	5,236.9	104.7	5,415.6	103.4	5,292.3	97.7
	救急科	4,933.3	81.7	7,779.6	157.7	6,457.5	83.0	8,212.5	127.2	5,446.3	66.3
	歯科口腔外科	4,301.2	108.2	5,631.1	130.9	6,839.8	121.5	6,714.2	98.2	7,618.5	113.5
	平均	6,038.0	99.1	6,324.1	104.7	6,600.3	104.4	6,777.6	102.7	7,037.8	103.8
外来	内科	2,783.4	93.1	2,567.7	92.3	2,832.3	110.3	2,826.9	99.8	2,728.9	96.5
	精神科	489.4	100.8	478.9	97.9	454.5	94.9	421.3	92.7	471.9	112.0
	神経内科	2,180.5	69.7	1,676.0	76.9	1,477.0	88.1	1,276.1	86.4	1,461.7	114.5
	循環器内科	989.1	87.5	1,061.1	107.3	1,070.9	100.9	1,088.4	101.6	1,225.7	112.6
	小児科	801.0	97.4	803.5	100.3	799.2	99.5	821.0	102.7	899.4	109.5
	外科	2,850.2	95.8	3,203.9	112.4	2,827.5	88.3	3,057.5	108.1	3,177.0	103.9
	整形外科	826.3	108.3	773.4	93.6	817.6	105.7	830.2	101.5	876.7	105.6
	脳神経外科	891.9	103.0	780.1	87.5	810.4	103.9	739.5	91.3	1,202.4	162.6
	心臓血管外科	1,322.7	103.1	1,367.7	103.4	1,387.5	101.4	1,353.0	97.5	1,377.8	101.8
	皮膚科	696.7	115.3	739.2	106.1	832.8	112.7	838.1	100.6	1,026.7	122.5
	泌尿器科	3,462.5	97.5	3,730.7	107.7	3,807.2	102.1	4,234.6	111.2	4,604.7	108.7
	産婦人科	912.1	97.3	903.9	99.1	914.8	101.2	962.0	105.2	998.1	103.8
	眼科	1,410.4	123.1	1,747.4	123.9	2,039.9	116.7	2,813.0	137.9	2,859.4	101.6
	耳鼻いんこう科	873.6	96.1	778.9	89.2	809.8	104.0	749.8	92.6	798.3	106.5
	放射線科	2,411.0	99.1	3,106.4	128.8	2,903.7	93.5	2,674.1	92.1	3,122.7	116.8
	麻酔科	502.8	92.5	592.3	117.8	640.0	108.1	485.6	75.9	492.6	101.4
	緩和ケア内科	799.9	95.9	631.2	78.9	651.3	103.2	625.3	96.0	616.3	98.6
	救急科	1,952.3	108.5	1,837.4	94.1	2,055.0	111.8	2,123.5	103.3	2,048.0	96.4
	歯科口腔外科	397.5	96.6	419.7	105.6	532.4	126.9	527.8	99.1	575.0	108.9
	平均	1,898.1	97.4	1,955.4	103.0	1,994.3	102.0	2,104.1	105.5	2,239.1	106.4

（4）救急患者の受入状況

①救急患者診療科別受入状況

（単位　人）

診療科＼年度	28			29			30			元			2		
	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計
内科	1,139	6,455	7,594	1,105	5,863	6,968	1,217	6,021	7,238	1,122	5,558	6,680	1,144	3,753	4,897
精神科	5	1	6	6	0	6	2	0	2	0	0	0	0	0	0
神経内科	33	3	36	74	46	120	83	80	163	73	72	145	50	44	94
循環器内科	165	112	277	177	119	296	135	142	277	152	372	524	203	194	397
小児科	121	3,087	3,208	124	3,026	3,150	164	2,782	2,946	172	2,825	2,997	75	917	992
外科	93	1,032	1,125	89	979	1,068	96	926	1,022	103	1,022	1,125	83	769	852
整形外科	206	993	1,199	175	987	1,162	138	1,083	1,221	173	978	1,151	154	680	834
脳神経外科	151	645	796	100	249	349	83	159	242	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	51	53	104	52	72	124	54	62	116	51	66	117	36	57	93
皮膚科	8	10	18	6	5	11	16	15	31	15	11	26	15	14	29
泌尿器科	53	407	460	70	495	565	65	475	540	67	521	588	72	327	399
産婦人科	33	660	693	28	575	603	20	636	656	29	562	591	24	445	469
眼科	2	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	62	55	117	50	63	113	38	57	95	27	42	69	37	31	68
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科	24	28	52	23	17	40	9	27	36	22	25	47	22	23	45
救急科	365	304	669	313	152	465	442	206	648	492	181	673	452	73	525
歯科口腔外科	8	12	20	3	10	13	0	21	21	2	11	13	5	15	20
合計	2,519	13,858	16,377	2,395	12,658	15,053	2,563	12,693	15,256	2,500	12,246	14,746	2,372	7,342	9,714

②救急車搬送患者年度別受入状況

（単位　人，%）

診療科＼年度	28		29		30		元		2	
	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	2,351	97.4	2,268	96.5	2,562	113.0	2,375	92.7	2,406	101.3
精神科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
神経内科	30	3,000.0	84	280.0	108	128.6	79	73.1	24	30.4
循環器内科	190	87.2	196	103.2	167	85.2	189	113.2	112	59.3
小児科	274	103.8	260	94.9	300	115.4	307	102.3	141	45.9
外科	276	79.1	295	106.9	308	104.4	283	91.9	210	74.2
整形外科	415	115.3	357	86.0	342	95.8	365	106.7	221	60.5
脳神経外科	353	76.7	183	51.8	131	71.6	0	皆減	0	－
心臓血管外科	89	106.0	103	115.7	91	88.4	88	96.7	60	68.2
皮膚科	6	54.5	3	50.0	13	433.4	8	61.5	4	50.0
泌尿器科	139	92.1	142	102.2	153	107.8	134	87.6	86	64.2
産婦人科	90	90.9	57	63.3	60	105.3	66	110.0	54	81.8
眼科	2	20.0	0	皆減	1	皆増	0	皆減	0	－
耳鼻いんこう科	76	84.4	61	80.3	45	73.8	35	77.8	28	80.0
放射線科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
麻酔科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
緩和ケア内科	45	104.7	34	75.6	29	85.3	33	113.8	22	66.7
救急科	441	122.5	364	82.5	509	139.9	536	105.3	516	96.3
歯科口腔外科	9	112.5	3	33.3	0	皆減	2	皆増	5	250.0
合計	4,786	97.2	4,410	92.1	4,819	109.3	4,500	93.4	3,889	86.4

（5）疾病統計

①疾病統計

（ア）疾病分類別・診療科別・性別・退院患者数 （期間 2020. 1. 1～12. 31）

（単位 人）

国際疾病大分類		退院患者数	内科	精神科	神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科
I. 感染症および寄生虫症	計	262	133	0	4	5	80	7	2	0	2	14	4	5	0	6	0	0	0	0	0
（Ａ００～Ｂ９９）	男	142	72	0	3	3	45	4	2	0	1	8	1	0	0	3	0	0	0	0	0
	女	120	61	0	1	2	35	3	0	0	1	6	3	5	0	3	0	0	0	0	0
II. 新生物	計	3,243	1,060	0	4	4	0	612	6	0	3	128	889	241	0	42	0	0	247	0	7
（Ｃ００～Ｄ４８）	男	2,065	737	0	2	2	0	293	3	0	3	75	775	0	0	27	0	0	144	0	4
	女	1,178	323	0	2	2	0	319	3	0	0	53	114	241	0	15	0	0	103	0	3
III. 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	計	89	37	0	1	4	19	12	0	0	3	0	4	9	0	0	0	0	0	0	0
（Ｄ５０～Ｄ８９）	男	47	18	0	0	3	12	7	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	42	19	0	1	1	7	5	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0
IV. 内分泌、栄養および代謝疾患	計	279	153	0	8	3	91	15	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0
（Ｅ００～Ｅ９０）	男	180	81	0	4	1	80	6	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	99	72	0	4	2	11	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
V. 精神および行動の障害	計	39	16	0	10	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
（Ｆ００～Ｆ９９）	男	20	7	0	7	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	19	9	0	3	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
VI. 神経系の疾患	計	135	14	0	86	2	13	1	9	0	0	0	1	0	0	8	0	0	0	1	0
（Ｇ００～Ｇ９９）	男	64	12	0	32	2	8	0	4	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
	女	71	2	0	54	0	5	1	5	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0
VII. 眼および付属器の疾患	計	71	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	66	0	0	0	0	0	0
（Ｈ００～Ｈ５９）	男	31	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0
	女	40	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0
VIII. 耳および乳様突起の疾患	計	89	7	0	20	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0
（Ｈ６０～Ｈ９５）	男	38	2	0	10	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0
	女	51	5	0	10	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0
IX. 循環器系の疾患	計	1,294	82	0	66	732	6	1	7	0	395	0	1	1	0	0	0	0	2	1	0
（Ｉ００～Ｉ９９）	男	835	50	0	33	485	2	0	6	0	256	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
	女	459	32	0	33	247	4	1	1	0	139	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
X. 呼吸器系の疾患	計	1,053	538	0	5	27	159	49	0	0	1	0	0	0	0	266	0	0	7	1	0
（Ｊ００～Ｊ９９）	男	681	349	0	4	18	84	40	0	0	1	0	0	0	0	180	0	0	4	1	0
	女	372	189	0	1	9	75	9	0	0	0	0	0	0	0	86	0	0	3	0	0
XI. 消化器系の疾患	計	1,925	1,302	0	6	4	8	500	1	0	5	0	6	2	0	3	0	0	1	1	86
（Ｋ００～Ｋ９３）	男	1,190	788	0	3	4	6	331	0	0	4	0	4	0	0	2	0	0	1	0	47
	女	735	514	0	3	0	2	169	1	0	1	0	2	2	0	1	0	0	0	1	39
XII. 皮膚および皮下組織の疾患	計	96	17	0	2	0	9	7	4	0	1	52	0	0	0	2	0	0	1	0	1
（Ｌ００～Ｌ９９）	男	47	8	0	2	0	4	2	2	0	1	27	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	49	9	0	0	0	5	5	2	0	0	25	0	0	0	2	0	0	0	0	1
XIII. 筋骨格系および結合組織の疾患	計	353	30	0	8	2	16	2	274	0	6	3	7	0	0	1	0	0	1	2	1
（Ｍ００～Ｍ９９）	男	130	12	0	1	0	9	1	96	0	2	1	5	0	0	1	0	0	1	1	0
	女	223	18	0	7	2	7	1	178	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	計	792	106	0	3	9	10	20	0	0	1	0	571	62	0	6	0	0	4	0	0
（Ｎ００～Ｎ９９）	男	404	40	0	2	4	5	5	0	0	0	0	340	0	0	5	0	0	3	0	0
	女	388	66	0	1	5	5	15	0	0	1	0	231	62	0	1	0	0	1	0	0
XV. 妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	計	417	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	413	0	0	0	0	0	0	0
（Ｏ００～Ｏ９９）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	417	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	413	0	0	0	0	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態	計	144	0	0	0	0	143	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
（Ｐ００～Ｐ９６）	男	84	0	0	0	0	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	60	0	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
XVII. 先天奇形、変形および染色体異常	計	35	3	0	1	1	3	0	3	0	0	0	8	0	0	14	0	0	0	0	2
（Ｑ００～Ｑ９９）	男	17	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	4	0	0	8	0	0	0	0	1
	女	18	2	0	1	0	1	0	3	0	0	0	4	0	0	6	0	0	0	0	1
XVIII. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	321	111	0	12	28	83	14	5	0	5	0	18	3	0	37	0	0	1	4	0
（Ｒ００～Ｒ９９）	男	178	68	0	5	19	47	7	2	0	1	0	15	0	0	10	0	0	1	3	0
	女	143	43	0	7	9	36	7	3	0	4	0	3	3	0	27	0	0	0	1	0
XIX. 損傷、中毒およびその他の外因の影響	計	561	64	0	6	33	18	12	374	0	8	6	11	2	0	5	0	1	5	12	4
（Ｓ００～Ｔ９８）	男	234	30	0	4	12	10	3	143	0	5	4	7	0	0	3	0	1	3	7	2
	女	327	34	0	2	21	8	9	231	0	3	2	4	2	0	2	0	0	2	5	2
XX. 傷病および死亡の外因	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（Ｖ０１～Ｙ９８）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XXI. 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	計	50	0	0	0	8	0	22	12	0	3	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0
（Ｚ００～Ｚ９９）	男	32	0	0	0	6	0	17	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	18	0	0	0	2	0	5	5	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0
XXⅡ. 特殊目的用コード	計	137	130	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（Ｕ００～Ｕ９９）	男	76	72	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	61	58	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	**計**	**11,385**	**3,807**	**0**	**244**	**865**	**682**	**1,275**	**703**	**0**	**433**	**203**	**1,522**	**742**	**68**	**445**	**0**	**1**	**270**	**24**	**101**
	男	**6,495**	**2,347**	**0**	**113**	**562**	**409**	**716**	**271**	**0**	**279**	**115**	**1,158**	**0**	**30**	**267**	**0**	**1**	**160**	**13**	**54**
	女	**4,890**	**1,460**	**0**	**131**	**303**	**273**	**559**	**432**	**0**	**154**	**88**	**364**	**742**	**38**	**178**	**0**	**0**	**110**	**11**	**47**

（イ）疾病分類別・年齢階層別・性別・退院患者数 （期間 2020．1．1～12．31）

（単位 人）

国際疾病大分類		退院患者数	年齢階層														
			0～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～64歳	～69歳	～74歳	～79歳	～84歳	～89歳	90歳～
Ⅰ．感染症および寄生虫症	計	262	52	17	11	5	15	10	17	22	10	12	16	25	18	17	15
（A00～B99）	男	142	31	10	4	3	6	5	9	14	8	6	7	15	11	7	6
	女	120	21	7	7	2	9	5	8	8	2	6	9	10	7	10	9
Ⅱ．新生物	計	3,243	0	0	5	6	16	58	186	319	257	467	716	623	331	208	51
（C00～D48）	男	2,065	0	0	2	1	8	28	53	167	156	309	527	432	226	140	16
	女	1,178	0	0	3	5	8	30	133	152	101	158	189	191	105	68	35
Ⅲ．血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	計	89	11	3	3	1	3	4	9	8	0	5	14	11	7	5	5
（D50～D89）	男	47	9	2	1	0	0	2	4	3	0	4	6	8	5	1	2
	女	42	2	1	2	1	3	2	5	5	0	1	8	3	2	4	3
Ⅳ．内分泌、栄養および代謝疾患	計	279	11	11	15	54	3	17	26	29	10	22	26	20	11	17	7
（E00～E90）	男	180	9	9	9	53	2	13	14	15	8	13	13	9	5	7	1
	女	99	2	2	6	1	1	4	12	14	2	9	13	11	6	10	6
Ⅴ．精神および行動の障害	計	39	1	0	7	0	4	1	3	6	1	2	4	4	2	4	0
（F00～F99）	男	20	1	0	2	0	1	0	2	4	1	2	2	3	1	1	0
	女	19	0	0	5	0	3	1	1	2	0	0	2	1	1	3	0
Ⅵ．神経系の疾患	計	135	8	4	5	9	11	4	14	20	7	8	8	11	14	7	5
（G00～G99）	男	64	5	3	3	2	0	3	6	9	4	4	6	6	6	6	1
	女	71	3	1	2	7	11	1	8	11	3	4	2	5	8	1	4
Ⅶ．眼および付属器の疾患	計	71	2	0	0	0	0	0	1	2	3	6	14	21	16	6	0
（H00～H59）	男	31	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	7	10	6	4	0
	女	40	2	0	0	0	0	0	1	1	0	6	7	11	10	2	0
Ⅷ．耳および乳様突起の疾患	計	89	11	4	8	2	3	4	8	9	6	7	11	8	5	3	0
（H60～H95）	男	38	5	1	3	2	1	1	3	5	3	4	2	3	3	2	0
	女	51	6	3	5	0	2	3	5	4	3	3	9	5	2	1	0
Ⅸ．循環器系の疾患	計	1,294	3	0	3	2	4	14	73	128	91	168	222	217	154	136	79
（I00～I99）	男	835	2	0	0	1	0	9	51	95	68	116	157	134	97	75	30
	女	459	1	0	3	1	4	5	22	33	23	52	65	83	57	61	49
Ⅹ．呼吸器系の疾患	計	1,053	146	42	6	25	66	45	57	65	40	59	92	120	102	110	78
（J00～J99）	男	681	80	26	2	15	39	37	45	34	27	41	68	90	77	66	34
	女	372	66	16	4	10	27	8	12	31	13	18	24	30	25	44	44
Ⅺ．消化器系の疾患	計	1,925	5	18	23	16	68	81	170	218	168	209	314	267	180	120	68
（K00～K93）	男	1,190	2	13	16	10	39	42	110	134	97	151	209	175	109	59	24
	女	735	3	5	7	6	29	39	60	84	71	58	105	92	71	61	44
Ⅻ．皮膚および皮下組織の疾患	計	96	5	2	2	0	3	3	10	11	6	9	5	12	7	12	9
（L00～L99）	男	47	2	2	0	0	1	1	7	7	3	7	3	3	1	7	3
	女	49	3	0	2	0	2	2	3	4	3	2	2	9	6	5	6
ⅩⅢ．筋骨格系および結合組織の疾患	計	353	9	8	5	3	10	10	16	45	35	44	50	48	38	23	9
（M00～M99）	男	130	5	4	4	0	6	6	5	14	13	14	18	17	15	8	1
	女	223	4	4	1	3	4	4	11	31	22	30	32	31	23	15	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	計	792	6	4	3	6	29	25	80	88	61	78	120	81	90	86	35
（N00～N99）	男	404	4	1	3	4	9	6	27	54	29	49	81	49	52	30	6
	女	388	2	3	0	2	20	19	53	34	32	29	39	32	38	56	29
ⅩⅤ．妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	計	417	0	0	0	11	130	242	34	0	0	0	0	0	0	0	0
（O00～O99）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	417	0	0	0	11	130	242	34	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	計	144	143	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
（P00～P96）	男	84	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	60	59	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅦ．先天奇形、変形および染色体異常	計	35	4	8	3	2	2	5	5	2	1	1	1	0	0	1	0
（Q00～Q99）	男	17	2	4	0	1	1	2	4	0	1	1	0	0	0	1	0
	女	18	2	4	3	1	1	3	1	2	0	0	1	0	0	0	0
ⅩⅧ．症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	321	57	14	9	3	7	6	16	22	21	17	36	41	34	25	13
（R00～R99）	男	178	27	11	7	2	4	3	7	11	14	9	20	24	20	15	4
	女	143	30	3	2	1	3	3	9	11	7	8	16	17	14	10	9
ⅩⅨ．損傷、中毒およびその他の外因の影響	計	561	13	8	14	12	22	30	26	62	34	37	64	79	67	54	39
（S00～T98）	男	234	7	5	8	7	14	19	14	35	15	13	31	23	20	17	6
	女	327	6	3	6	5	8	11	12	27	19	24	33	56	47	37	33
ⅩⅩ．傷病および死亡の外因	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（V01～Y98）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	計	50	0	1	2	0	2	3	1	8	4	11	9	4	4	0	1
（Z00～Z99）	男	32	0	0	2	0	0	1	1	4	3	9	5	4	3	0	0
	女	18	0	1	0	0	2	2	0	4	1	2	4	0	1	0	1
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	計	137	1	4	2	1	25	23	14	21	6	7	6	7	8	7	5
（U00～U99）	男	76	1	1	2	1	13	14	8	12	2	5	3	3	5	5	1
	女	61	0	3	0	0	12	9	6	9	4	2	3	4	3	2	4
全体	**計**	**11,385**	**488**	**148**	**126**	**158**	**423**	**585**	**767**	**1,085**	**761**	**1,169**	**1,728**	**1,599**	**1,088**	**841**	**419**
	男	**6,495**	**276**	**92**	**68**	**102**	**144**	**192**	**370**	**618**	**455**	**757**	**1,165**	**1,008**	**662**	**451**	**135**
	女	**4,890**	**212**	**56**	**58**	**56**	**279**	**393**	**397**	**467**	**306**	**412**	**563**	**591**	**426**	**390**	**284**

②死亡統計

（ア）診療科別死亡数及び剖検数　（期間　２０２０．１．１～１２．３１）

（単位　人）

区　分	死亡患者数	うち剖検数
内科	333	1
精神科	0	0
神経内科	11	4
循環器内科	35	0
小児科	0	0
外科	41	0
整形外科	1	0
脳神経外科	0	0
心臓血管外科	22	0
皮膚科	0	0
泌尿器科	12	0
産婦人科	8	0
眼科	0	0
耳鼻いんこう科	2	0
放射線科	0	0
麻酔科	0	0
緩和ケア内科	156	0
救急科	10	0
歯科口腔外科	0	0
合計	631	5

（イ）死因分類表（期間　2020．1．1～12．31）

（単位　人）

国際疾病大分類	性別	死亡患者数 入院	死亡患者数 外来	合計
Ⅰ．　感染症および寄生虫症	計	13	1	14
（A00～B99）	男	5	0	5
	女	8	1	9
Ⅱ．　新生物	計	283	6	289
（C00～D48）	男	167	3	170
	女	116	3	119
Ⅲ．血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	計	0	0	0
（D50～D89）	男	0	0	0
	女	0	0	0
Ⅳ．内分泌、栄養および代謝疾患	計	1	1	2
（E00～E90）	男	0	0	0
	女	1	1	2
Ⅴ．　精神および行動の障害	計	0	0	0
（F00～F99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
Ⅵ．　神経系の疾患	計	6	0	6
（G00～G99）	男	2	0	2
	女	4	0	4
ⅤⅡ．　眼および付属器の疾患	計	0	0	0
（H00～H59）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅤⅢ．耳および乳様突起の疾患	計	0	0	0
（H60～H95）	男	0	0	0
	女	0	0	0
Ⅸ．　循環器系の疾患	計	70	48	118
（I00～I99）	男	40	29	69
	女	30	19	49
Ⅹ．　呼吸器系の疾患	計	92	14	106
（J00～J99）	男	65	3	68
	女	27	11	38
Ⅺ．　消化器系の疾患	計	36	1	37
（K00～K93）	男	25	0	25
	女	11	1	12
ⅩⅡ．皮膚および皮下組織の疾患	計	0	0	0
（L00～L99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅢ．筋骨格系および結合組織の疾患	計	0	0	0
（M00～M99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅣ．　腎尿路生殖器系の疾患	計	14	1	15
（N00～N99）	男	5	1	6
	女	9	0	9
ⅩⅤ．　妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	計	0	0	0
（O00～O99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	計	0	0	0
（P00～P96）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅤⅡ．先天奇形、変形および染色体異常	計	0	0	0
（Q00～Q99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅤⅢ．症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	23	9	32
（R00～R99）	男	11	8	19
	女	12	1	13
ⅩⅨ．損傷、中毒およびその他の外因の影響	計	2	1	3
（S00～T98）	男	1	1	2
	女	1	0	1
ⅩⅩ．　傷病および死亡の外因	計	1	2	3
（V01～Y98）	男	0	1	1
	女	1	1	2
ⅩⅩⅠ．　健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	計	0	0	0
（Z00～Z99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅩⅡ．　特殊目的用コード	計	6	0	6
（U00～U99）	男	5	0	5
	女	1	0	1
全　　体	計	547	84	631
	男	326	46	372
	女	221	38	259

③退院患者数

（ア）診療科別・性別・在院日数別 （期間 2020．1．1～12．31）

（単位　人）

診療科	性別	退院患者数	在院日数						
			1日	～3日	～7日	～14日	～30日	～60日	61日～
内　科	計	3,807	38	851	834	1,099	686	254	45
	男	2,347	22	553	538	648	400	161	25
	女	1,460	16	298	296	451	286	93	20
精神科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	計	244	6	28	40	51	66	37	16
	男	113	5	11	15	25	30	20	7
	女	131	1	17	25	26	36	17	9
循環器内科	計	865	5	263	163	224	164	32	14
	男	562	3	191	114	141	87	20	6
	女	303	2	72	49	83	77	12	8
小児科	計	682	67	84	319	141	54	11	6
	男	409	61	50	181	78	29	8	2
	女	273	6	34	138	63	25	3	4
外　科	計	1,275	4	83	544	371	203	55	15
	男	716	4	48	301	197	126	30	10
	女	559	0	35	243	174	77	25	5
整形外科	計	703	0	96	47	100	376	76	8
	男	271	0	53	23	37	118	37	3
	女	432	0	43	24	63	258	39	5
脳神経外科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	計	433	1	87	21	104	147	54	19
	男	279	0	37	15	81	102	30	14
	女	154	1	50	6	23	45	24	5
皮膚科	計	203	1	29	26	104	30	9	4
	男	115	1	14	17	56	19	4	4
	女	88	0	15	9	48	11	5	0
泌尿器科	計	1,522	1	481	447	449	101	41	2
	男	1,158	1	381	329	353	71	21	2
	女	364	0	100	118	96	30	20	0
産婦人科	計	742	20	84	259	332	29	14	4
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	742	20	84	259	332	29	14	4
眼　科	計	68	10	57	0	0	0	1	0
	男	30	5	25	0	0	0	0	0
	女	38	5	32	0	0	0	1	0
耳鼻いんこう科	計	445	4	94	238	100	9	0	0
	男	267	2	48	149	65	3	0	0
	女	178	2	46	89	35	6	0	0
放射線科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	計	1	1	0	0	0	0	0	0
	男	1	1	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科	計	270	3	33	40	74	71	41	8
	男	160	1	21	29	41	42	24	2
	女	110	2	12	11	33	29	17	6
救急科	計	24	0	12	4	3	4	1	0
	男	13	0	6	3	2	2	0	0
	女	11	0	6	1	1	2	1	0
歯科口腔外科	計	101	0	88	9	4	0	0	0
	男	54	0	48	5	1	0	0	0
	女	47	0	40	4	3	0	0	0
全　体	**計**	**11,385**	**161**	**2,370**	**2,991**	**3,156**	**1,940**	**626**	**141**
	男	**6,495**	**106**	**1,486**	**1,719**	**1,725**	**1,029**	**355**	**75**
	女	**4,890**	**55**	**884**	**1,272**	**1,431**	**911**	**271**	**66**

２．リハビリテーション科

（1）管理料、加算、指導料

(単位　件)

区分＼年度	28	29	30	元	2
総合計画評価	1,166	1,311	1,492	2,036	2,514
初期加算	27,661	30,222	32,223	35,113	31,569
早期加算	43,002	46,694	48,148	51,213	45,200
退院時指導	1,023	1,048	1,145	1,295	1,442

（2）理学療法業務実績

①取得単位数

(単位　単位)

区分＼年度		28	29	30	元	2
入院	脳血管	14,238	12,781	12,821	11,890	9,820
	運動器	14,601	14,095	14,272	13,154	11,406
	呼吸器	5,484	5,011	5,449	6,370	5,999
	心大血管	4,309	5,885	5,056	5,574	6,695
	がん	647	1,217	1,518	1,736	2,029
	合計	39,279	38,989	39,116	38,724	35,949
外来	脳血管	111	158	87	25	0
	運動器	685	603	563	531	365
	呼吸器	251	263	308	283	255
	心大血管	55	10	4	0	17
	合計	1,102	1,034	962	839	637
合計		40,381	40,023	40,078	39,563	36,586
緩和ケア病棟リハ		137	200	147	288	645
総点数（点）		9,966,483	9,957,654	9,988,215	9,913,528	9,358,405

②科別患者数

（単位　人）

区分	年度	28	29	30	元	2
入院	内科	7,412	6,367	7,129	7,631	7,101
	循環器内科	1,372	2,265	1,865	1,766	3,102
	神経内科	332	1,719	2,456	2,510	1,567
	小児科	27	23	24	52	155
	外科	2,561	3,000	4,008	4,117	3,396
	整形外科	8,694	8,476	8,748	8,138	7,093
	脳神経外科	4,891	2,432	1,486	30	0
	心臓血管外科	3,544	3,769	3,492	4,257	3,560
	泌尿器科	579	1,075	914	1,308	1,337
	その他	322	292	455	467	749
	計	29,734	29,418	30,577	30,276	28,060
外来	内科	4	38	18	1	0
	循環器内科	0	1	23	2	0
	神経内科	0	5	0	8	0
	小児科	10	0	10	4	0
	外科	122	147	168	163	131
	整形外科	563	422	372	351	227
	脳神経外科	15	14	8	2	0
	心臓血管外科	26	5	0	0	14
	泌尿器科	0	0	1	0	0
	その他	0	22	0	0	1
	計	740	654	600	531	373
合計		30,474	30,072	31,177	30,807	28,433

③傷病別患者数

（単位　人）

年度	28			29			30			元			2		
区分 / 傷病名	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	1,390	0	1,390	821	0	821	539	0	539	350	0	350	148	0	148
脳梗塞	2,588	0	2,588	2,485	1	2,486	1,957	16	1,973	1,506	2	1,508	1,098	0	1,098
頭部外傷	132	0	132	15	0	15	18	0	18	12	0	12	1	0	1
神経難病	119	10	129	298	5	303	274	0	274	281	0	281	295	0	295
脊髄損傷	298	0	298	130	0	130	139	0	139	67	0	67	32	0	32
骨折（一般）	3,951	243	4,194	3,841	145	3,986	3,121	154	3,275	2,581	142	2,723	2,485	70	2,555
靭帯損傷	47	3	50	124	42	166	97	59	156	22	39	61	5	14	19
大腿骨頚部骨折	536	35	571	768	42	810	644	18	662	1,029	35	1,064	747	11	758
変形性股関節症	2,741	106	2,847	2,205	82	2,287	2,834	130	2,964	2,186	118	2,304	2,043	82	2,125
変形性膝関節症	341	14	355	220	2	222	155	0	155	138	0	138	104	2	106
心大血管疾患	4,382	28	4,410	5,257	5	5,262	4,916	2	4,918	5,431	0	5,431	5,747	14	5,761
呼吸器疾患	3,880	2	3,882	3,075	0	3,075	3,456	17	3,473	3,948	3	3,951	3,071	0	3,071
悪性新生物	2,969	122	3,091	3,455	140	3,595	3,985	163	4,148	4,459	159	4,618	4,154	126	4,280
廃用症候群	274	0	274	113	37	150	45	11	56	84	0	84	20	0	20
その他	6,086	177	6,263	6,611	153	6,764	8,397	30	8,427	8,182	33	8,215	8,110	54	8,164
合計	29,734	740	30,474	29,418	654	30,072	30,577	600	31,177	30,276	531	30,807	28,060	373	28,433

（3）作業療法業務実績

①取得単位数

（単位　単位）

区分		28	29	30	元	2
入院	脳血管	8,810	7,523	7,024	7,337	6,480
	運動器	1,230	904	2,695	3,142	2,499
	呼吸器	0	0	0	0	786
	心大血管	0	0	0	0	24
	がん	125	183	124	64	423
	合計	10,165	8,610	9,843	10,543	10,212
外来	脳血管	154	57	40	38	0
	運動器	1,642	1,203	910	646	776
	合計	1,796	1,260	950	684	776
合計		11,961	9,870	10,793	11,227	10,988
緩和ケア病棟リハ		82	138	341	386	266
総点数（点）		3,076,682	2,554,845	2,734,046	2,912,141	2,772,825

②科別患者数

（単位　人）

区分		28	29	30	元	2
入院	内科	2,339	2,346	2,605	3,420	3,640
	循環器内科	30	72	115	51	241
	神経内科	125	1,148	1,763	2,110	1,305
	小児科	0	4	12	19	0
	外科	247	311	385	325	582
	整形外科	578	557	1,785	2,033	1,896
	脳神経外科	4,754	2,443	1,353	15	3
	心臓血管外科	15	79	63	140	22
	泌尿器科	103	92	162	254	492
	その他	124	198	396	468	419
	計	8,315	7,250	8,639	8,835	8,600
外来	内科	0	0	0	0	0
	循環器内科	0	0	0	0	0
	神経内科	0	0	40	20	0
	小児科	0	0	0	0	0
	外科	11	37	15	5	6
	整形外科	1,167	786	709	441	442
	脳神経外科	39	15	0	0	0
	心臓血管外科	0	0	0	0	0
	泌尿器科	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0
	計	1,218	838	764	466	448
合計		9,533	8,088	9,403	9,301	9,048

③傷病別患者数

（単位　人）

年度	28			29			30			元			2		
区分／傷病名	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	1,201	0	1,201	620	0	620	525	0	525	246	0	246	134	0	134
脳梗塞	2,193	0	2,193	2,017	0	2,017	1,430	0	1,430	1,296	11	1,307	625	0	625
頭部外傷	644	0	644	249	0	249	138	0	138	27	0	27	29	0	29
神経難病	39	0	39	155	0	155	120	0	120	237	0	237	219	0	219
脊髄損傷	361	30	391	190	0	190	6	0	6	0	0	0	0	0	0
変形性股関節症	0	0	0	0	0	0	1,118	0	1,118	1,346	1	1,347	1,384	0	1,384
骨折（上肢）	424	772	1,196	454	679	1,133	394	626	1,020	311	342	653	248	448	696
靭帯損傷	2	226	228	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心大血管疾患	0	0	0	0	0	0	66	0	66	149	0	149	122	0	122
呼吸器疾患	0	0	0	0	0	0	381	0	381	824	0	824	948	0	948
悪性新生物	406	2	408	494	0	494	854	0	854	1,092	0	1,092	1,223	0	1,223
廃用症候群	2,746	118	2,864	2,561	42	2,603	1,557	0	1,557	39	0	39	0	0	0
その他	299	70	369	510	107	617	2,050	138	2,188	3,270	103	3,373	3,668	0	3,668
合計	8,315	1,218	9,533	7,250	838	8,088	8,639	764	9,403	8,837	457	9,294	8,600	448	9,048

（4）言語聴覚療法業務実績

①取得単位数

（単位　単位）

区分／年度		28	29	30	元	2
入院	脳血管	5,837	11,034	10,647	13,869	7,946
	呼吸器	0	0	0	0	2,942
	がん	0	0	40	36	22
外来	脳血管	46	41	40	9	33
合計		5,883	11,075	10,727	13,914	10,943
摂食機能療法		3,904	2,180	2,175	43	5
緩和ケア病棟リハ		29	17	20	4	1
総点数（点）		2,306,640	3,267,446	3,076,195	3,407,633	2,605,561

②科別患者数

（単位　人）

区分	年度	28	29	30	元	2
入院	内科	4,155	4,544	5,377	5,145	5,076
	循環器内科	363	375	351	414	731
	神経内科	260	1,316	1,915	1,829	891
	小児科	1	2	8	18	9
	外科	296	279	504	288	485
	整形外科	136	195	207	403	232
	脳神経外科	3,070	1,762	917	14	2
	心臓血管外科	356	372	382	703	672
	泌尿器科	76	91	154	208	349
	耳鼻いんこう科	10	0	2	19	12
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0
	その他	16	44	38	102	124
	計	8,739	8,980	9,855	9,143	8,583
外来	内科	0	1	0	0	0
	循環器内科	0	0	15	0	0
	神経内科	0	0	0	0	0
	小児科	8	6	6	2	0
	外科	0	0	2	0	0
	整形外科	0	0	0	0	0
	脳神経外科	0	1	0	0	0
	心臓血管外科	0	0	0	0	1
	泌尿器科	0	0	0	0	0
	耳鼻いんこう科	37	28	3	7	22
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	計	45	36	26	9	23
合計		8,784	9,016	9,881	9,152	8,606

③傷病別患者数

（単位　人）

年度	28			29			30			元			2		
区分 / 傷病名	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	1,023	0	1,023	571	0	571	508	0	508	318	0	318	129	0	129
脳梗塞	1,927	0	1,927	2,263	0	2,263	1,717	12	1,729	1,071	0	1,071	697	0	697
頭部外傷	233	0	233	104	0	104	86	0	86	23	0	23	0	0	0
神経難病	37	0	37	273	0	273	240	0	240	177	0	177	193	0	193
脊髄損傷	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0
骨折	89	0	89	13	0	13	10	0	10	211	4	215	103	0	103
心大血管疾患	232	0	232	38	0	38	337	0	337	650	0	650	684	1	685
呼吸器疾患	1,986	0	1,986	747	0	747	2,186	0	2,186	2,882	0	2,882	2,664	0	2,664
悪性新生物	252	0	252	166	0	166	283	0	283	280	0	280	312	0	312
廃用症候群	1,230	7	1,237	3,352	6	3,358	2,281	9	2,290	0	2	2	0	0	0
その他	1,730	38	1,768	1,452	30	1,482	2,207	5	2,212	3,509	10	3,519	3,801	22	3,823
合計	8,739	45	8,784	8,980	36	9,016	9,855	26	9,881	9,123	16	9,139	8,583	23	8,606

３．中央放射線科

（１）年間業務量

①画像診断（単純撮影、透視、血管撮影、ＣＴ、ＭＲＩ）

人数　83,051 人

②核医学　（シンチグラム、ＳＰＥＣＴ）

人数　925 人

③放射線治療（ライナック）

人数　4,535 人　照射門数　15,284 門

（２）画像診断数

（単位　人）

年度＼項目	患者人数	
	総合計	１日平均
28	92,059	378.8
29	90,652	371.5
30	95,916	393.0
元	95,752	392.4
2	83,051	341.8

（３）画像診断・項目別件数

（単位　件）

項目＼年度		28	29	30	元	2
単純撮影		43,705	43,250	44,354	43,586	36,875
ポータブル		12,054	12,262	12,354	13,172	12,172
乳房撮影		3,717	3,066	3,593	3,689	2,950
パノラマ		96	155	1,392	1,298	1,340
CT		20,018	20,278	22,067	22,288	20,182
MRI		6,927	6,527	6,952	6,559	5,925
骨密度		943	1,019	1,163	1,228	1,194
消化管造影		2,442	2,077	1,952	1,781	371
一般造影		963	906	1,017	1,073	986
血管造影	頭頚部	0	12	0	0	0
	胸腹骨盤	316	269	298	269	264
	四肢	32	26	30	13	6
	小計	348	307	328	282	270
心臓	心カテ	537	509	495	514	433
	ＰＣＩ	221	205	172	208	226
	ペースメーカー	40	46	35	51	61
	一時ペーシング	27	16	21	15	21
	その他	21	29	21	8	45
	小計	846	805	744	796	786
合計		92,059	90,652	95,916	95,752	83,051

※CD、フィルム　コピー・取込みの件数は含みません。
※平成 29 年度：MRI 装置等の更新・工事のため、4 カ月半稼働中断

（4）核医学・項目別件数

（単位　件）

核医学検査			人数
シンチ	全身シンチ	骨シンチ	550
		Ｇａシンチ	15
		ＭＩＢＧ・^{201}Ｔｌ・^{123}Ｉ	9
	動　態	唾液腺・レノグラム	47
	静　態	その他	146
	小　計		767
ＳＰＥＣＴ	心筋血流	安　静	48
		負　荷	38
	脳血流	安　静	72
		負荷（ＲＶＲ）	0
	腫　瘍	^{201}Ｔｌ・^{67}ＧＡ	0
	小　計		158
合　計			925

（5）放射線治療件数

（単位　件・門）

項目／年度	人数		照射門数	
	総合計	１日平均	総合計	１日平均
28	4,399	18.1	18,816	77.1
29	3,416	14.0	14,674	60.1
30	4,697	19.3	15,125	62.0
元	4,865	19.9	17,826	73.1
2	4,535	18.6	15,284	62.6

（6）放射線治療患者数

外部照射		組織内照射	合計
新規患者数	再来患者数	新規患者数（前立腺）	
211 人	34 人	28 人	273 人

（7）原発巣別新規患者

（単位　人）

部位	人数
1．脳・脊髄 腫瘍	0
2．頭頸部腫瘍（甲状腺を含む）	4
3．食道癌	11
4．肺癌・気管・縦隔腫瘍 （うち肺癌）	61 (60)
5．乳癌	66
6．肝・胆・膵臓	7
7．胃・小腸・結腸・直腸癌	15

部位	人数
8．婦人科腫瘍	2
9．泌尿器系腫瘍 （うち前立腺癌）	65 (50)
10．造血器リンパ系腫瘍	7
11．皮膚・骨・軟部腫瘍	0
12．その他（悪性腫瘍）	1
13．良性疾患	0
14．15 歳以下の小児例	0

４．中央検査科

（1）項目別検査件数

(単位　件)

項目＼年度	28	29	30	元	2
一般	478,220	486,143	487,228	483,458	420,745
血液	954,129	949,751	984,139	1,013,785	942,718
生化	1,599,795	1,608,931	1,675,771	1,731,219	1,624,211
免疫（血清）	156,486	165,594	174,510	180,576	168,640
細菌	35,798	33,843	40,399	39,615	32,604
生理	69,976	69,822	70,980	70,333	55,538
病理	24,423	25,447	26,289	26,783	22,838
計	3,318,827	3,339,531	3,459,316	3,545,769	3,267,294
前年比（％）	104.41	100.62	103.59	102.50	92.15

（2）採血件数

(単位　件)

項目＼年度	28	29	30	元	2
採血	344,533	318,659	330,419	336,790	309,863
前年比（％）	99.16	92.49	103.69	101.93	92.00

（3）循環器系及び超音波検査件数

(単位　件)

項目＼年度	28	29	30	元	2
ＵＣＧ	5,889	5,957	6,231	6,030	5,472
心電図	25,859	25,873	25,337	25,181	21,824
ホルター心電図	356	330	310	268	313
トレッドミル	88	54	81	76	30
超音波	17,575	18,325	19,386	18,412	15,522
計	49,767	50,539	51,345	49,967	43,161
前年比（％）	101.06	101.55	101.59	97.32	86.38

（4）輸血用血液管理

(単位　単位)

項目（1単位）＼年度	28	29	30	元	2
赤血球(RCC＋LR)　【140ml】	3,040	2,756	3,037	3,680	3,730
新鮮凍結血漿(FFP)　【120ml】	808	820	844	1,140	1,160
濃厚血小板　【 20ml】	1,390	1,305	1,200	1,840	1,970
計	5,238	4,881	5,081	6,660	6,860
自己血　【200ml】	536	616	674	562	564

5．臨床心理士業務件数

（1）相談件数

(単位　件，%)

年度	28					29					30					元					2				
区分／科名	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比
新規	510	100	8	618	81.6	144	145	8	297	48.1	700	140	17	857	288.6	759	153	8	920	107.4	554	136	23	713	77.5
継続	176	9	0	185	84.1	30	15	2	47	25.4	203	24	4	231	491.5	216	49	4	269	116.5	145	29	17	191	71.0
計	686	109	8	803	82.2	174	160	10	344	42.8	903	164	21	1,088	316.3	975	202	12	1,189	109.3	699	165	40	904	76.0
延べ件数	1,366	119	8	1,493	81.7	355	228	13	596	39.9	2123	274	24	2,421	406.2	2,503	298	15	2,816	116.3	1,410	182	64	1,656	58.8

※［その他］は受診せず相談のみを示す。

（2）診療科別

(単位　件，%)

年度	28		29		30		元		2	
区分／診療科	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内科	214	84.6	86	40.2	347	403.5	366	105.5	349	95.4
精神科	2	皆増	0	皆減	0	－	0	－	0	－
神経内科	2	皆増	2	100.0	9	450.0	5	55.6	3	60.0
循環器内科	1	50.0	0	皆減	2	皆増	4	200.0	21	525.0
小児科	1	7.7	0	皆減	8	皆増	4	50.0	10	250.0
外科	77	58.3	29	37.7	118	406.9	124	105.1	106	85.5
整形外科	10	142.9	3	30.0	9	300.0	6	66.7	3	50.0
脳神経外科	19	126.7	1	5.3	2	200.0	0	皆減	0	－
心臓血管外科	2	16.7	0	皆減	3	皆増	4	133.3	8	200.0
皮膚科	0	－	0	－	0	－	0	－	1	皆増
泌尿器科	68	87.2	18	26.5	95	527.8	117	123.2	151	129.1
産婦人科	79	123.4	18	22.8	67	372.2	67	100.0	79	117.9
眼科	1	皆増	0	皆減	0	－	0	－	0	－
耳鼻いんこう科	3	150.0	1	33.3	2	200.0	5	250.0	4	80.0
放射線科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
麻酔科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
緩和ケア内科	306	82.7	174	56.9	404	232.2	474	117.3	129	27.2
歯科口腔外科	8	88.9	0	皆減	0	－	0	－	0	－
救急科	2	皆増	2	100.0	1	50.0	1	100.0	0	皆減
その他	8	40.0	10	125.0	21	210.0	12	57.1	40	333.3
合計	803	82.2	344	42.8	1,088	316.3	1,189	109.3	904	76.0

（3）新規相談の紹介者

(単位　件，%)

年　度	28		29		30		元		2	
区　分 紹介者	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
医　　師	600	82.6	276	46.0	822	297.8	900	109.5	679	75.4
看　護　師	10	125.0	13	130.0	16	123.1	11	68.8	11	100.0
本人・家族	4	30.8	0	皆減	4	皆増	4	100.0	12	300.0
他　職　員	3	33.3	8	266.7	14	175.0	5	35.7	11	220.0
そ　の　他	1	100.0	0	皆減	1	皆増	0	皆減	0	－
計	618	81.6	297	48.1	857	288.6	920	107.4	713	77.5

（4）相談内容

(単位　件，%)

年　度	28		29		30		元		2	
区　分 内　容	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
精神科心理検査	5	－	0	皆減	0	－	0	－	0	－
緩和患者面接	258	82.7	307	119.0	709	231.0	911	128.5	276	30.3
緩和家族面接	4	57.1	23	575.0	33	143.5	163	493.9	1	0.6
緩和心理検査	0	皆減	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減
緩和カンファレンス	1,180	83.7	172	14.6	1,548	900.0	1,671	107.9	1,246	74.6
他科心理検査	1	7.1	2	200.0	1	50.0	0	皆減	4	皆増
他科カウンセリング	28	84.8	60	203.6	70	116.7	45	64.3	35	77.8
他科カンファレンス	0	－	0	－	10	皆増	2	20.0	10	500.0
コンサルテーション	11	55.0	19	172.7	25	131.6	4	16.0	19	475.0
職　員　相　談	6	33.3	11	183.3	19	172.7	15	78.9	64	426.7
そ　の　他	0	－	2	皆増	6	300.0	4	66.7	1	25.0
計	1,493	81.7	596	39.9	2,421	406.2	2,816	116.3	1,656	58.8

（5）援助手段

(単位　件，%)

年　度	28		29		30		元		2	
区　分 手　段	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
面　　接	302	78.2	406	134.4	834	205.4	1,138	136.5	356	31.3
心理検査	6	40.0	2	33.3	1	50.0	1	100.0	4	400.0
電　　話	5	31.2	12	240.0	12	100.0	8	66.7	38	475.0
文　　書	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減	0	－
カンファレンス	1,180	83.7	176	14.9	1,572	893.2	1,669	106.2	1,258	75.4
そ　の　他	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減	0	－
計	1,493	81.7	596	39.9	2,421	406.2	2,816	116.3	1,656	58.8

6．分　娩　件　数

(単位　人，%)

項目＼年度			28		29		30		元		2	
			件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
分　娩　件　数			527	86.1	478	90.7	445	93.1	420	94.4	337	80.2
内訳	単　胎		512	85.2	467	91.2	436	93.4	405	92.9	328	81.0
	双　胎		15	150.0	11	73.3	9	81.8	15	166.7	9	60.0
	三　胎		0	皆減	0	―	0	―	0	―	0	―
児　胎　数			542	86.9	489	90.2	454	92.8	435	95.8	346	79.5
内訳	生　産		527	88.1	476	90.3	439	92.2	415	94.5	336	81.0
	死産	22週未満	13	59.1	13	100.0	15	115.4	19	126.7	8	42.1
		22週以降	2	50.0	0	皆減	0	―	1	皆増	2	200.0

7．検　診　件　数

(1) ドック検診

(単位　人，%)

項目＼年度	28		29		30		元		2	
	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
1日人間ドック	6,967	101.2	6,736	96.7	6,614	98.2	6,363	96.2	4,826	75.8

(2) 人間ドック年齢別

(単位　人)

項目＼年齢		10―20	21―30	31―40	41―50	51―60	61―70	71―80	81―	計
1日人間ドック	計	0	24	291	1,051	1,162	1,274	891	133	4,826
	男	0	14	197	642	689	712	524	83	2,861
	女	0	10	94	409	473	562	367	50	1,965

（3）人間ドックオプション

(単位　人，%)

年度 / 項目	28		29		30		元		2	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
脳ドック	702	124.0	564	80.3	553	98.0	561	101.4	433	77.2
骨ドック	106	119.1	80	75.5	93	116.3	74	79.6	51	68.9
歯科口腔ドック	10	71.4	10	100.0	11	110.0	8	72.7	6	75.0
前立腺ドック	1,234	121.6	1,097	88.9	1,216	110.8	1,300	106.9	1,066	82.0
乳腺ドック	1,869	113.5	1,730	92.6	2,010	116.2	2,075	103.2	1,500	72.3
心臓ドック	23	67.6	24	104.3	24	100.0	24	100.0	12	50.0
肺がんドック	128	129.3	117	91.4	109	93.2	107	98.2	89	83.2
ピロリペプシ検診	117	70.9	85	72.6	31	36.5	44	141.9	22	50.0
ピロリ検診	411	304.4	344	83.7	222	64.5	181	81.5	115	63.5
ＣＡ１２５	173	121.0	143	82.7	132	92.3	136	103.0	108	79.4
子宮頚がん検診	1,589	96.2	1,415	89.0	1,344	95.0	1,315	97.8	1,011	76.9
胃カメラ	－	－	－	－	4,581	皆増	4,494	98.1	3,766	83.8
計	6,362	114.5	5,609	88.2	10,413	185.6	10,319	99.1	8,179	79.3

（4）一般検診

(単位　人，%)

年度 / 項目	28		29		30		元		2	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
胃がん検診・胃透視（二次）	35	125.0	25	71.4	22	88.0	6	27.2	22	366.7
大腸がん検診（二次）	285	96.2	257	90.1	297	115.6	348	117.1	273	78.4
オート検診	94	132.4	89	94.7	90	101.1	－	皆減	－	－
乳児検診	531	94.1	466	87.7	413	88.6	408	98.7	281	68.9
特定健診・後期高齢者健診	177	88.0	163	92.0	142	87.1	139	97.8	124	89.2
計	1,122	96.8	1,000	89.1	964	96.4	901	93.4	700	77.7

（5）特定保健指導

(単位　人)

年度 / 支援別	28	29	30	元	2
特定健診当日情報提供	1,395	1,277	1,200	1,146	1,196
動機付け支援	32	42	54	35	28
積極的支援	17	18	31	24	25
継続支援	154	156	175	183	194

８．内視鏡センター検査、処置件数および生検件数

（1）検査、処置件数

(単位　件)

項　目 ＼ 年　度	28	29	30	元	2
気管支内視鏡検査	163	139	158	171	135
胸腔鏡	8	6	13	6	8
胃・十二指腸内視鏡検査（一般診療）	3, 234	3, 231	3, 121	3, 151	2, 746
〃　　（一日ﾄﾞｯｸ）	4, 610	4, 658	4, 578	4, 494	3, 769
小腸内視鏡検査（経口）	8	2	27	4	9
部ＥＵＳ	108	106	81	64	28
胆膵ＥＵＳ	173	149	141	69	74
ＥＲＣＰ	19	33	18	23	8
大腸内視鏡検査（一般診療）	2, 508	2, 395	2, 533	2, 480	2, 017
小腸内視鏡検査（経肛門）	11	4	5	5	14
下部ＥＵＳ	4	5	9	7	4
食道静脈瘤結紮術	14	18	20	14	14
食道静脈瘤硬化療法	37	26	27	34	41
上部消化管止血術	70	87	90	99	59
上部ポリペク・EMR	3	8	9	10	4
上部ＥＳＤ	63	58	71	72	39
上部腫瘍治療のEMCＴ・ＡＰＣ	2	4	2	4	1
上部異物摘出術	7	9	17	11	16
上部拡張術	4	9	23	36	7
上部金属ステント留置術	2	8	6	5	6
イレウス管挿入術（経鼻）	81	55	69	78	67
乳頭切開術	10	25	13	8	5
胆道結石除去術	112	141	118	117	121
胆道ドレナージ術	214	221	216	216	195
膵管ドレナージ術	17	8	10	12	12
胆管金属ステント留置術	7	27	30	21	10
胆道拡張術	2	0	0	0	0
下部消化管止血術	46	46	62	68	53
下部ポリペク・EMR	456	450	577	587	467
下部ＥＳＤ	5	42	44	48	41
下部腫瘍治療のEMCＴ・ＡＰＣ	2	1	1	2	0
下部異物除去術	2	2	3	0	2
下部拡張術	13	7	3	6	5
下部金属ステンント留置術	15	21	16	26	12
イレウス管挿入術（経肛門）	14	14	8	3	3
胃瘻造設術	20	16	19	39	15
胃瘻ボタン交換	27	24	26	45	44
透視室使用	56	32	21	46	42
カプセル内視鏡	17	17	21	22	14
PTCD	1	14	14	9	1
合　計	12, 165	12, 118	12, 220	12, 112	10, 108

（2）生検件数

（単位　件）

項　目 ＼ 年　度	28	29	30	元	2
気管支	127	107	155	158	121
上部	852	827	660	782	651
下部	354	364	399	333	281
合　計	1,333	1,298	1,214	1,273	1,053

※本表は、内視鏡室において実施した件数である。

9．手　術　件　数

（1）科別手術件数（手術室）

(単位　件)

科名＼年度	28	29	30	元	2
内科	73	80	53	61	58
循環器内科	0	0	0	0	0
外科	896	900	1,019	1,108	954
整形外科	718	641	640	646	594
脳神経外科	38	0	0	0	0
心臓血管外科	420	484	481	456	384
皮膚科	290	306	420	416	314
泌尿器科	1,308	1,381	1,307	1,324	1,176
産婦人科	411	386	322	300	348
眼科	127	119	99	92	79
耳鼻いんこう科	360	309	332	366	268
麻酔科	10	3	1	2	3
歯科口腔外科	33	24	97	78	98
小児科	1	0	0	0	0
合計	4,685	4,633	4,771	4,849	4,276

（2）手術麻酔別件数（手術室）

(単位　件)

区分＼年度	28	29	30	元	2
全身麻酔（吸入・気管内）	2,434	2,383	2,633	2,694	2,480
脊髄麻酔	1,224	1,247	1,195	1,211	994
硬膜外麻酔	9	8	11	6	1
局所麻酔	657	655	665	698	587
静脈麻酔	0	0	0	0	0
神経ブロック	212	180	127	154	111
その他	149	160	140	86	103
合計	4,685	4,633	4,771	4,849	4,276

（3）科別手術麻酔別件数（手術室）

(単位　件)

区分＼科名	内科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	麻酔科	歯科口腔外科	小児科	合計
全身麻酔（吸入・気管内）	2	881	427	0	291	15	304	202	0	262	0	96	0	2,480
脊椎麻酔	0	67	98	0	0	3	708	118	0	0	0	0	0	994
硬膜外麻酔	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
局所麻酔	56	6	27	0	24	295	65	27	77	6	2	2	0	587
神経ブロック	0	0	42	0	68	1	0	0	0	0	0	0	0	111
その他	0	0	0	0	1	0	99	0	2	0	1	0	0	103
合計	58	954	594	0	384	314	1,176	348	79	268	3	98	0	4,276

（4）手術支援ロボットダヴィンチ手術件数（再掲）

（単位　件）

区分＼年度	28	29	30	元	2	合　計
前立腺癌	125	122	122	137	121	627
腎癌	17	27	43	32	30	149
膀胱癌	－	－	4	8	9	21
胃癌	－	－	11	16	18	45
直腸癌	－	－	4	22	19	45
合　計	142	149	184	215	197	887

※腎　癌　平成28年5月開始

※膀胱癌　平成30年9月開始

※胃　癌　平成30年4月開始

※直腸癌　平成30年10月開始

※肺　癌　令和3年開始予定

（５）手術内容及び件数（全体）

手術名	件数
皮膚、皮下組織	
創傷処理（長径５cm未満・筋肉，臓器に達しないもの）	180
創傷処理（長径５cm未満・筋肉，臓器に達しないもの・真皮縫合）	2
創傷処理（長径５cm以上１０cm未満・筋肉，臓器に達しないもの）	32
創傷処理（長径５cm以上１０cm未満・筋肉，臓器に達するもの）	17
創傷処理（長径５cm以上１０cm未満・筋肉，臓器に達するもの・真皮縫合）	1
創傷処理（長径５cm未満・筋肉，臓器に達するもの）	40
創傷処理（長径５cm未満・筋肉，臓器に達するもの・真皮縫合）	1
創傷処理（長径１０cm以上・筋肉，臓器に達しないもの）	5
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径１０cm以上）（その他）	10
小児創傷処理（長径２．５cm未満・筋肉、臓径２．５cm未満）	2
小児創傷処理（長径２．５cm以上５cm未満・径２．５cm以上５cm未満）	2
小児創傷処理（長径２．５cm未満・筋肉、臓長径２．５cm未満）	29
小児創傷処理（長径２．５cm以上５cm未満・長径２．５cm以上５cm未満）	3
小児創傷処理（長径５cm以上１０cm未満・筋肉、臓器に達しないもの）	1
皮膚切開（長径１０cm未満）	59
皮膚切開（長径１０cm以上２０cm未満）	3
皮膚切開（長径２０cm以上）	1
皮下血管腫摘出術（露出部・長径３cm未満）	1
皮膚血管腫摘出術（露出部・長径３cm未満）	18
皮膚血管腫摘出術（露出部以外・長径３cm未満）	2
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm未満）	28
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm以上４cm未満）	27
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径４cm以上）	5
皮膚腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm未満）	70
皮膚腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm以上４cm未満）	4
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３cm未満）	29
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３cm以上６cm未満）	17
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径６cm以上１２cm未満）	5
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３cm未満）	26
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３cm以上６cm未満）	1
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径１２cm以上）	1
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径１２cm以上）	3
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	61
形成	
分層植皮術（２００ｃ㎡以上）	1
全層植皮術（２５ｃ㎡未満）	15
全層植皮術（２５ｃ㎡以上１００ｃ㎡未満）	1
皮弁作成術，移動術，切断術，遷延皮弁術（２５›未満）	10
筋（皮）弁術	1
組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合）	5
筋膜、筋、腱、腱鞘	
股関節内転筋切離術	11
腱鞘切開術（指）	6
腱鞘切開術	7
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（大腿）	2
腱縫合術	4
アキレス腱断裂手術	3
四肢骨	
骨折非観血的整復術（上腕）	6
骨折非観血的整復術（前腕）	38
骨折非観血的整復術（下腿）	4
骨折非観血的整復術（鎖骨）	1
骨折非観血的整復術（手）	8
骨折非観血的整復術（足，その他）	5
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	2
骨折経皮的鋼線刺入固定術（下腿）	2
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指（手，足））	1
骨折観血的手術（下腿）	31

手術名	件数
骨折観血的手術（大腿）	67
骨折観血的手術（前腕）	31
骨折観血的手術（上腕）	14
骨折観血的手術（足）	2
骨折観血的手術（鎖骨）	11
骨折観血的手術（膝蓋骨）	6
骨折観血的手術（手（舟状骨を除く））	1
観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	3
一時的創外固定骨折治療術	8
難治性骨折超音波治療法（一連につき）	6
超音波骨折治療法（一連につき）	7
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	5
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	11
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	13
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	6
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	8
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	2
骨内異物（挿入物）除去術（手）	3
骨内異物（挿入物）除去術（指（手，足））	2
骨部分切除術（指（手，足））	1
骨腫瘍切除術（下腿）	1
骨腫瘍切除術（指（手，足））	1
骨腫瘍切除術（その他）	1
骨移植術（同種骨移植、生体）	10
骨移植術（自家骨移植）	30
軟骨移植術（自家骨移植）	4
骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	42
四肢関節、靭帯	
化膿性又は結核性関節炎掻爬術（股）	1
関節脱臼非観血的整復術（肩）	16
関節脱臼非観血的整復術（肘）	3
関節脱臼非観血的整復術（股）	6
関節脱臼非観血的整復術（膝）	1
関節脱臼非観血的整復術（足）	1
関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	24
関節脱臼非観血的整復術（指・手）	6
関節脱臼非観血的整復術（指・足）	1
先天性股関節脱臼非観血的整復術（両側）（リーメンビューゲル法）	4
関節脱臼観血的整復術（股）	2
関節脱臼観血的整復術（肩鎖）	1
関節内骨折観血的手術（股）	1
関節内骨折観血的手術（肘）	6
人工骨頭挿入術（股）	31
人工関節置換術（股）	140
人工関節置換術（膝）	8
人工関節抜去術（股）	2
人工関節再置換術（股）	10
人工股関節摺動面交換術	2
四肢切断、離断、再接合	
四肢切断術（下腿）	10
四肢切断術（大腿）	8
断端形成術（軟部形成のみ）（手・指）	1
断端形成術（軟部形成のみ）（足・指）	4
断端形成術（骨形成を要す）（手・指）	1
断端形成術（骨形成を要す）（足・指）	1
手、足	
ひょう疽手術（軟部組織）	1
陥入爪手術（複雑なもの）	9
手根管開放手術	8

手術名	件数
脊柱、骨盤	
腸骨窩膿瘍切開術	1
脊椎内異物（挿入物）除去術	4
骨盤内異物（挿入物）除去術	4
内視鏡下椎弓切除術	3
椎間板摘出術（後方摘出術）	7
内視鏡下椎間板摘出（切除）術（後方摘出術）	6
寛骨臼移動術	8
椎弓切除術（切除）	37
椎弓形成手術（形成）	13
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方椎体固定）	2
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	32
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）	32
脊椎側彎症手術（固定術）	3
内視鏡下椎弓形成術	8
脊髄、末梢神経、交感神経	
神経剥離術（その他のもの）	2
脊髄ドレナージ術	1
涙道	
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	1
眼瞼	
眼瞼内反症手術（皮膚切開法）	1
結膜	
結膜下異物除去術	2
翼状片手術（弁の移植を要するもの）	1
結膜腫瘍摘出術	1
角膜、強膜	
角膜・強膜異物除去術	1
ぶどう膜	
虹彩光凝固術	6
眼房、網膜	
網膜光凝固術（その他特殊なもの・一連につき）	9
網膜光凝固術（通常のもの・一連につき）	12
水晶体、硝子体	
硝子体切除術	3
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・その他のもの）	70
水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	3
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・縫着レンズを挿入するもの）	3
後発白内障手術	9
外耳	
耳介血腫開窓術	2
外耳道異物除去術（複雑）	11
外耳道異物除去術（複雑なもの）	1
先天性耳瘻管摘出術	21
耳茸摘出術	1
耳介腫瘍摘出術	5
耳介悪性腫瘍手術	3
中耳	
鼓膜切開術	10
乳突削開術	2
鼓膜（排液，換気）チューブ挿入術	47
鼓膜形成手術	16
鼓室形成手術（耳小骨再建術）	2
鼻	
鼻腔粘膜焼灼術	48
鼻内異物摘出術	4
鼻甲介切除術（高周波電気凝固法によるもの）	6
粘膜下下鼻甲介骨切除術	55
鼻茸摘出術	5

手術名	件数
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	69
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型（汎副鼻腔手術）	24
翼突管神経切除術（経鼻腔）	5
鼻中隔矯正術	45
咽頭、扁桃	
咽後膿瘍切開術	2
扁桃周囲膿瘍切開術	1
咽頭異物摘出術（簡単）	4
咽頭異物摘出術（複雑）	9
アデノイド切除術	30
中咽頭腫瘍摘出術（経口腔）	1
口蓋扁桃手術（摘出）	152
喉頭、気管	
気管切開術	12
声帯ポリープ切除術（直達喉頭鏡）	12
喉頭ポリープ切除術（直達喉頭鏡）	3
喉頭蓋嚢腫摘出術	5
喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	9
歯、歯肉、歯槽部、口蓋	
抜歯手術（埋伏歯［歯槽骨の整形・縫合等含む］）	1
埋伏智歯加算（完全埋伏智歯（骨性）及び水平埋伏智歯）	3
口腔前庭、口腔底、頬粘膜、舌	
頬粘膜腫瘍摘出術	8
舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	3
舌腫瘍摘出術（その他のもの）	12
甲状舌管嚢胞摘出術	1
舌悪性腫瘍手術（切除）	4
顔面	
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	4
口唇腫瘍摘出術（その他）	5
口唇悪性腫瘍手術	2
頬腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	2
顔面骨、顎関節	
下顎骨折非観血的整復術（三内式線副子以上を使用する連続歯結紮法併施）	1
下顎骨折観血的手術（片側）	1
顎骨腫瘍摘出術（長径３㎝未満）	4
下顎骨悪性腫瘍手術（切除）	1
上顎骨切除術	1
顎関節授動術（徒手的授動術）（単独の場合）	2
唾液腺	
唾石摘出術（表在性のもの）	7
顎下腺腫瘍摘出術	4
顎下腺摘出術	3
耳下腺腫瘍摘出術（浅葉）	14
耳下腺腫瘍摘出術（深葉）	3
甲状腺、副甲状腺（上皮小体）	
甲状腺腫摘出術（片葉）	5
甲状腺腫摘出術（両葉）	1
甲状腺部分切除術（片葉）	14
バセドウ甲状腺全摘術（両葉）	1
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	10
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	2
副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術（摘出術）	1
その他の頚部	
頸嚢摘出術	1
乳腺	
乳腺腫瘍摘出術（内視鏡下によるものを含む）（長径５㎝未満）	11
乳腺腫瘍摘出術（内視鏡下によるものを含む）（長径５㎝以上）	2
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）ィー又は超音波装置によるもの）	195

手術名	件数
乳房切除術	1
乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）	1
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除併施しない）	24
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）　（内視鏡下によるものを含む）	8
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	34
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・腋窩部郭清を伴わないもの）	49
胸壁	
肋骨切除術（その他の肋骨）	3
胸壁腫瘍摘出術	2
胸腔、胸膜	
試験開胸術	1
胸腔鏡下試験開胸術	1
胸腔鏡下試験切除術	2
胸腔内（胸膜内）血腫除去術	2
胸腔鏡下醸膿胸膜切除術	2
胸腔鏡下胸膜胼胝切除術	1
膿胸腔有茎大網充填術	2
縦隔	
縦隔腫瘍摘出術	2
胸腺摘出術	1
気管支、肺	
気管支異物除去術（直達鏡による）	1
気管支瘻孔閉鎖術	3
肺切除術（肺葉切除）	1
胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	9
胸腔鏡下肺切除術（部分切除）	14
胸腔鏡下肺切除術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもの）	2
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	5
胸腔鏡下肺縫縮術	1
肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもの）	3
肺悪性腫瘍手術（隣接臓器合併切除を伴う肺切除）	1
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	25
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	2
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもの）	35
気管支瘻閉鎖術	2
食道	
食道縫合術（開腹手術）	1
食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）	11
食道ステント留置術	3
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	4
食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡によるもの，一連として）	41
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	15
横隔膜	
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	1
心、心膜、肺動静脈、冠血管等	
胸腔鏡下心膜開窓術	1
心腔内粘液腫摘出術（単独）	1
心腫瘍摘出術（単独）	1
経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞に対するもの）	3
経皮的冠動脈形成術（その他のもの）	13
経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症に対するもの）	9
経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの	10
経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞に対するもの）	43
経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	116
経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症に対するもの）	45
冠動脈バイパス移植術（１吻合）	5
冠動脈バイパス移植術（２吻合以上）	13
冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（１吻合）	1
冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（２吻合以上）	7
左室形成術（単独）	1

手術名	件数
左室形成術（冠動脈血行再建術（２吻合以上））	2
弁形成術（１弁のもの）	15
弁形成術（２弁のもの）	8
胸腔鏡下弁形成術（１弁のもの）	2
弁置換術（１弁のもの）	21
弁置換術（２弁のもの）	6
弁置換術（３弁のもの）	2
大動脈弁下狭窄切除術	1
大動脈瘤切除術（上行大動脈・その他のもの）	2
大動脈瘤切除術（上行大動脈・大動脈弁置換術又は形成術を伴うもの）	3
大動脈瘤切除術（腹部大動脈・分枝血管の再建を伴うもの）	3
大動脈瘤切除術（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術・その他のもの）	20
大動脈瘤切除術（胸腹部大動脈）	1
大動脈瘤切除術（弓部大動脈）	2
大動脈瘤切除術（上行大動脈・人工弁置換術を伴う大動脈基部置換術）	3
大動脈瘤切除術（上行及び弓部同時手術・大動脈弁置換又は形成術を伴う）	5
大動脈瘤切除術（上行及び弓部同時手術・人工弁置換を伴う大動脈基部置換術）	5
心臓弁再置換術加算（大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む））（１弁のもの）	1
ステントグラフト内挿術（胸部大動脈）	53
ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）	60
ステントグラフト内挿術（腸骨動脈）	2
不整脈手術（メイズ手術）	8
不整脈手術（左心耳閉鎖術）（開胸手術によるもの）	1
体外ペースメーキング術	37
ペースメーカー移植術（経静脈電極）	44
ペースメーカー交換術	17
大動脈バルーンパンピング法（初日）	19
大動脈バルーンパンピング法（２日目以降）	38
人工心肺（初日）	110
選択的冠灌流加算（人工心肺）	16
選択的脳灌流加算（人工心肺）	34
人工心肺時逆行性冠灌流加算	47
経皮的心肺補助法（初日）	2
経皮的心肺補助法（２日目以降）	3
動脈	
血管縫合術（簡単）	7
動脈塞栓除去術（開腹）	1
動脈塞栓除去術（その他）（観血的）	9
動脈形成術（その他の動脈）	2
動脈吻合術（その他の動脈）	1
四肢の血管吻合術	1
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用埋込型カテーテル設置（頭頸部その他）	56
末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）（単純なもの）	43
血管移植術（頸部動脈）	3
血管移植術（その他の動脈）	2
バイパス移植術（大動脈）	3
バイパス移植術（腹腔内動脈）	1
バイパス移植術（頸部動脈）	11
バイパス移植術（その他の動脈）	16
バイパス移植術（下腿動脈）	4
血管移植術（膝窩動脈）	1
血管塞栓術（腹腔内血管）（止血術）	8
血管塞栓術（腹腔内血管等）（その他のもの）	4
血管塞栓術（腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	131
四肢の血管拡張術	37
四肢の血栓除去術	1
経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	18
経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回の実施後３月以内に実施する場合）	3
静脈	
下肢静脈瘤手術（抜去切除術）	8

手術名	件数
下肢静脈瘤手術（硬化療法）	34
下肢静脈瘤血管内焼灼術	103
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（四肢）	2
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	8
下大静脈フィルター留置術	3
リンパ管、リンパ節	
リンパ節摘出術（長径３cm未満）	5
リンパ節摘出術（長径３cm以上）	2
リンパ節群郭清術（腋窩）	1
リンパ節群郭清術（頸部深在性）	2
腹壁、ヘルニア	
ヘルニア手術（臍ヘルニア）	3
ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	5
ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	81
ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	1
ヘルニア手術（内ヘルニア）	1
腹腔鏡下ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	6
腹腔鏡下ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	1
腹腔鏡下ヘルニア手術（閉鎖孔ヘルニア）	2
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	29
腹膜、後腹膜、腸間膜、網膜	
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	35
腹腔・静脈シャントバルブ設置術	1
試験開腹術	4
腹腔鏡下試験開腹術	4
腹腔鏡下試験切除術	3
限局性腹腔膿瘍手術（その他）	1
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	19
急性汎発性腹膜炎手術	6
腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術	1
腸間膜損傷手術（縫合のみ）	1
腸間膜損傷手術（腸管切除を伴う）	1
腹腔鏡下大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術	3
後腹膜悪性腫瘍手術	2
胃、十二指腸	
胃縫合術	1
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	3
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	34
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）	2
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ・粘膜切除術）	2
内視鏡的胃内異物摘出術	4
内視鏡的食道下部異物摘出術	10
内視鏡的消化管止血術	64
胃切除術（悪性腫瘍）	3
腹腔鏡下胃切除術（単純）	1
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）	16
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	11
腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	1
胃全摘術（悪性腫瘍）	4
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍）	2
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	6
胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む）	1
十二指腸空腸吻合術	1
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	1
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	14
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	2
胆嚢、胆道	
胆嚢摘出術	35
腹腔鏡下胆嚢摘出術	164
胆管形成手術（胆管切除術を含む）	1

手術名	件数
胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局する）	1
胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上）を伴うもの）	1
肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建なし）	1
総胆管胃（腸）吻合術	1
経皮的胆管ドレナージ術	30
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ＥＮＢＤ）	4
内視鏡的胆道砕石術もの）	32
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	56
内視鏡的胆道拡張術	12
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	22
内視鏡的乳頭切開術（胆道砕石術を伴う）	10
内視鏡的胆道ステント留置術	190
肝	
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	9
肝切除術（部分切除）（単回の切除によるもの）	5
肝切除術（亜区域切除）	5
肝切除術（外側区域切除）	4
肝切除術（１区域切除（外側区域切除を除く））	6
肝切除術（２区域切除）	8
肝切除術（部分切除）（複数回の切除を要するもの）	2
腹腔鏡下肝切除術（部分切除）（単回の切除によるもの）	1
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（２ｃｍ以内のもの）（その他）	30
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（２㎝を超えるもの）（その他）	27
膵	
膵結石手術（経十二指腸乳頭による）	2
膵体尾部腫瘍切除術（膵尾部切除術・腫瘍摘出術を含む））	1
膵体尾部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う場合）	2
膵頭部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う）	1
内視鏡的膵管ステント留置術	15
脾	
脾摘出術	1
空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	
腸切開術	1
腸管癒着症手術	9
腹腔鏡下腸管癒着剥離術	7
腸重積症整復術（非観血的なもの）	1
小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	16
小腸切除術（複雑なもの）	5
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	3
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	2
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	39
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	7
結腸切除術（小範囲切除）	22
結腸切除術（結腸半側切除）	5
結腸切除術（亜全切除）	1
結腸切除術（悪性腫瘍手術）	14
人工肛門造設加算（結腸切除術）	12
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	8
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	49
結腸ポリープ切除術（開腹による）	2
内視鏡的大腸粘膜切除術（長径２㎝未満）	53
内視鏡的大腸粘膜切除術（長径２㎝以上）	4
内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径２㎝以上）	43
内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径２㎝未満）	372
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	42
小腸結腸内視鏡的止血術	47
人工肛門造設術	13
腹腔鏡下人工肛門造設術	1
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴わない）	8
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）（その他のもの）	3

手術名	件数
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）（直腸切除術後のもの）	9
小腸狭窄部拡張術（内視鏡による）	4
下部消化管ステント留置術	12
人工肛門形成術（その他）	1
直腸	
直腸切除・切断術（切断術）	3
直腸切除・切断術（低位前方切除術）	2
直腸切除・切断術（切除術）	4
人工肛門造設加算（直腸切除・切断術）	1
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	5
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）	5
腹腔鏡下直腸切除術	10
人工肛門造設加算（腹腔鏡下直腸切除・切断術）	2
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）	6
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）	10
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）（内視鏡手術用支援機器使用）	3
直腸脱手術（経会陰）（腸管切除を伴うもの）	5
肛門、その周辺	
痔核手術（根治手術（硬化療法（四段階注射法によるもの）を伴うもの））	2
痔瘻根治手術（単純）	2
副腎	
副腎摘出術	1
腹腔鏡下副腎摘出術	6
腎、腎盂	
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	32
腎摘出術	1
腎（尿管）悪性腫瘍手術	1
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	32
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	30
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	7
尿管	
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	122
経尿道的腎盂尿管凝固止血術	1
経尿道的尿管狭窄拡張術	3
経尿道的尿管ステント留置術	242
経尿道的尿管ステント抜去術	2
経尿道的腎盂尿管腫瘍摘出術	1
膀胱	
膀胱周囲膿瘍切開術	1
膀胱異物摘出術（経尿道的手術）	1
膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	27
膀胱壁切除術	4
経尿道的電気凝固術	1
腹腔鏡下膀胱部分切除術	3
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・電解質溶液利用のもの）	175
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（回腸等導管利用尿路変更あり・手術用支援機器）	9
腹腔鏡下尿膜管摘出術	2
膀胱瘻造設術	5
尿道	
尿道結石摘出術（後部尿道）	1
外尿道腫瘍切除術	1
尿道狭窄内視鏡手術	6
尿道狭窄拡張術（尿道バルーンカテーテル）	6
陰茎	
陰茎尖圭コンジローム切除術	1
陰茎切断術	1
包茎手術（環状切除術）	4
包茎手術（背面切開術）	3

手術名	件数
陰嚢、精巣、精巣上体、精管、精索	
精巣摘出術	15
精巣外傷手術（精巣白膜縫合術）	1
精巣悪性腫瘍手術	5
陰嚢水腫手術（その他）	6
精索捻転手術（その他のもの）	3
精索捻転手術（対側精巣固定術を伴う）	2
精嚢、前立腺	
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	7
経尿道的レーザー前立腺切除術（ホルミウムレーザーを用いるもの）	29
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	121
外陰、会陰	
女子外性器腫瘍摘出術	4
会陰形成術（筋層に及ばない）	1
外陰血腫除去術	1
腟血腫除去術	1
腟	
腟ポリープ切除術	5
腟壁尖圭コンジローム切除術	3
子宮	
子宮内膜掻爬術	8
子宮脱手術（腟壁形成手術・子宮全摘術）	6
子宮頸管ポリープ切除術	38
子宮頸部（腟部）切除術	43
子宮息肉様筋腫摘出術（腟式）	3
子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	1
腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	8
子宮全摘術	49
腹腔鏡下腟式子宮全摘術	10
子宮悪性腫瘍手術	11
子宮附属器	
子宮附属器癒着剥離術（両側，腹腔鏡）	1
卵管結紮術（両側，開腹）	4
子宮附属器腫瘍摘出術（両側，腹腔鏡）	43
子宮附属器腫瘍摘出術（両側，開腹）	57
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	5
産科手術	
骨盤位娩出術	1
吸引娩出術	30
鉗子娩出術（低位（出口）鉗子）	6
会陰（陰門）切開及び縫合術（分娩時）	99
会陰（腟壁）裂創縫合術（分娩時・筋層に及ぶ）	75
会陰（腟壁）裂創縫合術（分娩時・腟円蓋に及ぶ）	1
会陰（腟壁）裂創縫合術（分娩時・肛門に及ぶ）	1
会陰（腟壁）裂創縫合術（分娩時・直腸裂創を伴うもの）	1
帝王切開術（緊急切開）	54
帝王切開術（選択切開）	58
子宮頸管縫縮術（マクドナルド法）	5
流産手術（妊娠１１週まで）（その他のもの）	16
流産手術（妊娠１１週まで）（手動真空吸引法によるもの）	1
子宮内容除去術（不全流産）	3
胞状奇胎除去術	4
子宮外妊娠手術（開腹）	2
子宮外妊娠手術（腹腔鏡）	3
新生児仮死蘇生術（仮死第１度）	9
新生児仮死蘇生術（仮死第２度）	2
新生児仮死蘇生術（仮死第２度）	1

手術名	件数
歯科口腔外科（歯科点数による算定数）	
抜歯手術・乳歯	24
抜歯手術・前歯	153
抜歯手術・臼歯	544
抜歯手術・埋伏歯	526
抜歯窩再掻爬手術	2
歯根嚢胞摘出手術（歯冠大）	12
歯根嚢胞摘出手術（拇指頭大）	13
歯根嚢胞摘出術（鶏卵大）	2
歯根端切除手術（２以外の場合）	19
歯の再植術（外傷性脱臼歯）	7
歯槽骨整形手術	2
歯肉・歯槽部腫瘍手術（軟組織）	9
口腔内消炎手術（智歯周囲炎の歯肉弁切除等）	1
口腔内消炎手術（歯肉膿瘍等）	4
口腔内消炎手術（骨膜下膿瘍・口蓋膿瘍等）	10
舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	2
口蓋腫瘍摘出術（口蓋粘膜）	3
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	14
頬・口唇・舌小帯形成術	2
顎骨腫瘍摘出術（３ｃｍ未満）	10
顎骨嚢胞開窓術	6
埋伏歯開窓術	1
口蓋隆起形成術	1
下顎隆起形成術（片側）	1
下顎隆起形成術（両側）	1
腐骨除去手術（歯槽部）	10
腐骨除去手術顎骨（片側１／３未満）	6
口腔外消炎手術　骨膜下膿瘍、皮下腫瘍、蜂窩織炎等（５ｃｍ未満）	2
がま腫切開術	3
歯槽骨骨折非観血的整複術（１～２歯）	2
歯槽骨骨折観血的整複術（３歯以上）	2
下顎骨折非観血的整複術	2
歯牙破折片除去	2
口腔内軟組織異物（人工物）除去術（簡単）	1
顎関節脱臼非観血的整復術	13
歯科インプラント摘出術（人工歯根）	2
口腔外縫合術（小深）	1
口腔内縫合術（中浅）	1

※ 手術名、件数は診療報酬算定データから抽出
※ 手術加算は除く

10. 透　析　件　数

（1）透析患者数

（単位　人）

項目＼年度	28	29	30	元	2
入院患者延数	2,633	2,502	2,355	2,366	1,909
外来患者延数	8,332	7,870	7,239	6,613	6,328
計	10,965	10,372	9,594	8,979	8,237
透析開始者数	39	40	38	34	34
死亡者数	13	20	16	11	7
中止者数	9	1	13	4	8
転出者数	176	193	199	176	163
転入者数	147	152	184	178	252
年度末透析患者数	73	62	58	57	58

（2）アダカラム患者数

（単位　人）

項目＼年度	28	29	30	元	2
入院患者延数	69	23	31	23	12
外来患者延数	49	106	66	64	15
計	118	129	97	87	27
アダカラム開始者数	13	13	11	10	4

（3）ＣＡＰＤ患者数

（単位　人）

項目＼年度	28	29	30	元	2
ＣＡＰＤ年度末患者数	(透析と併用1) 4	(透析と併用1) 4	(透析と併用1) 4	(透析と併用1) 4	(透析と併用2) 2
ＣＡＰＤ開始患者数	0	0	0	0	0
死亡者数	0	0	0	0	0
透析へ移行者数	0	0	0	0	0

11. 中央材料件数

（1）滅菌装置及び洗浄装置運転回数

（単位　回）

項目＼年度	28	29	30	元	2
オートクレーブ　１号缶	649	772	904	862	819
旧　〃　２号缶	175				
新　〃　２号缶	554	711	845	821	751
旧オートクレーブ　３号缶	866	714	515	145	
新オートクレーブ　３号缶				495	693
ハイスピード	585	494	581	424	420
ＥＯＧ（３M社）	266	258	247	254	249
ステラッド 100ＮＸ滅菌器	1.109	1,256	1,470	1,616	1,626
真空超音波洗浄装置	439	416	498	262	156
蛇管洗浄器	293	289	295	281	284
ジェットウォッシャー１号機	650	779	1,070	734	
ジェットウォッシャー２号機	935	1,265	1,631	1,273	1,407
ウォッシャーディスインフェクタ１号	1.970	1,741	1,853	1,773	1,892
ウォッシャーディスインフェクタ２号				1,059	1,669
内視鏡洗浄消毒器	171	158	198	54	
新内視鏡洗浄消毒器				92	216
ベッド洗浄器	888	747	129	10	

※平成28年7月旧オートクレーブ2台撤去・低温プラズマ滅菌器撤去・平成28年7月新オートクレーブ2台設置

※令和元年7月新オートクレーブ3号缶設置・（平成10年購入オートクレーブ3号缶撤去）

※令和元年8月ウォッシャーディスインフェクタ設置(2号)・（平成22年購入ジェットウォッシャー1号機撤去）

※令和元年11月新内視鏡洗浄消毒器設置（平成14年購入内視鏡洗浄消毒器撤去）

12. 薬剤部

（1）院内処方せん

項目 / 年度	枚数			件数（処方数）			剤数		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
28	48,204	14,521	62,725	89,494	31,402	120,896	769,112	315,338	1,084,450
29	49,174	14,002	63,176	93,109	30,316	123,425	739,923	300,671	1,040,594
30	49,079	14,063	63,142	96,780	30,576	127,356	786,566	291,390	1,077,956
元	50,080	14,116	64,196	101,513	30,038	131,551	819,175	289,492	1,108,667
2	46,987	10,366	57,363	93,328	24,213	117,541	756,976	283,197	1,040,173

（2）院外処方せん

年度 / 項目	28	29	30	元	2
枚数	81,763	83,108	87,004	86,007	79,050
発行率（%）	84.9	85.6	86.1	85.9	88.4

（3）注射薬処方せん

年度 / 項目	28	29	30	元	2
枚数	89,182	84,007	80,761	74,887	67,734
件数	208,472	195,650	240,006	248,823	243,388
剤数	323,212	303,508	413,211	422,289	414,752

（4）製剤状況

項目 / 年度	一般製剤		滅菌製剤		注射剤		軟膏類		点眼、点耳、点鼻	
	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量
28	10	6.53L	7	47.57L	4	0.40L	7	13.4Kg	7	5,306個
29	10	7.30L	7	20.18L	4	0.69L	7	12.3Kg	7	4,717個
30	9	7.09L	7	18.93L	3	0.72L	7	13.8kg	7	3,568個
元	9	7.24L	7	16.02L	3	1.09L	5	14.1kg	7	723個
2	10	6.36L	7	11.81L	4	1.06L	3	12.0kg	6	129個

（5）無菌製剤処理業務

（単位　件）

年度 / 項目	28	29	30	元	2
TPN	831	451	716	756	1,059
外来化学療法（抗がん剤調製）	4,719	5,773	6,684	7,532	7,241
入院化学療法（抗がん剤調製）	2,196	1,992	1,577	1,742	1,676

（6）服薬指導業務

（単位　件）

項目＼年度	28	29	30	元	2
薬剤管理指導料請求件数	12,366	12,810	12,475	13,401	12,112
退院時服薬指導加算件数	1,162	1,344	1,093	1,174	1,309
麻薬管理指導加算件数	61	95	146	196	297
がん患者指導料３算定件数	241	269	270	305	352
糖尿病教室指導件数	94	92	64	72	56
外来窓口相談件数	540	540	344	247	194

（7）医薬品情報業務

（単位　件）

項目＼年度	28	29	30	元	2
薬剤便り	4	4	4	4	4
ＤＩニュース	10	12	9	8	11
質問件数	59	69	34	35	30
薬剤鑑別件数	11,441	11,368	11,975	12,398	11,006

※薬剤鑑別件数：病棟業務における持参薬確認を含むICM集計

（8）治験・市販後調査件数

（単位　件）

項目＼年度	28	29	30	元	2
治験等	14	8	7	6	9
市販後調査	51	58	56	37	50

13. 栄養科

（1）食事別延食数

(単位　食)

区分＼年度	28	29	30	元	2
常食	88,765	77,892	85,826	78,726	59,913
軟食	82,515	82,148	82,781	84,241	74,297
流動食	7,240	7,017	6,652	6,132	5,949
特別食	160,856	160,617	150,285	151,190	133,247
調乳	8,236	8,158	7,475	7,270	6,828
その他（感染症）	0	0	0	194	7,556
計	347,612	335,832	333,019	327,753	287,790

（2）特別食延食数

(単位　食)

区分＼年度	28	29	30	元	2
腎臓食	65,039	67,565	59,906	61,376	57,898
肝臓食	15,600	12,470	11,706	11,984	12,480
糖尿食	38,851	41,033	43,992	39,744	37,699
術後食	3,338	4,704	3,550	4,608	2,816
濃厚流動食	14,849	9,608	7,721	8,545	5,840
幼児食・離乳食	9,896	9,702	8,888	10,900	3,197
胆石食	7,378	8,167	7,079	8,040	8,017
その他（胃潰瘍食含む）	5,905	7,368	7,443	5,993	5,300
計	160,856	160,617	150,285	151,190	133,247

（3）栄養指導件数

①個人指導

(単位　件)

区分＼年度	28	29	30	元	2
腎臓食（高血圧食・心臓食含む）	272	306	285	382	500
肝臓食	22	8	8	13	20
糖尿食	561	604	574	604	592
その他（肥満・高脂血症・その他）	270	288	348	361	494
計	1,125	1,206	1,215	1,360	1,606

②集団指導

(単位　件)

区分＼年度	28	29	30	元	2
糖尿病教室	97	98	69	78	61
母親学級	131	166	136	100	0
腎臓病教室	12	9	22	12	0
計	240	273	227	190	61

（4）計画立案件数

(単位　人，件，%)

区分＼年度	28	29	30	元	2
入院患者数（人）	13,668	12,886	13,209	13,087	11,121
計画立案件数（件）	6,034	5,858	6,301	6,231	5,504
作成率（%）	44.2	45.5	47.7	47.6	49.5

14. 看護外来受診者数

（1）受診者数

(単位　人)

項目＼年度	開設	28	29	30	元	2
乳腺看護外来	平成16年度	279	342	479	474	443
緩和看護外来	平成20年度	299	172	99	101	76
糖尿病フットケア外来	平成17年度	137	193	182	161	147
糖尿病療養指導士外来	平成16年度	721	803	865	813	761
小児糖尿病療養指導士外来	平成27年度	58	65	40	29	60
糖尿病地域連携パス外来	平成20年度	272	240	214	208	200
ストーマ看護外来	平成14年度	247	208	256	331	329
ウロストーマ看護外来	平成20年度	111	140	165	153	170
助産師外来	平成17年度	868	780	737	697	293
母乳外来	平成14年度	760	838	816	827	798
合計		3,858	3,752	3,853	3,794	3,277

Ⅲ　災害拠点病院

Ⅲ　災害拠点病院

１．指　定　要　件

当病院は平成 11 年 1 月 6 日から災害拠点病院の指定を受けており、群馬県内では、令和 3 年 3 月末現在で 17 病院が災害拠点病院となっている。

災害拠点病院は、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療確保が困難な場合に、都道府県知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行う病院である。平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（ＥＭＩＳ）の整備、災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の養成等が行われてきた。平成 23 年 3 月の東日本大震災後、「災害時における医療体制の充実強化について」（平成 24 年 3 月 21 日 厚生労働省医政局長通知）により、災害指定病院の指定要件も見直しされ、災害医療体制の強化が図られている。

２．業　務　概　要

防火防災管理委員会の下部組織として、平成 22 年 12 月からＤＭＡＴ隊員及び関係部署員を構成員とする災害医療活動ワーキングチームを立ち上げ、災害訓練の企画実施や災害マニュアルの進行管理など、救急医療活動の基盤強化を進めている。平成 23 年 2 月からは災害医療プロバイダーの養成に着手し、令和 3 年 3 月末現在で 196 人の養成を数えた。今後は、大規模災害を見据え、更なる増員を図るとともに、フォローアップ講習を開催するなど、習熟度の向上に努めていく。

東日本大震災の発生直後には、医師・看護師等 10 人が伊勢崎市民病院ＤＭＡＴとして福島県および宮城県へ出動し医療支援を行った。

今後も、関係機関との連携を図り、災害拠点病院としての使命を果たしていきたい。

３．群馬県内の災害拠点病院

病院名	指定	病院名	指定	病院名	指定
前橋赤十字病院	Ｈ８	公立藤岡総合病院	Ｈ８	伊勢崎市民病院	H10
群馬県済生会前橋病院	Ｈ８	公立富岡総合病院	Ｈ８	伊勢崎佐波医師会病院	H10
日高病院	Ｈ８	原町赤十字病院	Ｈ８	桐生厚生総合病院	Ｈ８
高崎総合医療センター	H23	沼田病院	H10	太田記念病院	Ｈ８
渋川医療センター	H28	利根中央病院	H10	館林厚生病院	H23
群馬中央病院	H24	群馬大学医学部附属病院	H24		

※「指定」欄は年度表記

４．ＤＭＡＴ活動

（１）設置目的

ＤＭＡＴ（Disaster Medical Assistance Team）とは主として超急性期の災害現場において、迅速性や機動性をもって医療活動をできる能力を持った医療チームであり、災害拠点病院は設置が義務づけられている。チームは医師・看護師・調整員の 4～5 名で活動することになっており、当病院は現在 4 チームが存在している。

東日本大震災の際には震災当日にいち早く被災地に出動し、被災地域の災害医療活動をサポートした実績を有し、また技能維持向上の目的で県内外の災害医療訓練に積極的に参加しており、群馬県の災害医療分野でその存在感は増している。

災害時にあっても市民・県民に医療サービスを途絶えることなく提供でき、安心安全を担保すること、これがＤＭＡＴ活動の目的である。

（２）活動の概要

①出動実績

平成 23 年

3 月 11～14 日	東日本大震災に出動（福島県及び宮城県）
3 月　24 日	福島県大町病院より広域医療搬送に出動（前橋市）

平成 28 年

5 月　9～13 日	平成 28 年熊本地震に出動（熊本県）

平成 30 年

1 月　23 日	本白根山噴火災害に出動（吾妻郡）

令和元年

9 月 11～13 日	千葉県風水害（台風 15 号）に出動（千葉県）
10 月　13 日	栃木県風水害（台風 19 号）に出動（栃木県）
10 月 14～15 日	長野県風水害（台風 19 号）に出動（長野県）

②訓練実績

平成 24 年

9 月　16 日	ビッグレスキューかながわ（神奈川県横須賀市）
11 月　9、10 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（茨城県日立市）
11 月　29 日	緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（埼玉県入間市）
12 月　8 日	第 8 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院）

平成 25 年

7 月　10 日	伊勢崎市 3 病院合同災害救護（伊勢崎市）
8 月　31 日	政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（愛知県）
9 月　7 日	群馬県総合防災訓練（伊勢崎市）

平成 26 年

3 月　9 日	第 9 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院）
8 月　30 日	政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（熊本県～大分県）
11 月　14 日	群馬県等関越自動車道等消防連絡協議会訓練（伊勢崎市）
11 月　29 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（群馬県）

平成 27 年

9 月　1 日	平成 27 年度大規模地震時医療活動訓練（埼玉県）
10 月　3、4 日	第 12 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院及び群馬県消防学校）

平成 28 年

1 月　14 日	自衛隊航空機を使用したＤＭＡＴ広域医療搬送実機研修（群馬県）
1 月　30 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（東京都）
2 月　10 日	自衛隊航空機を使ったＤＭＡＴ広域医療搬送実機研修（埼玉県）

8月　　6日　政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（静岡県）
10月　1、2日　第13回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院及び群馬県消防学校）
11月　9、10日　上越新幹線救出救護活動合同訓練（群馬県）
平成29年
1月　　15日　捜索救助等連携訓練（渋川市）
3月　　4日　伊勢崎市消防本部・総合演習（伊勢崎市）
7月　　29日　政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（大阪府）
9月29、30日　第2回合同野営訓練（群馬県消防学校）
10月22、24日　第14回群馬県災害医療研修（日本赤十字社群馬県支部）
平成30年
2月10、11日　ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（栃木県）
8月　　4日　政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（熊本県）
9月　22、23日　第15回群馬県災害医療研修（日本赤十字社群馬県支部）
10月　19、20日　第3回合同野営訓練（群馬県消防学校）
12月　　8、9日　ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（千葉県）
平成31年
3月　　2日　伊勢崎市消防本部・総合演習（伊勢崎市）
令和元年
9月　　7日　政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（埼玉県）
令和2年
1月　　23日　自衛隊航空機を使ったＤＭＡＴ広域医療搬送実機研修（群馬県）

（3）今後の目標

災害は、東日本大震災のような巨大規模のものから、高速道路の多重事故のようなものまであり、いつ何時災害医療のニーズが発生してもおかしくない状況である。「災害に対する備えを怠ることは、既に災害が起きていることと同じである。」という格言もある。

今後も我々の活動を通して、災害医療活動の重要性が認知され病院全体が災害医療に取り組むマインドを創っていきたいと考えている。

Ⅳ　地域がん診療連携拠点病院

Ⅳ　地域がん診療連携拠点病院

１．がん診療連携拠点病院について

がん診療連携拠点病院とは、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国にがん診療連携拠点病院を４０５箇所（都道府県がん診療連携拠点病院５１箇所、地域がん診療連携拠点病院（高度型）５１箇所、地域がん診療連携拠点病院２９８箇所、地域がん診療連携拠点病院（特例型）２箇所、特定領域がん診療連携拠点病院１箇所、国立がん研究センター２箇所）、地域がん診療病院を４６箇所、指定されている。（令和３年４月１日時点）

群馬県内では、群馬大学医学部附属病院が都道府県がん診療連携拠点病院として指定され、当病院を含む７病院が地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。

２．業務概要

当病院は、平成１８年８年２４日付けで厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、平成２１年度に緩和ケア病棟、内視鏡センター、外来化学療法センターで構成される「がん診療総合センター」竣工。診断から治療、緩和医療に至るまでの一貫したがん医療を提供できる体制を整えた。さらに、平成２６年度から手術支援ロボットダヴィンチを導入し、泌尿器科領域（前立腺がん）に対する手術を開始。平成３０年度から外科領域の手術が保険適用となったことに伴い、外科領域の手術を行っている。地域の中核病院として、高度な医療水準をもって、安心安全な医療を提供している。

３．今後の目標

地域がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関と連携した質の高い医療の提供、セカンドオピニオンの提示、緩和医療提供体制の充実、専門的な医療従事者の確保、地域の医療機関やがん患者からの相談体制の充実、院内がん登録の実施、がん医療従事者の研修、市民への啓発活動を行うとともに、伊勢崎保健医療圏におけるがん医療水準の向上を図っていきたい。

４．群馬県内のがん診療連携拠点病院

（１）都道府県がん診療連携拠点病院（１箇所）

・群馬大学医学部附属病院

（２）地域がん診療連携拠点病院（７箇所）

・前橋赤十字病院　　・高崎総合医療センター
・渋川医療センター　　・公立富岡総合病院
・伊勢崎市民病院　　・桐生厚生総合病院
・群馬県立がんセンター

※高度型、特例型、特定領域、地域がん診療病院、国立がん研究センターはなし。

５．院内がん登録件数

（１）腫瘍部位別・年齢別・性別・登録件数（期間　２０２０．１．１～１２．３１）

（単位 件）

腫瘍部位別	性別	登録件数	年齢階層																	
			0-4才	5-9才	10-14才	15-19才	20-24才	25-29才	30-34才	35-39才	40-44才	45-49才	50-54才	55-59才	60-64才	65-69才	70-74才	75-79才	80-84才	85-89才	90才以上
１、口唇・口腔及び咽頭	計	33	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	1	4	3	11	5	3	1
	男	29	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	1	3	3	11	3	3	0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1
２、消化器	計	503	0	0	0	0	0	0	0	3	6	10	16	28	33	61	105	97	81	46	17
	男	321	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5	10	13	22	43	71	65	55	29	3
	女	182	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	6	15	11	18	34	32	26	17	14
３、呼吸器系及び胸腔内臓器	計	164	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	5	9	8	21	47	36	18	9	4
	男	117	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	6	5	18	36	26	15	4	2
	女	47	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	3	3	3	11	10	3	5	2
４、骨・関節・関節軟骨	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
５、造血系・細網内皮系	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
６、皮膚	計	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	5	9	10	12	10	12
	男	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	4	7	5	3	4
	女	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	2	5	3	7	7	8
７、後腹膜・腹膜	計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
８、結合組織・皮下組織・軟部組織	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
９、乳房	計	142	0	0	0	0	0	0	3	3	14	19	18	7	10	15	21	15	11	3	3
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	女	141	0	0	0	0	0	0	3	3	14	19	18	7	10	15	20	15	11	3	3
１０、女性性器	計	53	0	0	0	0	0	2	0	3	3	8	7	6	7	4	6	3	1	2	1
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	53	0	0	0	0	0	2	0	3	3	8	7	6	7	4	6	3	1	2	1
１１、男性性器	計	224	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	8	22	50	64	42	21	7	2
	男	224	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	8	22	50	64	42	21	7	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
１２、尿路	計	178	0	0	0	0	0	0	0	2	7	4	10	9	12	26	39	26	16	21	6
	男	138	0	0	0	0	0	0	0	2	7	2	10	6	10	22	32	17	10	16	4
	女	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2	4	7	9	6	5	2
１３、眼・脳・中枢神経系	計	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
１４、甲状腺・その他の内分泌腺	計	20	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	1	2	1	2	2	3	1	0
	男	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3	0	0
	女	14	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	0	1	1	1	2	1	0	1	0
１５、その他・不明確な部位	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
１６、リンパ節	計	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2	1	1	1	0
	男	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0
	女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	1	0
１７、原発部位不明	計	10	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	3	1	0	2	0
	男	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	女	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0
全体	計	1,407	0	0	0	0	1	2	5	17	39	49	62	72	100	192	301	245	170	106	46
	男	875	0	0	0	0	1	0	1	7	14	11	27	36	62	143	212	172	112	62	15
	女	532	0	0	0	0	0	2	4	10	25	38	35	36	38	49	89	73	58	44	31

1、本表は、2021年7月28日現在の登録済データで作成
2、腫瘍一種類につき一登録件数として計上

（２）腫瘍部位別・年別・性別・登録件数　（各年とも１．１～１２．３１）　（単位 件）

腫　瘍　部　位　別	性　別	登録件数				
		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
１、口唇、口腔及び咽頭	計	18	5	12	22	33
	男	15	3	7	17	29
	女	3	2	5	5	4
２、消化器	計	544	539	623	608	503
	男	378	352	393	403	321
	女	166	187	230	205	182
３、呼吸器系及び胸腔内臓器	計	181	170	158	185	164
	男	138	123	122	140	117
	女	43	47	36	45	47
４、骨・関節・関節軟骨	計	0	0	1	0	0
	男	0	0	1	0	0
	女	0	0	0	0	0
５、造血系・細網内皮系	計	4	4	3	2	1
	男	3	3	3	1	1
	女	1	1	0	1	0
６、皮膚	計	45	39	57	71	65
	男	25	23	28	34	28
	女	20	16	29	37	37
７、後腹膜・腹膜	計	1	2	0	2	2
	男	0	0	0	1	0
	女	1	2	0	1	2
８、結合組織・皮下組織・軟部組織	計	2	3	3	1	0
	男	1	2	2	1	0
	女	1	1	1	0	0
９、乳房	計	168	128	160	155	142
	男	1	0	2	1	1
	女	167	128	158	154	141
１０、女性性器	計	78	63	46	49	53
	男	0	0	0	0	0
	女	78	63	46	49	53
１１、男性性器	計	309	301	249	303	224
	男	309	301	249	303	224
	女	0	0	0	0	0
１２、尿路	計	148	205	199	176	178
	男	117	152	154	129	138
	女	31	53	45	47	40
１３、眼・脳・中枢神経系	計	12	9	17	7	3
	男	6	7	3	5	2
	女	6	2	14	2	1
１４、甲状腺・その他の内分泌腺	計	23	24	23	15	20
	男	11	7	6	3	6
	女	12	17	17	12	14
１５、その他・不明確な部位	計	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0
１６、リンパ節	計	4	10	2	11	9
	男	0	6	1	7	4
	女	4	4	1	4	5
１７、原発部位不明	計	5	6	11	2	10
	男	1	1	7	0	4
	女	4	5	4	2	6
全　　体	計	1,542	1,508	1,564	1,609	1,407
	男	1,005	980	978	1,045	875
	女	537	528	586	564	532

１、2020年は2021年7月28日現在の登録済データを基に作成
２、腫瘍一種類につき一登録件数として計上

６．相談支援センター相談件数

（１）がん診療相談内容

（単位　件）

区分＼年度	29	30	元	2
治療	256	276	154	3
検査	45	36	22	0
症状・副作用・後遺症	288	283	203	0
セカンドオピニオン（受入）	0	1	0	0
セカンドオピニオン（紹介）	3	2	3	0
治療実績	1	2	0	0
臨床試験・先進医療	4	2	1	0
受診方法・入院	3	2	3	4
転院	3	8	2	0
医療機関の紹介	4	1	1	0
予防・検診	9	54	66	1
在宅医療	1	0	1	3
ホスピス・緩和ケア	7	8	44	11
食事・服薬・入浴・運動・外出など	17	27	15	1
介護・看護・教育	5	2	3	5
社会生活（仕事・就労・学業）	55	71	43	2
医療費・生活費・社会保障制度	16	13	25	1
補完代替療法	0	0	3	0
生きがい・価値観	92	133	72	0
不安・精神的苦痛	415	518	583	5
告知	10	27	26	0
医療者との関係・コミュニケーション	21	34	76	1
患者ー家族間の関係・コミュニケーション	43	73	64	3
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	9	16	25	0
患者会・家族会（ピア情報）	17	6	8	0
不明	0	0	0	0
その他	4	6	12	3
合計	1,328	1,601	1,455	43

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため電話のみの対応とした。

（2）対応内容

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2
傾聴・語りの促進・支援的な対応	639	634	624	13
助言・提案	20	13	17	11
情報提供	23	7	14	18
自施設受診の説明	0	0	2	0
他施設受診の説明	0	0	0	0
自施設他部門への連携	3	0	3	4
他施設への連携	1	0	0	2
ピアサポート機能の紹介	0	0	0	1
その他	0	0	2	2
合計	686	654	662	51

（3）がんの種類別

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2
脳・神経・眼	0	0	0	1
耳鼻咽喉・口腔	0	1	1	5
胃	53	33	23	0
食道	3	4	0	3
大腸	125	147	107	1
小腸・肛門	0	0	2	1
肝・胆	14	16	12	0
膵	48	27	63	3
肺	54	70	89	2
縦隔・心臓	0	0	0	6
乳房	224	172	191	0
卵巣・膣・外陰部	51	91	55	8
子宮	10	8	23	0
精巣	0	0	0	1
前立腺	18	25	14	0
腎・尿管・膀胱	29	25	23	4
甲状腺	6	5	3	2
副腎	0	0	0	0
血液・リンパ	2	3	2	0
皮膚	1	1	0	1
骨・軟部組織	0	0	0	0
後腹膜・腹膜	1	5	17	0
中皮腫	0	0	0	0
原発不明	0	1	0	0
不明	3	1	1	4
その他	2	0	0	0
合計	644	635	626	42

７．外来化学療法センター

（1）点滴実施件数

(単位　件)

診療科名	疾患名	28	29	30	元	2
内科	肺がん	524	417	398	572	533
	胃がん	112	204	140	78	117
	大腸がん	186	308	283	258	253
	胆・膵がん	304	317	265	228	189
	食道がん	0	13	19	5	1
	肝臓がん	－	－	－	－	25
外科	肺がん	107	160	209	173	164
	乳がん	714	850	791	806	837
	胃がん	139	201	151	125	170
	大腸がん	229	261	567	720	684
	食道がん	0	0	1	2	3
	胆・膵がん	141	193	222	180	34
婦人科	子宮がん	20	16	14	13	17
	卵巣がん	81	75	92	113	116
	腹膜がん	4	0	0	3	0
泌尿器科	前立腺がん	76	82	62	76	94
	腎がん	66	166	207	376	401
	膀胱がん	164	79	96	144	126
	尿路上皮がん	28	10	26	34	55
合計		2,895	3,352	3,543	3,906	3,819

※内科「肝臓がん」は令和２年度から統計開始

（2）皮下注射実施件数

(単位　件)

診療科名	疾患名	28	29	30	元	2
外科	乳がん	270	309	315	385	498
泌尿器科	前立腺がん	2,885	3,006	2,873	2,978	2,776
合計		3,155	3,315	3,188	3,363	3,274

８．緩和ケアチーム

（１）緩和ケアチーム依頼（依頼人数、実人数、初回依頼）　（単位　件，人）

区分 月	のべ件数	依頼人数	実人数	初回依頼
4 月	595	39	55	19
5 月	605	47	62	21
6 月	742	50	72	21
7 月	649	47	65	23
8 月	750	53	74	27
9 月	711	43	73	13
10 月	691	53	74	19
11 月	729	41	62	16
12 月	696	44	61	27
1 月	818	44	60	23
2 月	616	34	54	20
3 月	658	54	70	29
合計	8,260	549	782	258

Ⅴ　地域医療支援病院

Ⅴ　地 域 医 療 支 援 病 院

１．地域医療支援病院について

『地域医療支援病院』の役割は、「かかりつけ医」からの紹介患者に対する医療の提供、医療機器の共同利用、救急医療の提供及び医療従事者の研修を行うことです。

２．紹介患者に対する医療の提供

区　　分		28	29	30	元	2
紹介患者に対する医療の提供	紹介率	82.1%	81.1%	83.8%	88.1%	81.2%
	逆紹介率	94.3%	92.0%	93.2%	99.3%	95.9%
医療機器の共同利用（CT・MRI・RI）		690 件	685 件	680 件	466 件	381 件
救急医療の提供		18,216 人	16,721 人	16,862 人	16,283 人	12,250 人
医療従事者の研修	研修回数	37 回	43 回	40 回	33 回	6 回
	参加人数	1,814 人	2,292 人	2,575 人	1,438 人	220 人

３．連携登録医療機関

区　　分	28	29	30	元	2
登録医療機関数	534 施設	543 施設	572 施設	579 施設	601 施設
登録医師数	629 人	648 人	678 人	688 人	717 人

４． 地域医療連携業務統計

（1）紹介の状況

①診療科別紹介患者数

（単位　人，%）

診療科＼年度	28		29		30		元		2	
	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	4,629	102.8	4,437	95.9	4,770	107.5	5,059	106.1	4,383	86.6
精神科	5	71.4	3	60.0	1	33.3	1	100.0	5	500.0
神経内科	117	1,300.0	211	180.3	298	141.2	310	104.0	295	95.2
循環器内科	954	97.4	980	102.7	978	99.8	991	101.3	990	99.9
小児科	2,137	106.8	2,202	103.0	2,165	98.3	2,180	100.7	1,436	65.9
外科	1,091	95.1	1,211	111.0	1,235	102.0	1,349	109.2	1,182	87.6
整形外科	1,156	107.9	1,263	109.3	1,487	117.7	1,417	95.3	1,178	83.1
脳神経外科	370	97.9	274	74.1	219	79.9	126	57.5	85	67.5
心臓血管外科	541	102.5	695	128.5	691	99.4	682	98.7	499	73.2
皮膚科	611	109.1	662	108.3	817	123.4	866	106.0	697	80.5
泌尿器科	2,181	104.4	2,366	108.5	2,432	102.8	2,649	108.9	2,554	96.4
産婦人科	1,082	82.9	1,005	92.9	986	98.1	891	90.4	811	91.0
眼科	431	73.9	455	105.6	406	89.2	302	74.4	284	94.0
耳鼻いんこう科	1,535	103.9	1,451	94.5	1,624	111.9	1,454	89.5	1,199	82.5
放射線科	745	94.5	724	97.2	712	98.3	481	67.6	395	82.1
麻酔科	17	56.7	22	129.4	18	81.8	22	122.2	13	59.1
歯科口腔外科	1,075	102.2	1,081	100.6	1,399	129.4	1,531	109.4	1,408	92.0
緩和ケア内科	47	85.5	50	106.4	44	88.0	45	102.3	33	73.3
救急科	46	164.3	31	67.4	34	109.7	33	97.1	27	81.8
合計	18,770	101.0	19,123	101.9	20,316	106.2	20,389	100.4	17,474	85.7
１日平均		77.2		78.4		83.3		85.0		71.9
紹介率		82.1		81.1		83.8		88.1		81.2

※紹介率算定式

$$\frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数}-\text{救急車搬送患者数}-\text{休日・夜間受診患者数}}\times 100$$

（2）逆紹介の状況

①診療情報提供書作成数の状況

（単位　人，%）

年度 / 診療科	28		29		30		元		2	
	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比
内科	4,188	101.0	3,750	89.5	3,841	102.4	4,215	109.7	3,833	90.9
精神科	173	432.5	66	38.2	38	57.6	46	121.1	52	113.0
神経内科	178	323.6	399	224.2	551	138.1	508	92.2	491	96.7
循環器内科	841	114.3	846	100.6	837	98.9	782	93.4	1,089	139.3
小児科	409	85.0	357	87.3	505	141.5	388	76.8	307	79.1
外科	1,383	85.1	1,236	89.4	1,362	110.2	1,496	109.8	1,438	96.1
整形外科	1,239	103.5	1,340	108.2	1,487	111.0	1,540	103.6	1,362	88.4
脳神経外科	714	108.7	514	72.0	485	94.4	320	66.0	60	18.8
心臓血管外科	414	113.1	577	139.4	609	105.5	551	90.5	512	92.9
皮膚科	493	95.4	486	98.6	703	144.7	656	93.3	533	81.3
泌尿器科	2,133	115.9	2,387	111.9	2,545	106.6	2,646	104.0	2,740	103.6
産婦人科	614	136.1	552	89.9	461	83.5	474	102.8	438	92.4
眼科	608	127.5	568	93.4	738	129.9	416	56.4	207	49.8
耳鼻いんこう科	764	139.9	624	81.7	840	134.6	679	80.8	416	61.3
放射線科	763	88.2	751	98.4	727	96.8	514	70.7	417	81.1
麻酔科	11	122.2	16	145.5	12	75.0	9	75.0	1	11.1
歯科口腔外科	856	107.0	1,062	124.1	927	87.3	1,364	147.1	1,081	79.3
緩和ケア内科	23	92.0	10	43.5	19	190.0	25	131.6	26	104.0
救急科	339	103.4	252	74.3	222	88.1	298	134.2	211	70.8
合計	16,143	106.5	15,793	97.8	16,909	107.1	16,927	100.1	15,214	89.8
1日平均		66.4		64.7		69.3		70.5		62.6
逆紹介率		94.3		92.0		93.2		99.3		95.9

※逆紹介率算定式

$$\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}-\text{救急車搬送患者数}-\text{休日・夜間受診患者数}}\times 100$$

②地域連携クリニカルパスの状況　（新規算定数）

（単位　人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸がん	5	5	1	0	1	3	1	0	3	3	5	4	31
乳がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前立腺がん	12	17	23	9	5	11	10	10	5	5	12	11	130
腎臓がん	4	5	2	3	0	2	2	4	0	0	3	1	26
大腿骨	1	1	0	1	4	3	1	2	4	11	3	1	32
脳卒中	0	2	0	2	1	0	0	1	0	11	0	0	17
CKD	0	1	2	0	0	2	0	1	2	0	0	3	11

Ⅵ　入退院支援センター

Ⅵ. 入退院支援センター

1．業務概要

入退院支援センターは、入院する患者及びその家族に入院前から関わり退院を見据えた相談支援を行うことで、安心して入院生活を送ってもらえるように患者サービスの向上に努めている。また、入院・外来を問わず疾病に関する医学的な質問並びに生活上及び入院上の不安等様々な相談を受けている。相談のために、医療ソーシャルワーカー、看護師、事務員等多職種の職員を配置している。

2．業務統計

（1）入院支援業務

①患者数

（単位　人，%）

区分＼年度	28		29		30		元		2	
	人数	前年比	人数	前年比	人数	前年比	人数	前年比	人数	前年比
新規	3,073	189.3	3,572	116.2	4,734	132.5	7,791	164.6	7,105	91.2
継続	4,102	219.8	4,779	116.5	1,726	36.1	1,981	114.8	1,386	70.0
合計	7,175	205.6	8,351	116.4	6,460	77.4	9,772	151.3	8,491	86.9
延べ人数	10,474	148.3	11,206	107.0	8,634	77.0	12,015	139.2	10,579	88.0

②援助内容別件数

（単位　件，%）

区分＼年度	30	元		2	
	件数	件数	前年比	件数	前年比
術前支援	8,273	9,110	110.1	7,869	86.4
入院時問診	4,680	5,236	111.9	4,568	87.2
褥瘡に関する危険因子の評価	2,545	5,203	204.4	4,550	87.4
栄養状態の評価	4,603	5,201	113.0	4,550	87.5
服薬中の薬剤の確認	6,461	7,808	120.8	6,779	86.8
退院困難な要因の評価	3,872	5,212	134.6	4,551	87.3
在宅サービス利用の把握	3,956	4,526	114.4	3,695	81.6
治療・検査説明（パス説明）	4,175	5,705	136.6	5,211	91.3
入院生活の説明（オリエンテーション）	4,701	7,562	160.9	6,931	91.7
合計	43,266	55,563	128.4	48,704	87.7

③加算件数

（単位　件，%）

区分＼年度	30	元		2	
	件数	件数	前年比	件数	前年比
入院時支援加算	171	294	171.9	341	116.0

④科別件数

（単位　件，%）

診療科＼年度	28		29		30		元		2	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内科	53	皆増	853	1609.4	1,039	121.8	2,249	216.5	2,042	90.8
精神科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
神経内科	0	－	0	－	17	皆増	95	558.8	67	70.5
循環器内科	0	－	0	－	108	皆増	414	383.3	405	97.8
小児科	0	－	0	－	0	－	53	皆増	53	100.0
外科	1,588	91.1	1,675	105.5	1,255	74.9	1,649	131.4	1,321	80.1
整形外科	639	224.2	590	92.3	635	107.6	734	115.6	722	98.4
脳神経外科	0	皆減	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減
心臓血管外科	370	2846.2	531	143.5	460	86.6	488	106.1	342	70.1
皮膚科	0	－	0	－	68	皆増	191	280.9	187	97.9
泌尿器科	3,007	389.5	3,278	109.0	1,792	54.7	2,298	128.2	1,860	80.9
産婦人科	616	皆増	647	105.0	293	45.3	553	188.7	558	100.9
眼科	0	－	0	－	1	皆増	52	520.0	97	186.5
耳鼻いんこう科	902	133.6	777	86.1	618	79.5	814	131.7	584	71.7
放射線科	0	－	0	－	0	－	2	皆増	2	100.0
麻酔科	0	－	0	－	0	－	1	皆増	1	100.0
歯科口腔外科	0	－	0	－	174	皆増	145	83.3	195	134.5
緩和ケア内科	0	－	0	－	0	－	6	皆増	37	616.7
救急科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
不明	0	－	0	－	0	－	27	皆増	18	66.7
合計	7,175	205.6	8,351	116.4	6,460	77.4	9,772	151.3	8,491	86.9

（2）相談窓口業務

業務内容別件数

（単位　件，%）

区分＼年度	28		29		30		元		2	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
限度額認定証説明	1,595	146.1	1,445	90.6	1,614	111.7	5,825	360.9	5,505	94.5
介護保険説明	56	160.0	35	62.5	39	111.4	24	61.5	16	66.7
入院に関すること	5	20.0	9	180.0	10	111.1	18	180.0	52	288.9
退院に関すること	16	55.2	7	43.8	14	200.0	12	85.7	7	58.3
経済問題に関すること	88	108.6	59	67.0	65	110.2	39	60.0	40	102.6
在宅療養に関すること	29	96.7	32	110.3	35	109.4	38	108.6	22	57.9
治療等に関すること	38	41.8	31	81.6	35	112.9	20	57.1	17	85.0
各種制度に関すること	354	119.2	480	135.6	523	109.0	77	14.7	109	141.6
接遇に関する要望等	5	62.5	75	1500.0	41	54.7	39	95.1	47	120.5
その他・案内等	487	137.6	217	44.6	224	103.2	90	40.2	49	54.4
合計	2,673	130.9	2,390	89.4	2,600	108.8	6,182	237.8	5,864	94.9

（3）退院支援業務

①相談件数

（単位　件，%）

区分＼年度	28	29		30		元		2	
	件　数	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
新　規	4,367	5,467	125.2	6,010	109.9	5,976	99.4	6,682	111.8
延べ件数	8,378	9,939	118.6	10,786	108.5	10,622	98.5	11,775	110.9

②診療科別件数

（単位　件，%）

診療科＼年度	28	29		30		元		2	
	件　数	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
内　科	1,795	2,015	112.3	2,348	116.5	2,341	99.7	2,735	116.8
精神科	4	3	75.0	4	133.3	0	皆減	0	－
神経内科	61	257	421.3	408	158.8	387	94.9	246	63.6
循環器内科	271	390	143.9	355	91.0	330	93.0	599	181.5
小児科	49	85	173.5	141	165.9	132	93.6	145	109.8
外　科	327	377	115.3	455	120.7	467	102.6	552	118.2
整形外科	662	955	144.3	991	103.8	1,029	103.8	961	93.4
脳神経外科	464	327	70.5	219	67.0	10	4.6	7	70.0
心臓血管外科	226	328	145.1	270	82.3	285	105.6	292	102.5
皮　膚　科	15	12	80.0	27	225.0	34	125.9	45	132.4
泌尿器科	215	341	158.6	354	103.8	413	116.7	414	100.2
産婦人科	94	173	184.0	195	112.7	243	124.6	318	130.9
眼　科	0	0	－	3	皆増	5	166.7	2	40.0
耳鼻いんこう科	25	13	52.0	22	169.2	21	95.5	16	76.2
放射線科	0	0	－	0	－	0	－	1	皆増
麻　酔　科	3	0	皆減	2	皆増	3	150.0	4	133.3
歯科口腔外科	15	1	6.7	3	300.0	1	33.3	4	400.0
緩和ケア内科	134	180	134.3	209	116.1	261	124.9	317	121.5
救　急　科	7	7	100.0	4	57.1	13	325.0	24	184.6
その他	0	3	皆増	0	皆減	1	皆増	0	皆減
合　計	4,367	5,467	125.2	6,010	109.9	5,976	99.4	6,682	111.8

※「その他」は受診せず相談のみを示す。

③加算等算定件数

（単位　件，%）

区分＼年度	28	29		30		元		2	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
入退院支援加算１	1,705	1,899	111.4	1,929	101.6	1,942	100.7	2,636	135.7
介護支援連携指導料	618	568	91.9	574	101.1	430	74.9	148	34.4
退院前訪問指導料	－	－	－	6	皆増	6	100.0	6	100.0

④援助内容件数

（単位　件，%）

区分＼年度	28	29		30		元		2	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
退院援助	4,793	5,960	124.3	6,443	108.1	6,128	95.1	6,581	107.4
在宅療養援助	720	625	86.8	492	78.7	518	105.3	684	132.0
経済的問題援助	165	200	121.2	250	125.0	146	58.4	173	118.5
制度利用援助	1,409	1,271	90.2	1,395	109.8	1,140	81.7	1,265	111.0
特定妊婦に関する援助	－	388	皆増	408	105.2	428	104.9	442	103.3
要保護児童及び虐待に関する援助	－	436	皆増	441	101.1	268	60.8	371	138.4
その他	573	552	96.3	602	109.1	452	75.1	392	86.7
合計	7,660	9,432	123.1	10,031	106.4	9,080	90.5	9,908	109.1

⑤転院先内訳

（単位　件，%）

区分＼年度	28	29		30		元		2	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
一般病床	78	127	162.8	171	134.6	171	100.0	125	73.1
回復期リハビリテーション病棟	216	202	93.5	196	97.0	259	132.1	183	70.7
地域包括ケア病床	56	166	296.4	154	92.8	172	111.7	172	100.0
療養病床	97	83	85.6	85	102.4	57	67.1	102	178.9
精神科病床	13	8	61.5	13	162.5	11	84.6	23	209.1
緩和ケア病床（他院）	1	3	300.0	0	皆減	2	皆増	2	100.0
介護老人保健施設	88	100	113.6	82	82.0	77	93.9	72	93.5
施設（老健以外）	84	163	194.0	157	96.3	109	69.4	182	167.0
合計	633	852	134.6	858	100.7	858	100.0	861	100.3

（4）外来患者支援ボランティア活動状況

①活動人数等

（単位　人，日）

区分＼年度		28		29		30		元		2	
		人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減
新規活動登録者		1	△3	7	6	4	△3	7	3	0	皆減
活動中止者		1	△2	6	5	6	0	8	2	8	0
年度末現在登録者数		33	0	34	1	32	△2	31	△1	23	△8
男女別	男	5	0	6	1	5	△1	7	2	5	△2
	女	28	0	28	0	27	△1	24	△3	18	△6
平均年齢（歳）		69.1	2.3	68.1	△1.0	68.1	0	70.9	2.8	71.5	0.6
ボランティア活動日数		245	3	240	△5	244	4	217	△27	0	皆減
平均（人／日）		4.5	0.1	4.1	△0.4	4.3	0.2	4.1	△0.2	0.0	皆減

②活動内容

（単位　回，%）

区分＼年度	28		29		30		元		2	
	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比
車椅子提供	4,046	110.4	4,015	99.2	3,585	89.3	3,029	84.5	0	皆減
介助	1,458	116.5	1,881	129.0	1,687	89.7	1,356	80.4	0	皆減
受付支援	1,886	125.2	2,177	115.4	1,903	87.4	1,639	86.1	0	皆減
その他	1,992	93.0	1,846	92.7	1,947	105.5	1,706	87.6	0	皆減
合計	9,382	109.6	9,919	105.7	9,122	92.0	7,730	84.7	0	皆減

※「その他」は車椅子の点検やカートの貸し出し等を示す。

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためボランティア活動は実施せず。

Ⅶ　チ ー ム 医 療

Ⅶ　チ ー ム 医 療

１．院内褥瘡対策委員会

（１）設置目的

当病院における褥瘡の発生及び悪化を予防するための適切な評価とケアを提供することが目的である。

（２）活動の概要

「院内褥瘡対策マニュアル」に基づいて、院内褥瘡対策を実践している。入院時に危険因子の評価を行い、圧迫やずれの排除を行いながら予防に努めている。また、医師、看護師、薬剤師で構成する褥瘡対策チームが、毎月、第 2、4、5 火曜日に全病棟の褥瘡回診を行っている。除圧方法、体圧分散寝具の確認、栄養状態、スキンケア方法、リハビリテーションの確認を行って治療方針を決定するとともに、DESIGN-R®に基づいた褥瘡の評価を実施している。毎月開催する院内褥瘡対策委員会および院内褥瘡対策小委員会においては、適宜、褥瘡対策・予防に関する調査、勧告、分析や情報提供を行っている。さらに、褥瘡対策の基本的な考え方について職員への周知徹底を図ることを目的に、新規採用職員の就職時初期研修、DESIGN-R®についての研修や全職員対象の研修を開催している。また、必要に応じて、院内褥瘡対策マニュアルの改訂、褥瘡委員会ニュースの発行を行い、全職員に対しての啓発活動を行っている。体圧分散寝具および体圧分散クッションは一部中央管理とし、使用状況の確認を行いながら各病棟での過不足を解消するようにアレンジを行い、故障時や破損時の対応も委員会で行っている。

（３）今後の目標

褥瘡ケアの質の向上をはかるために、各自が専門家として自己研鑽を行い、褥瘡推定発生率・有病率の低下を目指すとともに、予防的スキンケアの定着、DESIGN-R®の普及、院内褥瘡対策マニュアルの改訂、体圧分散寝具および体圧分散クッションの整備に努め、褥瘡予防を的確に行えるような体制の構築に努めていく。

（田村　敦志）

２．ＮＳＴ委員会

（１）設置目的

平成 24 年 4 月から、すべての入院患者に栄養管理を行う事が必須となった。その中で栄養状態に問題がある人を特別な栄養管理が必要として、栄養士が中心になって重点的に管理するようになった。ＮＳＴは、Nutrition Support Team の略称で、さらに栄養状態に問題がある人を対象として、多職種で最善の策を考えるものである。

（２）活動の概要

ＮＳＴは、平成16年12月から活動を開始し、当院は平成17年10月に日本静脈経腸栄養学会「ＮＳＴ稼働施設認定」、平成18年9月に日本栄養療法推進協議会「ＮＳＴ稼働施設認定」を取得した。

メンバーは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士で構成されており、栄養状態の改善が必要な患者を対象に、週1回のカンファレンスや回診を行い、栄養評価を実施し主治医へ報告・栄養管理方法の提案をしている。また、勉強会などを開催して、栄養管理に関する新しい知識の紹介や啓発を行っている。栄養管理という治療の土台を理解し実践することで、患者さんの治癒に貢献できるよう努めている。

（３）今後の目標

当病院の栄養管理をさらに充実させるべく、新しい栄養管理の情報を効率よく集めて院内に伝達普及し、また、院内での経験を蓄積し、定期的に院外の研究会等で報告する活動を行っていきたい。

（富澤　直樹）

３．緩和ケアチーム

（１）設置目的

当病院では平成 14 年 12 月に緩和ケア推進委員会が発足し、平成 15 年 2 月から緩和ケアチームの活動を開始した。

何らかの疾患を有して、身体的、精神的、社会的苦痛やスピリチュアルペインを有する入院中の患者を対象としている。

それらの患者やその家族に組織横断的に介入することで、患者、家族、医療スタッフの抱える問題を解決するための援助を行う事が目的である。

また、その活動を通じて院内の緩和ケア知識、技術の均てん化も図っている。

（２）活動の概要

緩和ケアチームの活動は 18 年目を迎え、スタッフは身体面担当医師（廣野）、専従看護師（五十嵐）、臨床心理士（神山）の 3 名となった。

令和 2 年 4 月から令和 3 年 3 月までの緩和ケアチームへの依頼は、延べ 549 人（前年度 463 人）であった。

チーム活動としては医師、専従看護師、臨床心理士の 3 人で行ってきた。

毎週月・水・木曜日に一般病棟をチームで訪問する多職種合同カンファレンスを行っており、年間 999 件（前年度 1,083 件）実施した。

緩和看護外来は年間で 76 件（前年度 101 件）の相談に対応した。

病棟主催のデスカンファレンスには緩和ケアチームとして 7 回(前年度 4 回)参加した。

（３）今後の目標

これまでと同様、病院内外の緩和ケアのレベルアップに尽力する。

（廣野　正法）

４．クリニカルパス委員会

（１）設置目的

医療の標準化の重要性が見直されている今日、患者ケアの質向上と効率化という、ある面で相反する目標を追求する効果的な医療手段としてクリニカルパスがある。

クリニカルパスとは、患者の状態と診療行為の目標、評価及び記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法である。

クリニカルパスを効果的に運用するためには、医師・看護師・管理栄養士・理学療法士等、患者も含めた全ての医療に関わる人がチームとして一体となった医療が最も必要とされ、現在は地域の医療機関との連携も非常に重要になっている。

チーム医療によるクリニカルパス手法の更なる普及を目指し、患者中心の医療・ケアにさらに貢献したいという願いから設置された。

（２）活動の概要

①クリニカルパスの確認、承認

②院内講演会・院内クリニカルパス大会の開催

③日本クリニカルパス学会、日本医療マネジメント学会及び群馬クリニカルパス研究会などの各種学会・研究会への発表・参加

これらの活動を通してクリニカルパスに関する院内の啓発活動、院内におけるパスの推進を図っている。

地域の医療機関とも連携し、内科・神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科で地域連携クリニカルパスの運用を行っている。

（３）今後の目標

スタッフの負担を軽減し、患者により良い医療を提供できるクリニカルパスの作成を目指したい。今後も研究を重ね、地域連携クリニカルパスを充実させ、地域の医療機関との連携にも努めていきたい。

（竹澤　豊）

５.感染対策／抗菌薬適正支援チーム（ＩＣＴ／ＡＳＴ）

（１）設置目的

伊勢崎市民病院会議設置要綱に則し、病院および地域の感染管理活動推進を目的に設置。医師１名、看護師６名（うち感染管理認定看護師２名）、薬剤師２名（うち認定感染制御薬剤師１名）、検査技師２名（うち感染制御認定微生物検査技師２名）の感染管理の知識・技術を習得した 11 名で構成されている。

（２）活動の概要

耐性菌分離率、医療関連感染発生率等のサーベイランスやラウンド等を行う事で医療関連感染に関する情報を収集し、抗菌薬適正使用を含む感染症診療の援助、職員教育、マニュアル整備・見直し、職業感染対策、ファシリティマネジメント、コンサルテーション等の感染対策を推進している。ICT 活動の中心は、毎日の細菌等情報を検討するミーティングや毎週水曜日に行われるカンファレンス、目的別に行われるラウンド、定期開催の地域カンファレンスである。多職種が各々の専門性を発揮し参加している。

2015 年 5 月に世界保健機関（WHO）総会で薬剤耐性に関する国際行動計が採択された。日本でも 2016 年～2020 年の 5 年間で薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが計画され、2018 年 4 月より抗菌薬適正使用支援チームが新設された。医療分野の成果指標のひとつに黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率があり、2020 年の政府目標値は 20%以下である。当病院の値は、2016 年度 27.1%、2017 年度 24.1%、2018 年度 20.0%、2019 年度 24%、2020 年度 22%であった。MRSA を含む耐性菌の多くが市中での保菌であり、目標達成には地域全体での抗菌薬適正使用の推進が必要である。その活動の一端として、伊勢崎地域感染対策地域カンファレンス（IICC）を開催している。伊勢崎佐波及び本庄より計 9 病院および伊勢崎保健福祉事務所が参加し、地域での抗菌薬適正使用に取り組んでいる。また、感染対策の遵守状況を評価する相互ラウンドを継続して実施している。今後も参加医療機関の拡大を目指しながら感染対策の地域連携を強化していく。

（３）今後の目標

チームメンバーの各自が専門家として自己研鑽を行い、能力を発揮し、様々な感染対策をバランス良く行う事で医療関連感染と薬剤耐性菌の低減を目指す。また、他医療チームや部門、地域との連携を推進する事で病院内外の感染対策の質を高めていく。

（上野　敬史）

６．認知症ケアチーム

（１）設置目的

高齢者は認知症の有無にかかわらず、入院による環境の変化から容易に不穏状態に陥ることで、異常行動・意思疎通困難などが出現し得る。こうした状況は適切な医療処置や看護に重大な支障を来すことが予想される。本チームは患者の精神状態や異常行動などを把握・評価し、安心・安全な入院生活を送れるよう適切な対処法を提供することを目的に平成 29 年 2 月に設置された。

（２）活動の概要

本チームのスタッフは、認知症に関する専門的な研修を受けた医師、看護師、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、社会福祉士などで構成されている。

精神・行動異常を呈する患者を対象に、週１回の回診とカンファレンスを行うことでその時点で最善と考えられる対処法を関係職員に提供している。さらに、週 4 回の集団レクリエーションも実施している。

また、年１回の病院全体研修のほか、看護師のみを対象とした研修を行い、認知症患者のケアに対する知識と理解を深める取組を継続して行うことで、入院生活の質の向上を図っている。

（３）今後の目標

認知症や高齢患者に対するケア・治療について院内職員に適切なアドバイスができるよう、チーム各自が研鑽を重ねる。

院内職員に定期的な研修を行うことで認知症について理解を深め、病院全体で安心・安全な入院生活を患者に提供できる体制の構築に努める。

（櫻井　篤志）

７．排尿ケアチーム

（１）設置目的

排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチームであり、医師及び看護師等が連携し、患者の排尿自立の可能性及び下部尿路機能の評価に合わせた排尿誘導等の保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせ、下部尿路機能の回復のための包括的なケアを実施することを目的とする。

（２）活動の概要

排尿ケアチームは、手術、もしくは何らかの理由により尿道留置カテーテルが挿入となった患者に対し、早期の排尿自立を目指し活動している。尿路感染症対策、残尿測定、患者が在宅で行う自己導尿の指導、排尿ケアに関する排尿ケアマニュアルの整備及び見直しを行い職員への周知を図っている。また、職員の排尿ケアへの意識・知識の向上に繋がるよう、全職員を対象とした研修会を開催している。

メンバーは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士で構成されており、排尿ケアが必要な患者を対象に週１回のカンファレンスと回診を行い、２箇月に１回、看護師を中心として排尿ケアに関するミーティングを行っている。

（３）今後の目標

排尿ケアの質の向上を図るために各自が専門家として自己研鑽を行い、様々な症例への対応を重ね、患者にとって的確な排尿ケアを行える体制を維持し、充実していくことを目指す。

患者が安心して日常生活が送れるよう、チームのみならず病院全体としても排尿ケアに対する知識、意識の向上を図り、的確なケア体制の構築に努めていく。

（竹澤　豊）

Ⅷ　経 営 状 況

Ⅷ 経 営 状 況

1．損 益 計 算 書

（単位　千円，％）

年度 / 科目	28		29		30		元		2	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
医業収益	13,849,310	101.1	13,890,935	100.3	14,477,057	104.2	14,846,739	102.6	13,664,534	92.0
入院収益	9,409,449	102.4	9,409,151	100.0	9,766,882	103.8	9,964,387	102.0	9,061,395	90.9
外来収益	3,922,621	97.7	3,977,695	101.4	4,192,251	105.4	4,376,999	104.4	4,198,217	95.9
その他医業収益	517,240	105.1	504,089	97.5	517,924	102.7	505,353	97.6	404,922	80.1
医業外収益	557,056	103.4	489,237	87.8	461,181	94.3	475,732	103.2	2,209,183	464.4
他会計補助金	353,112	97.2	343,059	97.2	330,207	96.3	322,481	97.7	312,119	96.8
その他医業外収益	203,944	116.1	146,178	71.7	130,974	89.6	153,251	117.0	1,897,064	1,237.9
特別利益	0	－	0	－	0	－	0	－	254,625	皆増
収入計	14,406,366	101.2	14,380,172	99.8	14,938,238	103.9	15,322,471	102.6	16,128,342	105.3
医業費用	13,731,403	99.1	13,883,817	101.1	14,380,341	103.6	14,905,874	103.7	14,767,604	99.1
給与費	7,208,707	101.4	7,188,579	99.7	7,419,818	103.2	7,699,849	103.8	7,699,084	100.0
材料費	3,781,907	99.0	3,950,957	104.5	4,205,223	106.4	4,467,242	106.2	4,276,207	95.7
経費	1,757,696	91.9	1,770,874	100.7	1,853,261	104.7	1,854,555	100.1	1,910,631	103.0
減価償却費	917,079	97.1	847,543	92.4	836,125	98.7	831,692	99.5	782,025	94.0
その他医業費用	66,014	95.1	125,864	190.7	65,914	52.4	52,536	79.7	99,657	189.7
医業外費用	697,105	90.6	700,851	100.5	742,320	105.9	814,896	109.8	866,397	106.3
支払利息及び企業債取扱諸費	223,936	91.8	204,333	91.2	187,178	91.6	169,895	90.8	152,259	89.6
その他医業外費用	473,169	90.0	496,518	104.9	555,142	111.8	645,001	116.2	714,138	110.7
特別損失	0	－	0	－	0	－	0	－	254,625	皆増
支出計	14,428,508	98.7	14,584,668	101.1	15,122,661	103.7	15,720,770	104.0	15,888,626	101.1
収支差引	△22,142	5.7	△204,495	923.6	△184,423	90.2	△398,299	216.0	239,716	△60.2

2．貸借対照表

（単位　千円，％）

年度 / 科目	28		29		30		元		2	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	13,100,350	95.9	12,852,717	98.1	12,765,382	99.3	12,626,993	98.9	12,640,146	100.1
有形固定資産	11,571,132	96.2	11,251,499	97.2	11,164,164	99.2	11,025,775	98.8	11,238,928	101.9
土地	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0
償却資産	32,006,339	100.2	31,927,939	99.8	32,274,473	101.1	32,741,099	101.4	32,291,647	98.6
減価償却累計額（△）	21,924,332	102.5	22,159,315	101.1	22,593,184	102.0	23,198,199	102.7	22,543,532	97.2
建設仮勘定	6,250	皆増	0	皆減	0	－	0	－	7,938	皆増
その他有形固定資産	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0
無形固定資産	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0
投資その他の資産	1,528,110	93.9	1,600,110	104.7	1,600,110	100.0	1,600,110	100.0	1,400,110	87.5
流動資産	8,983,484	101.3	9,176,902	102.2	8,904,431	97.0	8,969,959	100.7	9,068,616	101.1
現金預金	6,488,403	104.1	6,789,300	104.6	6,433,284	94.8	6,430,257	100.0	5,916,369	92.0
未収金	2,359,785	94.6	2,261,863	95.9	2,341,433	103.5	2,405,393	102.7	2,998,587	124.7
貯蔵品	113,800	94.1	103,215	90.7	108,257	104.9	112,878	104.3	129,249	114.5
有価証券	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0
前払金	18,496	93.0	19,524	105.6	18,457	94.5	18,431	99.9	21,411	116.2
資産合計	22,083,834	98.0	22,029,619	99.8	21,669,813	98.4	21,596,952	99.7	21,708,762	100.5
固定負債	10,550,983	93.7	9,947,139	94.3	9,271,128	93.2	8,697,546	93.8	8,076,759	92.9
企業債	8,766,516	90.7	8,042,042	91.7	7,300,405	90.8	6,601,214	90.4	5,851,809	88.6
リース債務	19,517	98.8	10,147	52.0	5,773	56.9	1,382	23.9	0	皆減
引当金	1,764,950	112.1	1,894,950	107.4	1,964,950	103.7	2,094,950	106.6	2,224,950	106.2
退職給付引当金	1,751,000	112.2	1,881,000	107.4	1,951,000	103.7	2,081,000	106.7	2,211,000	106.2
修繕引当金	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0
流動負債	2,345,524	86.9	2,541,041	108.3	2,502,081	98.5	2,856,178	114.2	2,678,873	93.8
企業債	895,994	79.7	824,474	92.0	841,637	102.1	899,191	106.8	958,005	106.5
リース債務	17,259	131.2	10,838	62.8	4,374	40.4	4,391	100.4	1,382	31.5
未払金	968,939	85.9	1,217,105	125.6	1,159,441	95.3	1,453,489	125.4	1,213,070	83.5
引当金	401,321	108.3	430,236	107.2	439,465	102.1	441,678	100.5	445,655	100.9
その他流動負債	62,011	100.9	58,388	94.2	57,164	97.9	57,429	100.5	60,761	105.8
繰延収益	23,240	66.7	12,136	52.2	15,034	123.9	11,884	79.0	102,356	861.3
資本金	11,867,709	105.8	12,437,420	104.8	12,974,110	104.3	13,522,183	104.2	10,611,058	78.5
自己資本金	11,867,709	105.8	12,437,420	104.8	12,974,110	104.3	13,522,183	104.2	10,611,058	78.5
借入資本金	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
企業債	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
剰余金	△2,703,622	100.8	△2,908,117	107.6	△3,092,540	106.3	△3,490,839	112.9	239,716	△ 0.1
資本剰余金	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
利益剰余金	△2,703,622	△100.8	△2,908,117	107.6	△3,092,540	106.3	△3,490,839	112.9	239,716	△ 0.1
負債資本合計	22,083,834	98.0	22,029,619	99.8	21,669,813	98.4	21,596,952	99.7	21,708,762	100.5

3．経　営　分　析

（1）経 営 分 析

項目		年度	28	29	30	元	2
財務比率	(1)流動比率（%）	流動資産 / 流動負債 ×100	383.0	361.1	355.9	314.1	338.5
	(2)自己資本比率（%）	自己資本 / 総資本（負債資本合計） ×100	53.7	56.5	59.9	62.6	48.9
	(3)負債比率（%）	他人資本 / 自己資本 ×100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(4)固定比率（%）	固定資産 / 自己資本 ×100	110.4	103.3	98.4	93.4	119.1
	(5)現金比率（%）	現金預金 / 流動負債 ×100	276.6	267.2	257.1	225.1	220.9
	(6)自己資本構成比率（%）	自己資本金＋剰余金 / 総資本（負債資本合計） ×100	41.5	43.3	45.6	46.4	50.0
	(7)固定資産構成比率（%）	固定資産 / 固定資産＋流動資産＋繰延勘定 ×100	59.3	58.3	58.9	58.4	58.0
収支比率	(8)総収支比率（%）	総収益 / 総費用 ×100	99.8	98.6	98.8	97.5	101.5
	(9)経常収支比率（%）	経常収益 / 経常費用 ×100	99.8	98.6	98.8	97.5	101.5
	(10)医業収支比率（%）	医業収益 / 医業費用 ×100	100.9	100.1	100.7	99.6	92.5
	(11)給与費比率（%）	給与費 / 医業収益 ×100	52.1	51.8	51.3	51.9	56.3
	(12)材料費比率（%）	材料費 / 医業収益 ×100	27.3	28.4	29.0	30.1	31.3
	(13)経費比率（%）	経費 / 医業収益 ×100	12.7	12.7	12.8	12.5	14.0
	(14)減価償却費比率（%）	減価償却費 / 医業収益 ×100	6.6	6.1	5.8	5.6	5.7
生産性指標	(15)入院患者1人1日当たり診療収入（円）	入院収益 / 年延入院患者数	60,373	62,980	65,605	67,603	69,741
	(16)外来患者1人1日当たり診療収入（円）	外来収益 / 年延入院患者数	18,781	19,187	19,629	20,735	22,102
	(17)100床当たり職員数（人）	年度末職員数（会計年度含む） / 一般病床数（４９０床） ×100	194.1	192.9	192.9	192.4	193.5
	(18)100床当たり医師数（人）	年度末医師数（会計年度含む） / 一般病床数（４９０床） ×100	24.9	22.4	22.4	24.9	26.3
	(19)100床当たり看護師数（人）	年度末看護師数（会計年度含む） / 一般病床数（４９０床） ×100	108.8	108.8	108.8	105.9	104.7

（２）医業収益に対する費用の割合

（単位　千円，％）

年度 / 科目	28		29		30		元		2	
	金額	率	金額	率	金額	率	金額	率	金額	率
医業収益	13,849,310	100.0	13,890,935	100.0	14,477,057	100.0	14,846,739	100.0	13,664,534	100.0
病院事業費用	14,428,508	104.2	14,584,667	105.0	15,122,661	104.5	15,720,770	105.9	15,888,626	116.3
医業費用	13,731,403	99.1	13,883,817	99.9	14,380,341	99.3	14,905,874	100.4	14,767,604	108.1
給与費	7,208,707	52.1	7,188,579	51.8	7,419,818	51.3	7,699,849	51.9	7,699,084	56.3
材料費	3,781,907	27.3	3,950,957	28.4	4,205,223	29.0	4,467,242	30.1	4,276,207	31.3
経費	1,757,696	12.7	1,770,874	12.7	1,853,261	12.8	1,854,555	12.5	1,910,631	14.0
減価償却費	917,079	6.6	847,543	6.1	836,125	5.8	831,692	5.6	782,025	5.7
その他医業費用	66,014	0.5	125,864	0.9	65,914	0.5	52,536	0.4	99,657	0.7
医業外費用	697,105	5.0	700,850	5.0	742,320	5.1	814,896	5.5	866,397	6.3
特別損失	0	—	0	—	0	—	0	—	254,625	1.9

Ⅸ　業 務 概 要

Ⅸ 業 務 概 要

医療部

内 科

1．スタッフ

病院長、主任診療部長１名、診療部長３名、医長11名、医員７名　計23名。

2．業務の現況

(1) 外来：一般内科及び専門外来（消化器、肝臓、喘息呼吸器、甲状腺、糖尿病）を設け診療している。

(2) 入院：8B（主に呼吸器、肝臓病、内分泌・代謝）、9B（主に消化器）病棟に各専門分野の医師を配置した。

(3) 救急：内科は救急医療における中核的な役割を担っている。通常勤務時間は救急当番を配置。夜間・休日の宿日直は1、2年次研修医に指導医として３年次以上の内科医が加わり、３人体制で診療を行った。

(4) 内視鏡センター：経鼻内視鏡、小腸内視鏡、カプセル内視鏡、ＮＢＩ内視鏡を導入している。内視鏡的早期胃癌切除術、ポリープ切除術、胆管結石除去術など内視鏡的治療も積極的に行っている。消化器内視鏡年間実績は観察＋処置で計9,965件であった。
呼吸器では超音波気管支内視鏡(EBUS)を導入している。気管支内視鏡年間実績は143件であった。

(5) 外来化学療法センター：肺癌、膵癌、胃癌、大腸癌を中心に外来化学療法を行っている。

(6) 研修：初期臨床研修における内科系研修では、循環器、内分泌・代謝、消化器、肝臓、呼吸器の各分野をローテート。プライマリーケアから専門分野まで幅広く研修できるようにした。また、全人的な診療を身につけてもらうために、患者のすべての問題点を抽出できるよう指導した。内科専攻医を対象とした内科専門研修カリキュラムでは、総合内科専門医を目標に、内科疾患をくまなく研修できるよう配慮した。また、専門的な検査・治療手技の研修も積極的に指導した。

3．今後の目標

(1) 地域の基幹病院として他の医療機関との連携を推進し、役割分担を図る。

(2) 確実で安全な救急医療を提供する。

(3) 適切で効率的な医療のために、evidenceに基づいた医療を実践し、各種ガイドライン、クリニカルパスの活用を図る。

(4) 臨床研修の根幹をなすのは内科である。研修指導を通して診療レベルの向上を目指すとともに、地域医療に貢献できる医師を育成したい。

(5) シニアレジデントの教育に力を注ぎ、学会発表や論文執筆を積極的に指導する。

（石原　真一）

精神科

1．スタッフ

非常勤医師３名（火･水･木曜日に各１名ずつ）、看護師１名の計４名。

2．業務の現況

他科からの院内コンサルトの増加傾向および、長期的な常勤医師不在を鑑み、院内コンサルトを中心に対応している。

(1) コンサルテーション･リエゾン：当院他診療科の入院患者について、院内紹介への対応を行っている。

主な依頼内容は、下記のとおりであった。

・せん妄や認知症への対応、神経疾患に付随する精神症状への対応

・がんの告知や積極的治療の中止に際したメンタルサポートに代表される、身体疾患の罹患･進行に伴う不安、不眠、抑うつ等への対応

・精神疾患合併ケースの身体加療中の併診、周術期の薬物調整

・精神疾患の有無についての評価

⑵外来：外来初診の新規受け入れは停止している。
⑶研修：臨床研修医に対して、研修１年目に１ヶ月間の精神科研修を協力病院にて行った。また、当院で開催される緩和ケア研修会でファシリテーターを務めている。

３．今後の目標

⑴業務を院内コンサルトに特化し当院他科入院中の精神症状・精神疾患に対する治療的介入および心理ケアに注力することで、身体加療が滞りなく進むよう図る。
⑵精神症状を呈する患者のケアにあたるスタッフに対して支援者支援を行う。特に、緩和ケアや小児、周産期などの領域でスタッフとの連携に努める。
⑶令和２年度の医師臨床研修制度改定で、精神科研修が必修化された。新制度では精神科リエゾン研修が推奨されたため、１ヶ月間の研修の間、週１日のリエゾン研修を開始する。精神科研修を通して、患者を生物学的・心理的・社会的側面から多面的にとらえるという精神科診療の特性を経験してもらい、全人的医療の視点を養う一助となるよう努める。

（須田　真史）

神経内科

１．スタッフ

常勤医師３名、非常勤医師１名。

２．業務の現況

外来診療：平日の午前中に行っている。紹介患者を原則とするが、可能な限り紹介状をお持ちにならない患者にも対応するよう心がけている。さらに月曜日の午後には物忘れ外来を開設している。

入院診療：３名の常勤医師が担当している。週１回のカンファレンスのほか、診断、治療に関する偏りや漏れを防ぐため、毎朝ミーティングを行うことで各患者の診療方針を確認している。

脳血管障害を中心に、てんかん、中枢神経感染症、自己免疫性神経疾患、神経変性疾患など、バリエーションに富んだ入院患者に対応している。

特に末梢神経や筋を対象にした電気生理学的検査は他施設と比較しても件数が多い。

３．今後の目標

⑴病診連携を進め、神経救急疾患を積極的に受け入れる。
⑵ 外来では特に変性疾患患者およびその家族に対して充分な診療時間を確保したい。
⑶ 研修医の診療能力向上に寄与する。
⑷ 積極的に症例報告を行う。

（櫻井　篤志）

循環器内科

１．スタッフ

令和２年度も常勤医師５名体制に変更はなかった。主任診療部長１名、診療部長１名、医長３名で外来診療、病棟診療、検査業務を行った。また、金曜日午前中の再診外来と木曜日の午後の不整脈外来を、非常勤医師（群馬大学循環器内科より）にお願いしている。

２．業務の現況

外来診療は月曜日から金曜日まで午前に再診と初診の外来を行っている。（ただし、水曜日は初診外来なし）また、木曜日の午後に不整脈外来を行っている。

入院患者は 5 名の常勤医師で担当している。主治医制をとっているが、カンファレンス等を通して、できるだけ全員が全患者を把握するように努めている。

循環器内科として施行している、特殊検査・治療として、心臓カテーテル検査、冠動脈や末梢動脈のカテーテル治療、ペースメーカーの植え込みなどがある。令和２年度は、血管造影室を用いた検査および治療の総数が、789 件（前年度 773 件）であった。内訳は、心臓カテーテル検査が 433 件（同 514 件）、冠動脈の血管内治療が 228 件（同 208 件）、ペースメーカー植え込みが 61 件（同 51 件）であった。また、冠動脈内の高度石灰化病変を切削するロータブレーターを導入し、9 件施行。令和２年７月放射線科から当科に引き継いだシャント PTA は 18 件施行した。

３．今後の目標

⑴ 令和３年度から心臓血管外科と協働でTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）開始を目指し準備をしていく。

引き続き患者に必要で適切な検査や治療を、過不足なく行うことを心がけていきたい。

心臓血管外科を院内に有する、県内では数少ない施設のひとつであり、外科的治療も含めたうえでの、バランスの良い診療・治療を行っていくことを目標としている。

⑵ 研修医の教育はもちろんであるが、3～5年目ぐらいの若い循環器内科医の教育にも力を注いでいく。臨床医としての能力を向上させるだけでなく、臨床研究や学会発表、論文作成などを行う素養も育てていきたい。

（樋口　京介）

小児科

１．スタッフ

副院長１名･常勤医師６名・非常勤医師１名

２．業務の現況

外来業務は、午前中は主に一般診療を、午後には専門外来を行っている。小児科の一般診療としては、開業医からの紹介患者、学校健診や乳児健診等で問題となった児を中心に、急性疾患も含めて診療にあたっている。専門外来としては、喘息アレルギー外来を前田、今井、徳永、神経発達外来を緒方（非常勤医師）、内分泌外来を髙野と小針、その他慢性疾患外来を平形と稲田が担当し、多種の疾患に対応した。さらに、予防接種外来を水曜日に、パリビズマブ投与を木曜日に、乳児健診を金曜日に実施し、予防医療にも努めた。平均外来患者数は一日50名前後であった。

入院業務は、未熟児新生児室と小児一般病棟とに分けられる。入院患者数は、未熟児新生児が年間約140名、疾患とすると1,500ｇ～2,300ｇ前後の低出生体重児、呼吸障害や黄疸、初期嘔吐などである。一般小児病棟は年間約300名で、肺炎、気管支炎、喘息、胃腸炎、尿路感染症などの急性疾患が多数を占めている。そのため在院日数は平均6日前後と非常に短い。一方、長期入院を必要とする疾患は、川崎病やネフローゼ症候群、神経疾患、糖尿病などがあり、3週間以上の入院を必要とする学齢期の患者は、院内の赤城特別支援学校に転校し、勉強の遅れを心配せず治療に専念できる体制ができている。院内学級は、3週間以内の入院患者についても、床上学習で対応可能である。

小児科診療は、感染症の流行により、患者数がかなり変動するのが特徴である。令和２年度は、新型コロナウイルス感染対策の影響で、他の感染症が激減し、RSウイルスを初めとする小児の気道感染症がほとんどみられなかった。そのため、一般外来患者数は減少し、一般病棟の入院患者は例年の約１／３となった。年間通してみられていた川崎病も前半ほとんどみられず、年間患者数は例年の約２／３であった。その中で急性胃腸炎や発熱に伴うケトン血性嘔吐症など消化器症状の入院患者が目立った。

３．今後の目標

平成19年度末から当病院小児科が中心となり、伊勢崎佐波子ども健康増進研究会を設立した。この会を中心に、養護教諭や保育士、保護者に対する啓発活動として、年１回の講演会を実施しているが、令和２年度は新型コロナの影響で中止となった。早期に再開できるよう検討中である。その他、毎年、保育園等に出張し、感染症、救急、アレルギー等についての講演を行っている。今後も、子どもの病気に関して、市民向けに積極的に公開講演会を開催していく予定である。

また、当病院は小児の内分泌代謝疾患を専門とする医師が2名いて、県内の小児内分泌疾患の中核病院となっている。新生児先天性代謝異常等の検査で異常値を認めた場合の精査加療依頼にも対応しており、今後もこの体制を維持していく。予防医学に関しては、定期接種ワクチンに加え、任意接種となっているロタ･ムンプスのワクチンも積極的に行っている。年々ワクチンが増えて、予防可能な疾患が増えていくことは喜ばしいことである。ただ、それとともに接種スケジュールがとても難しくなってきているため、複数ワクチンの同時接種を行っている。今後も積極的に予防接種を進めていくつもりである。

（髙野　洋子）

外　科

１．スタッフ

8 名の診療部長を含む 12 名の常勤医師と 1 名の非常勤医師で診療を行った。

２．業務の現況

外来は紹介型外来である。外来業務は、午前中 3-4 診の専門外来と 1 診の予約初診外来、午後には 2-4 診の専門外来を行っている。また、ストーマや乳腺における心身の諸問題に対して看護外来を設け患者 QOL の向上を図っている。

手術は水曜日の午後以外は全日手術を行っており、年間の手術件数は 1,000 件を超えている。従来の開腹・開胸手術から最近は内視鏡手術が増加しており、さらにロボット手術を導入しており、最新の治療法を常に提供するように努めている。

水曜日午後には全員で術前カンファレンスを行い、全症例の検討を行っている。また、毎日当番医により回診/包交が行われているが、月曜日と水曜日には主任部長が回診/包交を行っている。

外科ではチーム医療やクリニカルパスを推進しており、多職種とともに周術期管理を行う、キャンサーボードで治療方針を決める、地域連携を推進するなど、安全で適切な医療が提供できるように努めている。

３．今後の目標

⑴ 最新の治療法や手技を学び、高度で安全な外科診療を行うとともに、胃がん、直腸がん及び肺がんに対してはロボット手術を積極的に行う。

⑵ 紹介や逆紹介を通して地域医療機関との連携を強化し、地域医療に貢献する。

⑶ 外科系医師の減少を鑑みて、若い外科医の育成に努める。

（保田　尚邦）

整形外科

１．スタッフ

常勤医師６名、非常勤医師２名で診療を行った。

２．業務の現況

四肢と脊椎に対し、外傷及び変性疾患の治療を行った。

外傷に対しては、救急外来経由又は一般外来経由で対応した。

変性疾患に対しては、特殊外来にて対応した。

特殊外来

小児股関節外来（ 田中、荻原 ）
成人股関節外来（ 田中、割田、藤田 ）
膝関節外来　　（ 佐藤 ）
脊椎外来　　（ 飯塚、小林 ）

手術は月、火、水、金に定期手術を行い、救急患者に対する手術は適宜この枠に割り振り対応した。

３．今後の目標

⑴ 新たな診断法、治療法を展開していくこと。

⑵ 予約患者は、ほぼ予約時間通りに診察を開始することができるようになった。紹介患者の待ち時間も短縮されてきたが、救急患者が搬送されてきた際など、一般外来を中止せざるをえないこともあった。今後は人員配分に工夫を加え（人員増員も含め）、一般外来の流れがなるべく途切れないような対応を考えている。

⑶ 病診･病病連携をより充実させていくこと。

（田中　宏志）

脳神経外科

１．スタッフ

群馬大学からの非常勤医師で診療を行った。

２．業務の現況

外来診療は群大医師が火曜日の午後、水曜日の午前と金曜日の午後に行った。

３．今後の目標

引き続き、他科や地域医療機関と連携して外来診療にあたる。

（堀口　桂志）

心臓血管外科

１．スタッフ

副院長１名、主任診療部長１名、診療部長２名、医長２名と非常勤医師１名の総勢７名体制にて診療にあたった。臨床工学技士６名で体外循環や人工呼吸器および血液浄化等の業務を担当した。

２．業務の現況

再診外来は原則火曜日の午後週１回で４診体制（大林、大木、安原、小此木、三木又は長澤）、初診と術前は大林が月、水、金曜日の午前中に診察を行った。また、静脈瘤外来を金曜日午前に平井が専任で担当した。術前自己血貯血は可能な限り外来で実施している。

入院患者は全て循環器センター（6 階 A 病棟）に入院した。定期手術は月、水、木、金の週４日で、体外循環心大血管手術や冠動脈バイパス術は主に月・木曜日に実施し、水、金曜日はその他の開心術またはステントグラフト治療を主とする大動脈血管内治療を始めとした動脈疾患の手術日とした。静脈瘤手術は全例 TLA 麻酔のため、他の手術とは独立して木の午前中に２例ずつ施行した。手術患者総数は年間 475 例となった。体外循環手術と心拍動下冠動脈バイパス手術および胸部大動脈手術の合計は 182 例であった。開心術の内訳は虚血性心疾患が 37 例、弁膜症手術は 75 例であった。自己心膜を用いた大動脈弁形成術は順調に手術数が増加し累積 82 例となり良好な成績を収めた。胸部大動脈瘤の手術は 106 例と増加した。ステントグラフト治療では胸部及び腹部の総数 125 例行い、胸部（ＴＥＶＡＲ）は 58 例で、腹部（ＥＶＡＲ）は 67 例であった。下肢静脈瘤の血管内焼灼術は 73 例施行した。術後管理は、ＩＣＵ入室中は当科でＩＣＵ管理を行い、土・日曜日も全て病棟回診に引き続き重症管理を行った。

３．今後の目標

経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）の施設認定を取得するため、Heart Team を立ち上げ、TAVI 施設認可の申請を行う予定である。今後も時代に即した最先端技術・手術を取り入れ、患者さんへの負担を軽減し、安全で質の高い治療の提供を目指していきたい。

（大木　聡）

皮膚科

１．スタッフ

常勤医師３名で診療を行った。外来看護師は１名である。

２．業務の現況

外来診療は、毎週月曜日から金曜日の午前中に一般外来を行い、初診、予約外、一般予約患者の診療を行った。午後は院内往診、特殊検査（皮膚生検、パッチテストなど）、術前説明を行い、手術を火曜日、水曜日、金曜日に、そしてレーザー外来（しみ、青あざ、茶あざなど）を木曜日にそれぞれ行った。また、褥瘡回診を第2、4、5 火曜日に行った。

入院は９階 A 病棟（外科・皮膚科混合）、6 階 B 病棟（整形外科・歯科口腔外科・皮膚科混合）を中心として、治療を行った。

３．今後の目標

スタッフが患者の信頼に応えられるよう、新たな知識や技術の向上に努め、よりよい医療を提供できるようにしたい。また、病院の性格上、開業医からの紹介患者も多い。地域における連携を密にして、入院外来問わず、皮膚疾患の診断や治療を行えるように、更に努力していきたい。

（田村　敦志）

泌尿器科

１．スタッフ

病院事業管理者、医療部長１名、診療部長３名、医長１名、医員１名の７名で診療を行った。

２．業務の現況

外来診療では、午前に新患予約外、再診の２診で診療を行い、患者の増加に対応し火曜、木曜、金曜は３診で行っている。さらに、専門外来として腫瘍・免疫、腎腫瘍を行っている。午後は、排尿機能外来、腎外来、前立腺外来、ＣＡＰＤ（持続携帯腹膜透析）外来、術前説明外来、地域連携パス外来などの専門外来を行っている。

1 日平均の外来患者は 104.4 人、入院患者は 30.3 人、平均在院日数は 7.4 日であった。小児手術、結石破砕、前立腺生検は当日入院、翌日退院として在院日数の短縮に努めている。平均在院日数は 14 年連続で 10 日を切っている。

腎センターでは 28 台の透析装置を稼動している。持続携帯腹膜透析は２人に施行している。

手術件数は 1,176 件であった。患者への負担が少ない腹腔鏡手術を積極的に行っている。腹腔鏡下での副腎摘除術、腎摘除術、腎尿管全摘術を行った。更により侵襲性の低いロボット支援手術を前立腺全摘術 121 件、腎部分切除術 30 件、膀胱全摘術 9 件、前立腺癌に対する密封小線源療法も 28 件施行した。レーザー前立腺摘出術（ＨＯＬＥＰ）も 29 件施行した。また、開放の悪性腫瘍手術も行っている。内視鏡による結石破砕を 122 件行った。

地域連携パスとしては、前立腺がんパス、腎がんパス、保存期腎不全パスを運用している。

３．今後の目標

コメディカルスタッフとともに入院前から退院後を含めた途切れのない良質な診療を提供したい。

地域連携パスを充実させ、地域の先生方と共に患者の診療にあたりたいと考えている。

（齋藤　佳隆）

産婦人科

１．スタッフ

常勤医師４名、非常勤医師６名で診療を行った。

２．業務の現況

日常勤務は、外来診療、病棟回診、分娩、手術、人間ドックに分けられる。外来は、午前に産科外来・婦人科外来として３診で行い、午後の月、火、木曜日に特殊外来、金曜日に産科外来を行った。また、助産師外来を午前に、母乳外来を午後に行った。病棟回診は曜日毎に病棟担当医を決めて行い、さらに医師全員で夕方に回診を行った。

令和２年度の分娩件数は 361 件であった。また、他の医療機関からのハイリスク妊娠の紹介や母体搬送もあり、緊急帝王切開も多く行っているのが現状である（2 年度帝王切開 116 件、緊急帝王切開 49 件）。

予定手術は、月曜日の午後と水・木・金曜日の午前・午後に行い、それ以外の緊急手術も多数あった。令和２年度の手術件数は 348 件で、そのうち子宮頚癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍手術は 20 件であった。

人間ドックは 12 時前後に検診センターで行った。

３．今後の目標

産婦人科は女性にとって受診しにくい科の一つであるが、気軽にかかれる産婦人科、安心してかかれる産婦人科を目指して努力していきたい。

（狩野　智）

眼　科

１．スタッフ

非常勤医師、看護員１名、視能訓練士２名で診療を行った。

２．業務の現況

令和２年度は、月曜日から水曜日まで週３日外来を行い、月曜日の午後に手術を行った。外来の１日平均人数は20～30人であり、月曜日は２診体制、火･水曜日は１診体制で診療を行った。

白内障、糖尿病網膜症、緑内障、網膜動静脈閉塞症、網膜裂孔などの治療、その他全身疾患に合併した眼病の治療を行った。

進行した糖尿病網膜症に対してはレーザー光凝固療法による治療を行った。治療時期を逸すると予後不良であるため、早期発見が重要であり、糖尿病と診断されたら眼症状がなくても定期検査を受けるよう説明している。

緑内障の視野障害は慢性に経過し、自覚症状に乏しいものがあるが、視神経の詳細な評価、光干渉診断計による神経菲薄化の評価、自動視野計による精密な視野検査を行うことで早期発見、治療を目指している。緑内障は慢性疾患のため長期の治療が必要であり、患者の負担を考え、診断後は地域のかかりつけ眼科で治療継続をお願いした。

白内障手術に関しては、小切開の安全で侵襲の少ない手術となっているが、術後に思わぬトラブルを引き起こす可能性もあるため、術前の説明には十分に時間をかけるよう心がけている。

また、乱視補正のためのトーリック眼内レンズや保険診療内の多焦点眼内レンズを導入し、より患者にメリットのある治療が可能となった。基本は入院での手術を行っているが、患者の希望により、日帰り手術も行った。

加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管、糖尿病黄斑浮腫に対して、抗VEGF薬の硝子体注射の治療を行っている。近年、この治療はかかりつけ医院でも普及してきており、当科で治療が安定した患者は、治療が可能なかかりつけ眼科へ治療をお願いしている。

斜視弱視に関してはベテランの視能訓練士２名を擁しており、きめ細かいフォローを行っている。

地域の中核病院であるため開業医からの紹介も含め入院治療の必要な疾患にも出来る限り対応しているが、非常に進行した糖尿病網膜症や緑内障、重症な網膜剥離などは早急にしかるべき治療の出来る病院に紹介している。

３．今後の目標

かかりつけ眼科との連携を充実させて、患者負担の少ない医療を行っていきたい。

（斉藤　千真）

耳鼻いんこう科

１．スタッフ

常勤医師３名で診療を行っている。看護スタッフは看護員３名で、患者介助や器械整備などの業務を行っている。また、事務員（会計年度任用職員）が２名おり、カルテや書類の処理を行っている。

２．業務の現況

月・火・水・金曜日の午前中に一般外来を行っている。全て紹介状持参の患者のみの受付である。

火・水曜日の午後、木曜日の午前・午後は手術を行っている。火曜日の午前は、外来で手術説明を行っている。

月・金曜日の午後は特殊外来としており、生理検査や小手術等を行っている。特殊外来の枠で、穿刺吸引細胞診、ＡＢＲなどを行っている。

補聴器外来は、補聴器の適応、機種の選択・調整などを行っている。

主な手術は、慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術や慢性扁桃炎に対する扁桃摘出など、良性疾患に対する手術を行っている。

３．今後の目標

地域の医師との連携を強化し、入院治療の充実・手術件数の増加および、外来診療密度の増加を図りたい。

（川田　倫之）

リハビリテーション科

１．スタッフ

科長（神経内科主任診療部長）1 名、リハビリ処方医 16 名（整形外科医、内科医、外科医、心臓血管外科医、循環器内科医、神経内科医）、理学療法士 14 名、作業療法士６名（老健勤務１名含む）、言語聴覚士５名（老健勤務１名含む）、事務員（会計年度任用職員）３名、計 45 名。

２．業務の現況

令和２年４月に病院の理学療法士１名が介護老人保健施設ひまわり（以下「老健ひまわり」という。）の同職種１名と勤務交代となり、病院の作業療法士１名の老健ひまわりへの半日兼務については令和２年度も継続となったため、実質の病院リハビリスタッフ数は、理学療法士 14 名、作業療法士 4.5 名、言語聴覚士４名であった。

また、老健ひまわりは、理学療法士１名、作業療法士 2.5 名（会計年度任用職員 0.5 人×２名を含む）、言語聴覚士１名の勤務体制でリハビリ業務を行った。

当院は公立の急性期病院であるため、早期リハビリ開始、早期離床が何よりも重要である。また、短い入院期間の中で効果的なリハビリテーションを行うには計画的で効率的なリハビリテーションの実施が必要となる。

現在、リハビリ実施に問題の無いリハビリ対象疾患は、ほとんどが発症もしくは手術翌日よりリハビリ処方され、処方当日よりリハビリが開始されている。

また、土曜日には、理学療法士４名、作業療法士１名、言語聴覚士１名の計６名が勤務表に沿って日直勤務しリハビリ開始の遅延の防止や連続性を確保するためリハビリテーションを提供している。

そして、安全なリハビリテーションを実施するため、各病棟で開催されているカンファレンスに積極的に参加し、病棟と一致した目標に向けて廃用の予防改善や病棟での日常生活動作の拡大などを図っている。

また、転院時には地域の転院先病院に向けてリハビリ経過報告書を作成し、院内のリハビリ状況と必要な医事データを報告し、転院先においても同じ目標に向けた継続性のあるリハビリテーションが可能となるよう情報の提供を行っている。

引き続き、患者本位のリハビリテーションが展開されるよう業務形態の改善に努力したい。

３．今後の目標

限られた入院期間の中でリハビリ効果を上げるためには、リハビリ連続性の確保が重要となる。土曜日に続き、日曜日リハビリ診療を開始し、今後、発症や手術直後の急性期患者の土日リハビリの実施を可能とし、途切れのない急性期リハビリの連続性を確保したい。

また、老健ひまわりには各療法士が１名ずつ勤務しているが、同じく病院に併設された訪問看護ステーションにはまだリハビリスタッフが勤務していない。今後、在宅でのリハビリにも幅広く介入し、急性期から維持期まで関われる勤務体制の準備を進めたい。

（丸橋　俊弘）

放射線診断科

１．スタッフ

常勤医師４名（放射線診断専門医３名、放射線科診断認定医１名）、非常勤医師３名。

２．業務の現況

国内では放射線診断医が常駐する医療機関は全体の 20%以下、また放射線科専門医総数は 6,500 人程度で医師全体の 2%である。 一方、日本の CT と MRI の保有台数は世界１位である。また、CT の検査数だけでも 15 年間で５倍に増加しており、放射線科医１名あたりの読影件数は世界１位になっている。さらに CT 多列化による画像枚数増加、特殊撮影数の増加もあり、より負担は増している。当院は群馬県でも数少ない画像管理加算２を算定している施設であり、令和２年より日本医学放射線学会による画像管理認定施設にも認定されている。業務は多忙であり、令和元年度では専門医１名に対し、年間読影総数は 30,365 件であった。令和２年より日本医学放射線学会による画像管理認証施設にも認定されているが、業務は多忙であり、これは国内平均の年間 8,100 件をも遙かにしのぐ過重労働である。

このような背景の下、画像検査での病変の見逃し、画像診断報告書の確認ミスによる医療事故が全国的に報告され、我々も対応を迫られている。一般に専門医１名体制では画像診断の完全なダブルチェックは困難であり、各診療科医師と密にコンタクトをとりながら読影ミスのないように心がけている。また、各科とのカンファレンスになるべく参加し診療レベルの向上を目指している。

基幹病院として各診療科がその実力を存分に発揮できるよう、画像診断装置の充実を図り、画像検査の質を担保することも大切な役割である。平成25年度にはCTが２台とも最新型高性能機種に更新され、心臓冠動脈CT、高エネルギー外傷の全身 CT、臓器血流評価など高度な画像検査が可能となり、がん診療連携拠点病院としてばかりでなく、脳血管障害や循環器疾患などの救急領域でも貢献できるようになった。平成 28 年度には、トモシンセシス対応マンモグラフィー、SPECT-CT 撮影可能な核医学診断装置、平成 29 年度には MRI を２台更新。１台は 3T の MRI となった。全身拡散強調像撮影などの特殊撮影への対応も可能になった。

CT ガイド下生検／ドレナージ、CV ポート挿入、血栓溶解術、外傷、術後出血、消化管出血、産後出血、シャント PTA などの IVR も当科の業務である。IVR はパート医師に対応を依頼しているが、伊勢崎佐波医療圏では IVR に対応できる施設は当院のみであり、現状では緊急対応が困難である。これも早急に解決しなければならない課題である。

今後は、画像診療としては、２管球の高性能 CT の特性を生かした monochromatic imaging 法の肝癌領域での実践、MRI 全身拡散強調像による骨転移病変の評価など、高性能医療機器を保有する強みを生かしたハイレベルな診療を目指す。放射線診断科は病院機能の中央部門として画像検査の管理も求められている。令和２年度は、電子カルテ更新事業に平行して画像診断報告書の既読管理システムも導入した。画像診断報告書の見落としによる医療事故を防ぐ体制が整えられた。また令和元年より医療法が改正され、医療被ばくの管理がより厳格化された。これを実践するのも当科の役割であり、令和２年度より画像検査で受ける被ばく線量を管理するためのシステムが稼動した。画像検査の線量適正化によりいっそう努めたい。

３．今後の目標

(1) 老朽化した血管撮影装置の更新。

(2) 子育て医師の在宅勤務補助、災害時や感染症による出勤停止時の業務補完のため、テレワークを推進する。具体的には、在宅読影できるよう端末整備。

（徳永　真理）

放射線治療科

１．スタッフ

常勤医師１名、非常勤医師４名、診療放射線技師４名（放射線治療専門放射線技師１名、医学物理士１名、放射線取扱主任免状者１名を含む）、看護師２名で診療を行った。

２．業務の現況

種々の悪性腫瘍と一部の良性疾患に対して、X線による外部照射および小線源治療を行った。令和２年度の新規患者数は 239 人であった。

原発巣別の患者数としては、脳・脊髄腫瘍０人、頭頸部腫瘍(甲状腺を含む) ４人、食道がん 11 人、肺がん・気管・縦隔腫瘍 61 人、乳がん 66 人、肝・胆・膵臓７人、胃・小腸・結腸・直腸がん 15 人、婦人科腫瘍２人、泌尿器系腫瘍 65 人、造血器リンパ系腫瘍７人、皮膚・骨・軟部腫瘍０人、その他１人、良性疾患０人であった。

泌尿器科とともに前立腺がんに対する I-125 小線源療法を行い、令和２年度の治療患者数は 28 人であった。

安全かつ高精度の放射線治療を推進することを目的として策定された認定施設制度において、当施設は日本放射線学会認定施設として平成 30 年度から認定されている。令和２年度は更新時期にあたり、施設要件や体制等を維持し申請･審査の結果、施設認定更新することができた。

日本放射線腫瘍学会から提言に準じて COVID-19 対策を実施した。

３．今後の目標

令和３年度は、外照射では高精度治療の導入にむけての準備をすすめるとともに、小線源治療も含め放射線治療の安全管理･品質精度管理の継続とその向上を引き続き行うことを目標とする。令和２年度に引き続き COVID-19 への対応を行っていく。

（樋口　啓子）

病理診断科

１．スタッフ

常勤病理医師１名、非常勤病理医師７名と常勤臨床検査技師４名（うち細胞検査士の有資格者３名）、会計年度臨床検査技師３名。

２．業務の現況

2020 年度については、細胞診：5,971 件、組織診：5,581 件、術中診：127 件、剖検：7 件であった。CPC は 4 回開催され、合計７症例を示説・検討した。

各臓器の悪性病変は「臓器別取り扱い規約」に準じて検索・診断を行っている。ホルマリンによる過固定を防ぐため、検体を平日毎日適切に処理している。検体を標本化した後に診断しており、必要に応じて免疫染色・特殊染色を追加して検索している。また、診断困難症例に関しては、日本病理学会のコンサルテーションシステムなども利用することで、広い知見が得られるようにしている。臨床各科からの学会及び論文発表時の組織写真作成依頼や、過去の症例の再検討依頼などにも適宜応じている。

３．今後の目標

地域がん診療連携拠点病院の指定を堅持するため、正確かつ遅滞の少ない病理診断報告に努めるほか、院内研修医教育や CPC の開催、剖検数の確保に尽力する。また、近年治療法の進歩に伴い、過去の症例を検索することが増えており、病理関連資料と記録の保存・管理の充実を図るとともに、患者の個人情報保護には十分に注意したいと考えている。

（髙山　佳泰）

麻酔科

１．スタッフ

副院長１名、主任診療部長１名、診療部長１名、医長２名、医員３名、計８名の体制で麻酔科の業務を行った。業務内容は手術麻酔、ＩＣＵ管理、ペインクリニック外来、病棟診療と多岐にわたる。

資格は日本麻酔科学会指導医５名、日本ペインクリニック学会専門医２名、日本集中治療医学会専門医１名である。

麻酔・救急の基本的手技の研修を目的に、常時 1～2 名の研修医を教育している。

２．業務の現況

令和 2 年度の総手術件数は 4,276 件、麻酔科管理症例は 3,475 件であった。このうち全身麻酔件数は 2,480 件、脊椎麻酔は 994 件、硬膜外麻酔（単独および全麻併用）は 471 件であった。手術件数は新型コロナウイルス感染症の影響で減少した。

ペインクリニック外来は平日の午前に行っている。腰部交感神経ブロック、神経根ブロック、椎間関節ブロック、三叉神経ブロックなどの透視下ブロックは１泊入院で施行している。がん性疼痛に対しても神経ブロックを積極的に行っている。最近は超音波診断装置を用いたエコーガイド下神経ブロックを手術室や外来で行っている。

今後新型コロナが収束することにより手術件数は回復すると思われる。

３．今後の目標

今後は手術支援ロボットダヴィンチが２台稼動し経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）が始まる予定である。

手術件数の増加と手術室の効率的な運用に対応し手術室スタッフ、麻酔医の業務の効率化を推進していきたい。

また、新しい手技、器械、薬剤を積極的に取り入れて安全で円滑な麻酔の施行ならびに患者の満足度の高い周術期管理が行なえるよう努力していきたい。

麻酔科の 3 本の柱である、「麻酔」・「ＩＣＵ」・「ペインクリニック」をしっかりとバランスよく行っていくことにより地域社会に貢献するとともに、麻酔専門医をめざす若手麻酔医に魅力のある麻酔科となることを目指していきたい。

（富田　行成）

歯科口腔外科

１．スタッフ

常勤歯科医師2名と非常勤歯科医師4名(群馬大学医学部附属病院より派遣)で診療を行っている。外来看護師の配置により、円滑な診療、患者の全身管理、安全確保が可能となった。

２．業務の現況

外来業務：診療内容は抜歯が圧倒的に多く、特に智歯抜歯や難抜歯が目立つ。また、口腔がんや扁平苔癬などの粘膜疾患にも対応している。口腔がん症例及び疑診症例は、専門医による粘膜外来で診察を行っている。その他、顎骨壊死・骨露出に対する消炎、口腔乾燥症や舌痛症、顎関節症、全身管理が必要な一般歯科治療(う蝕、義歯など)も行っている。一時医療機関では対応が難しいような障害者歯科治療は、可及的に外来で行い、必要であれば全身麻酔下で加療している。口腔外科診療を中心としているが、全身管理が必要な一般歯科(う蝕、義歯など)にも対応している。

病棟業務：全身麻酔下での口腔外科処置を行っている。こちらも同様に抜歯術が多く、嚢胞摘出術、骨折に対する整復・固定術などが続く。炎症に対する消炎・栄養状態改善を目的とした入院事例も認める。

３．今後の目標

慢性疾患(舌痛症、扁平苔癬、顎骨壊死など)に対する経過観察が長期間に及ぶことが多い。急を要さない症例が外来診療枠を圧迫しており、予約患者の待ち時間が長くなっている。また、初診枠も限られてしまい、二次医療としての機能を果たせなくなっている。一次医療機関、歯科医師会に働きかけ、紹介元に戻す努力を継続する。

歯科恐怖症、異常絞扼反射、障害者、侵襲の大きな智歯抜歯などに対し、外来通院・覚醒下で処置している。二次医療機関としての診療を行うためには、薬物行動療法(静脈内鎮静法)の導入が急務である。

周術期口腔機能管理の算定がほとんど無いことも改善を要する点だと思う。来年度からシステム作成より開始し、各病棟との連携を図りたい。

(小杉　謙介)

緩和ケア内科

１．スタッフ

緩和ケア内科は、常勤医師２名と臨床心理士１名で診療を行った。

２．業務の現況

(1) 外来：令和２年度に施行した、新たに緩和ケア病棟の利用を希望している患者、家族との初回面談数は214件、このうち緩和ケア病棟エントリーとなったのは 202 件(94%)であった。また、緩和ケア病棟エントリーとなった患者のみを対象とした外来診療も例年通り施行、訪問看護、介護保険サービスと連携し、緩和ケアの質の向上、在宅療養期間の延長を図った。

(2) 入院：緩和ケア病棟に入院している患者を診療した。令和２年度の入院患者総数は287人、(生存退院患者118人・41.1%)平均在院日数は17.4日で昨年とほぼ同様であった。全生存退院患者のうち11名(3.8%)が老人ホーム・介護老人福祉施設に転所した。また、今年度は、COVID-19流行の影響をうけ、面会は近親者のみに制限したが、それが早期に終活を始める動機付けとなり、混乱が生じることはなかった。

一般病棟入院中の患者に対しては緩和ケアチームが臨床心理士等を含めた多職種で対応し、患者の生活の質の向上を目指して診療にあたった。初回依頼数は 258 名で例年通りであった。

３．今後の目標

(1) 緩和ケア病棟・緩和ケア専門外来・緩和ケアチームいずれもが、より質の高い緩和ケアを提供できるよう努力を続け、患者、家族の生活の質を高めていきたい。

(2) 緩和ケア診療所、往診医、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、介護施設等、地域との連携をさらに強化し、入院・在宅と切れ目のない、より質の高い緩和ケアを提供したい。

(3) 様々なリソースを用い地域への緩和ケアに対する啓発を行っていきたい。

(押本　直子)

救急科

１．スタッフ

救急科主任診療部長１名で診療を行った。

２．業務の現況

平日の昼間は必ず救急センターに在駐し、救急初期に携わっている。状態の安定化、診断、専門科への紹介を行っている。

３．今後の目標

(1) できるだけ多くの診療の求め、救急搬送の求めに応じること。

(2) 素早く確実な診断に辿り着くこと。

(3) 素早く苦痛を取り除く手段を講じること。

以上を目標に診療を受けて良かったと思っていただける救急外来を運営していきたい。

（鈴木　一也）

中央放射線科

１．スタッフ

診療放射線技師 24 名（再任用職員 1 名含む）、看護員 14 名（救急外来所属）、計 38 名。

２．業務の現況

画像診断部門：前年度比単純撮影 15.4%減、ポータブル 7.6%減、乳房撮影 20%減、ＣＴ9.4%減、ＭＲＩ9.7%減、骨密度 2.8%減、ＲＩ-シンチ 16.3%減、ＲＩ-ＳＰＥＣＴ 33.2%増、デジタイズ関連 9.4%減、合計で 10.6%の減少であった。

３．今後の目標

(1) 画像診断と放射線治療精度の向上。

(2) 放射線の安全な運用と医療被ばくの低減。

(3) 施設機器の有効利用。

(4) 危機管理を徹底し医療事故の防止。

(5) チーム医療の一員として責任を果たす。

以上の事について更なる努力をしていきたい。

（武田　久）

中央検査科

１．スタッフ

検査管理者１名、技師長１名、技師長補佐１名、係長２名、係長代理２名、主査２名、主任４名、技師 25 名（再任用職員 3 名、会計年度任用職員 9 名含む）、事務職員（会計年度任用職員）2 名、計 40 名。

２．業務の現況

(1) 生化学検査部門：測定の正確度維持を目的に多項目実用参照物質（MaCRM）を使用し、年３回の正確度の確認を継続している。また、HbA1c 測定装置を更新し結果報告の迅速化と変異ヘモグロビン存在下での測定も可能となった。

(2) 血液検査部門：全自動赤血球沈降速度測定装置の老朽化に伴い、装置の更新を行った。

(3) 免疫輸血検査部門：免疫検査では、新規項目として抗 TPO 抗体を導入した。輸血検査では、輸血製剤管理として、血液製剤の適正使用、損耗削減等に努め、安全で適正な輸血業務に寄与している。

(4) 一般検査部門：尿一般定性・尿沈渣検査における目視判定基準の再検討を行った。上記から鏡検件数が増え、より正確な検査結果を提供することが可能となった。

(5) 細菌検査部門：新型コロナウイルス核酸検出検査を開始した。9 月からは全自動化学発光酵素免疫測定装置を導入し、新型コロナウイルス抗原定量検査も行っている。また、感染制御チーム（ICT）や抗菌薬適正使用支援チーム（AST）伊勢崎感染対策カンファレンス（IICC）などチーム医療に参画して感染対策に貢献している。

(6) 生理検査部門：日本超音波検査学会画像コントロールサーベイを受審し、腹部、心臓、血管、体表、健診の5領域でA評価であった。また、肝硬度測定を開始した。今後とも診療側の要望に応えられるよう努めていく。引き続き技師の育成を行う。

(7) 新型コロナウイルス検体採取を行った。検査の一元化を行い、医師・看護師の業務負担軽減に貢献した。

3．今後の目標

(1) 適正な人員配置および新規検査機器の導入により更なる効率化を実現する。

(2) 救急医療の実現に貢献したい。

(3) 診療側の要望、患者サービスに応えていきたい。

(4) 各種認定資格の取得および学会、研修会に参加し、最新の知識および技術の習得を図りたい。

（松島　秀子）

臨床工学科

1．スタッフ

科長（医療副部長）1名、臨床工学技士10名、計11名。

スタッフは以下の認定資格を有している。体外循環技術認定士5名、透析技術認定士4名、医療安全管理者認定1名、呼吸療法士2名、医療ガス保安管理技術者1名。

2．業務の現況

ＭＥの業務場所は主に手術室、集中治療室、透析室、病棟である。

手術室では主に手術や麻酔に関連した機器の維持管理、心臓血管外科手術時の人工心肺業務を行っている。今年度の人工心肺症例数は110例であった。

集中治療室では主に人工呼吸器の維持管理および設定、血液浄化を行っている。今年度はIRRT（間歇的腎代替療法）112件、持続的血液濾過透析42件、アフェレシス療法13件、PCPS 3件（9病日）であった。

透析室では8,237件の血液透析と27件の潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法を行った。また、病棟では82件の往診血液透析と33件の腹水濃縮濾過再静注法を行った。

現在、ＭＥが管理している主な機器は麻酔器11台、人工呼吸器29台、除細動器8台、ＡＥＤ12台、輸液ポンプ152台、シリンジポンプ142台、経管栄養ポンプ19台、そのほかに院内各部署の様々な医療機器を管理している。

近年は、循環器内科でのペースメーカー植え込み業務や、術中ナビゲーションを用いた整形外科、耳鼻咽喉科領域での業務が新たに加わり業務が拡大している。

3．今後の目標

臨床工学技士をさらに増員し、院内医療機器の中央管理化、医療安全業務の強化、各種認定資格の取得によるＭＥ業務のレベル向上に努めたい。

（富田　行成）

栄　養　科

1．スタッフ

科長（外科診療部長）1名、主任2名、管理栄養士9名（老健兼任1名、会計年度任用職員2名含む）、調理師3名（老健兼任2名含む）、計15名。

2．業務の現況

令和2年度の患者給食数は287,790食、前年度比87.8%、特別食の占める割合は46.3%であった。

介護老人保健施設ひまわりの給食数は46,099食、前年度比95.1%、特別食の占める割合は31.5%であった。

栄養指導は入院・外来で実施しており、化学療法センターや腎センター、透析予防外来での指導も実施している。

栄養食事指導件数は個人指導1,606件、集団指導開催数18回で61件、計1,667件であった。個人栄養指導は前年度比118.1%であった。集団栄養指導の内訳は糖尿病教室18回であった。また、栄養管理は病棟担当制を設け、病棟の栄養管理を行っており、栄養サポートチームによる栄養介入も実施している。

3．今後の目標

多職種と連携し、病態に合わせた栄養管理を行っていく。また、委託業者と連携し、患者給食の充実のため、メニューの改善や調理方法など、より良い患者給食に取り組んでいく。

（富澤　直樹）

看　護　部

１．スタッフ

看護部長１名、看護副部長３名、看護師長 17 名、看護副師長 26 名、看護師 459 名(会計年度任用職員 42 名含む)、看護補助者 29 名(会計年度任用職員 27 名含む)、他９名(会計年度任用職員３名含む)、計 544 名。

看護部以外に、看護副部長２名、看護師長４名、看護副師長４名、他 20 名（会計年度任用職員３名含む)、計 30 名。

看護部以外の配属部署は、地域医療連携室に 10 名（会計年度任用職員３名含む)、医療安全管理室に室長補佐１名、医療安全情報係１名、感染管理係２名、褥瘡管理係１名、緩和ケアチームに１名、併設の介護老人保健施設ひまわりに８名、訪問看護ステーションいせさきに６名。

令和２年４月の地方公営企業法全部適用を期に、職種の名称を一部変更した。

２．業務の現況

(1) 安全で質の高い看護の提供

① 異常の早期発見、急変に対応できる看護師の育成

② 身体拘束解除に向けて取り組む

(2) ヘルシーワークプレイスの推進と業務改善の実施

① 時間外勤務を減少させる

(3) 看護の専門性を高める人材育成

以上を令和２年度看護部ＢＳＣ（バランススコアカード）として取り組んだ。

異常の早期発見のためにバイタルサイン、特に呼吸測定を意識づけた。変化に気付いた時には、I-SBAR-C を活用して端的に報告するよう努めた。副師長会が中心となり急変事例の振り返りを行い、各チームへフィードバックし看護力の向上に努めた。

身体拘束解除に向けて、看護倫理委員会と倫理リンクナースが中心となって取り組んだ。その結果、身体拘束は減少している。今後はせん妄や転倒転落、チューブ抜去などの予防的ケアを更に進めていく。

時間外勤務は、前年度と比較し大差はなかった。

看護の専門を高める人材育成では、令和２年度日本看護協会看護研修学校の特定行為研修に１名参加した。また、令和３ 年度より当病院で特定行為研修を始めるための準備を行い、呼吸器関連、動脈血液ガス分析関連、循環動態に係る薬剤投与関連の３区分の指定研修機関として承認された。

新人看護職員研修制度は、令和２年度で 11 年目を迎えた。22 名の新卒新人看護師に対し、約３ヶ月間の研修プログラムを実施した。令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合研修はほとんど実施できず、各部署での個別研修に変更した。各期の研修目標に到達するまでに例年より時間を要したものの、１年間の達成度はほぼ例年通りであった。

専門・認定看護師は、がん看護専門看護師２名、認定看護師は 14 分野 20 名で昨年同様であった。専門・認定看護師は、関連する部署での看護実践と、患者やスタッフへの指導・相談を行い看護の質の向上に努めている。今後も育成に努めていく。

看護外来は、新型コロナウイルス感染症の影響で、外来の縮小や受診キャンセルがあり、多くの看護外来が前年度と比較して受診者数が減少した。その中で、小児糖尿病療養指導士外来、ウロストーマ看護外来は前年度より増加した。

３．今後の目標

(1) 安全で質の高い看護の提供

(2) 身体拘束減少に向けて取り組む

(3) ヘルシーワークプレイスの推進と業務改善の実施

(4) 看護の専門性を高める人材育成

（木村　恭子）

薬　剤　部

１．スタッフ

部長１名、副部長２名、係長２名、主査２名、主任10名、薬剤師 12 名（会計年度任用職員１名含む）、事務職員（会計年度任用職員）５名　計34名。

２．業務の現況

令和２年度は、病棟薬剤業務実施加算１（一般病棟）と病棟薬剤業務実施加算２（ICU）の算定を継続した。新型コロナウイルス感染症の影響で、患者数が減り、全体的に減少傾向となった。薬剤管理指導件数は、前年度比90.4％と減少した。令和２年10月より、連携充実加算の算定を開始した。

院外処方せん発行率は88.4％と増加した。院内処方箋の枚数は、入院・外来共に減少。注射薬処方箋も減少した。製剤室の製剤量は、一般製剤･滅菌製剤・注射剤･軟膏類･点眼･点耳も減少。注射抗がん剤調製も入院・外来共に減少した。抗がん剤は、レジメンチェックや調製、調製後の監査と何段階にも薬剤師が複数で関わることで、安全性向上や適正使用につながり安全・安心な医療に寄与できた。また、薬剤部で一元的に調製することで、薬剤の効率的使用に結びつき、経済的にも十分貢献できた。ＴＰＮは前年度より増加した。地域がん診療連携拠点病院として抗がん剤及び麻薬の適正使用に努めていきたい。

また、薬・薬連携を推進するための抗がん剤等の勉強会等も開催している。薬剤管理指導件数は減少したが、退院指導数は111.5％と増加し、がん患者指導料３算定件数は115.4％と増加した。

治験業務の処方箋数は増加した。治験業務は、外部ＳＭＯの協力を得て運営し、市販後調査は増加した。薬品管理室における発注・検収・在庫管理・出庫業務は、物流システムで合理化されたが、現行のシステムでは、ＧＳ１コード、ロット、期限管理については、令和２年７月末から特生物のみ対応しているが、それ以外は、目視と手作業で管理している。注射薬処方箋による払い出しは、個人別、施用別払い出しで対応している。後発医薬品加算取得のため、要件を満たすように、後発化と使用を推進していきたいが、令和２年末から後発メーカーの不祥事が相次ぎ、出荷停止が頻繁に起こり、薬品の確保に奔走している。手術前中止薬の使用中止を的確に実施する必要性がある。手術前中止薬の指導は薬剤部調剤室で行っていたが、令和元年７月より、入退院支援センターで薬剤師が行っている。持参薬鑑別件数は減少している。調剤支援システムにより、医薬品のデータベースが一元化され、注射・内服・外用薬が処方時･調剤時にチェックがかかり、薬物療法の安全性が向上した。調剤もバーコードを利用することにより、別物調剤過誤が減少し、患者安全に貢献できた。

３．今後の目標

(1) 病棟薬剤業務実施加算１と病棟薬剤業務実施加算２を維持し、薬剤の適正使用に貢献したい
(2) 薬剤管理指導件数を維持し、より多くの患者さんが安心して安全に薬物療法が受けられるよう努めていきたい
(3) 薬剤師関与診療報酬の積極的取得
(4) ＤＰＣ算定病院として、適正な薬剤の選択と後発医薬品採用推進
(5) チーム医療の一員として麻薬、向精神薬、ハイリスク薬への十分な関与
(6) 地域における薬・薬連携の推進
(7) 人材確保と人材育成、認定取得や維持の支援
(8) 職員が積極的に仕事に参加でき、より良い医療を提供できる職場環境を整える
(9) 新型コロナウイルス関連の薬品の確保と汎用される高額薬品の適正な在庫管理に努めていきたい

（大和　由美子）

経営企画部

１．スタッフ

副院長兼経営企画部長１名。

２．業務の現況

本年度は新型コロナウイルス感染症による患者、手術件数等の減少により、病院経営に極めて大きな影響があったが、地域の中核病院としての機能を果たすべく、計画的な医療機器の整備、病院総合情報システムの更新、飲用浄水設備増設工事などを行い、医療提供体制の充実に努めた。また、平成28年度に策定した「新公立病院改革プラン」の対象期間終了に伴い、令和３年度から令和５年度を対象期間として経営改善や地域医療構想に向けた取組を推進する「伊勢崎市民病院新改革プラン継続計画」を策定した。

３．今後の目標

新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、長期に渡る安定した経営基盤の構築に向け、「伊勢崎市民病院新改革プラン継続計画に関するアクションプラン」の進捗管理や「ＢＳＣ（バランススコアカード）」活用による目標達成評価をしっかり行う。

各種事業においては、救急センター整備事業、手術支援ロボットダヴィンチ更新などを遅滞なく進め、患者サービスの向上を図る。

（大和　克弘）

企画財政課

１．スタッフ

課長（兼）１名、総務係12名（再任用職員１名、会計年度任用職員５名含む）、人事係11名（会計年度任用職員４名含む）、企画係５名（再任用職員１名含む）、財政係５名（会計年度任用職員１名含む）、用度係６名（会計年度任用職員２名含む）、施設係７名、計47名。

２．業務の現況

企画財政課の主な業務としては、法規管理、人事・給与、各種事業計画の策定、財務管理、医療機器等の購入及び施設の維持管理業務などである。

総務係は、条例・規則及び文書管理の総括、議会対応、災害対策、病院警備、施設の運用・管理、院内保育所の管理運営等の業務を行っている。今年度もＤＭＡＴ体制の強化、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して動画による災害医療活動訓練等を実施し、災害に強い病院体制の構築に努めた。

人事係は、病院職員の人事・給与、福利厚生および衛生管理、職員研修、医療部事務、年末調整業務等を行っており、今年度も医師その他の医療従事者の確保に努めた。

企画係は、病院経営に関する中・長期計画の策定、経営改革の進行管理、病院事業の企画調整、院内会議および委員会の調整、開設許可の申請、広報業務等を行っている。今年度は、新公立病院改革プランに掲げた指標の達成状況の進捗管理とともに、令和３年度から３年間を対象期間とした新公立病院改革プラン継続計画を策定した。

財政係は、予算及び決算、財務経理、財政計画・資金計画の策定、建物・医療機器の財産管理、企業債手続等の業務を行っている。また、年度末には決算の調製を行い、病院事業の財務諸表等の決算報告書を作成している。今年度は、自動精算機を導入したほか、地方公営企業法全部適用による３事業統合に伴い、資本内容の整理を行った。

用度係は、薬品、診療材料、備品、消耗品等の契約・購入業務、医療機器等の修繕・保守契約業務を行っている。今年度は病院総合情報システム（第２期）、医療用画像管理システム更新や新型コロナウイルス感染症に対応するための医療機器として、回診車Ｘ線撮影装置や体外式膜型人工肺の購入など医療提供環境の充実を図った。

施設係は、各設備の効率化に努め、高度医療を支える地域医療の拠点病院として各種設備の維持管理業務を行っている。今年度は、飲用浄水設備増設工事、冷温水設備の更新工事などを行ったほか、各所修繕を実施し施設設備の充実と保全を図った。

３．今後の目標

診療報酬改定や消費税率改定の影響により、医療機関を取り巻く経営環境が厳しい中、新型コロナウイルス感染症の影響により入院及び外来患者数は減少し、医業収支に大きくマイナスの影響を及ぼす状況となっている。

国等の新型コロナウイルス感染症関連の補助により、医業収支の影響はカバーされた形となったが、今後の安定した病院経営のためには、新たに策定した新公立病院改革プラン継続計画及びアクションプランに沿って、引き続きプランに掲げた目標の達成に向けた取組を推進していく必要がある。

今後とも、収支改善に向けた取組について研究していくとともに、社会情勢の変化に留意しながら、地域の公立病院としての責務である良質で安全な医療を安定的に提供していきたい。

（小此木　聡）

医療サービス課

１．スタッフ

課長１名、医事係46名（会計年度任用職員41名含む）、診療報酬係４名、情報管理係７名（会計年度任用職員２名含む）、計58名。

２．業務の現況

今年度の診療報酬改定は診療報酬本体と薬価改定等を併せ、全体改定率でマイナス0.46％であった。医療サービス課では新規施設基準や各種加算の届出を積極的に行い収益確保に努めるとともに、病院総合情報システム再構築事業の本稼働といった重要案件を中心に業務を遂行した。

医事係は、診療報酬調定、自費未収金管理、交通事故相談、公衆衛生活動に関する調整、医事業務契約、人間ドックなどの健診事務のほか、医師の事務負担軽減を目的とした医師事務作業補助業務を担当している。今年度は、自費未収金総額の圧縮を図るため、積極的に発生抑制及び回収の取組を実施した結果、前年度比で約20,000千円の削減を達成することができた。

診療報酬係は、入院及び外来の受付業務から診療報酬請求までを一貫して行うほか、診療報酬上の施設基準の申請や管理などを担当している。今年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う受診控えや診療制限による患者数減少の影響もあり、医業収益は前年度を下回る結果となった。

情報管理係は、病院総合情報システムの管理、病歴管理、がん登録、診療録開示及び診療統計抽出業務を担当している。令和元年度から令和２年度の２箇年事業である病院総合情報システム再構築については、適切に各種システムの構築・稼働準備を実施し、計画どおり７月27日に本稼働を開始することができた。

３．今後の目標

自費未収金の削減に向け効果的な発生抑制の研究及び回収の検討、診療報酬に関する情報分析を行い収益増に繋げる取組などを目標に実施していきたい。

（須斎　暁男）

地域医療連携室

１．スタッフ

室長（看護副部長）１名、地域連携係９名（事務職員４名、会計年度任用看護員 1 名、会計年度任用事務職員 4 名）、入退院支援係 21 名（看護員６名、社会福祉士８名、会計年度任用看護員２名、会計年度任用社会福祉士１名、会計年度任用事務職員４名）　計 31 名。

２．業務の現況

地域連携係は、紹介患者、関係機関との連携、苦情相談、地域の医療従事者等に対する研修、がん診療連携拠点病院事業、室の庶務等に関する業務を行っている。医療機関への訪問や地域の医療従事者に対する研修については、新型コロナウイルス感染防止の観点から上半期は縮小していたが、下半期は感染予防をしたうえで医療機関への訪問を開始し、研修については WEB にて開催した。外来の受付待ち時間を減らすために、健康診断や人間ドック等で要精査の診断を受けた患者の外来予約を開始した。予約をとり患者が来院する時間をずらすことで、患者が受付で密になる状態の改善に繋がった。

入退院支援係は、入退院支援に関する業務を行っている。入院支援は、全診療科の支援が開始となった。薬剤師による内服薬の確認、中止薬の説明も順調に推移している。予定入院に対する新型コロナウイルスの唾液による抗原定量検査の開始に伴い、検査説明を入院支援で開始した。

退院支援は、退院後に医療・介護が必要となる患者・家族を対象に、医師会の在宅医療を担う医師による在宅医療相談会の定期開催（月１回）を継続できた。面会制限による介護支援専門員（ケアマネジャー）とのサービス担当者会議が困難となり、書面や電話での対応になっている。

相談支援センターは、コロナ禍のため対面での相談を一時休止したことにより、相談件数が大幅に減少した。「患者サロンオアシス」や「なごみカフェ」の患者会も休止となっている。

今後も、紹介患者の確保のために、地域医療機関と連携し、患者や家族が安心して入院生活を送れるように入院前から関わるとともに、退院後の不安を軽減できるように在宅復帰や転院に向けた支援を行っていく。

３．今後の目標

(1) 地域医療機関および介護事業所との連携推進
(2) 地域連携クリニカルパスの推進
(3) 患者支援の充実

（大下　洋美）

医療安全管理室

１．スタッフ

室長（副院長）、室長補佐（看護副部長）、専従医療安全管理者（看護師）１名、専従感染管理係（看護師）２名、専従褥瘡管理係（看護師）１名、事務職員（会計年度任用職員）１名の７名体制。

医療安全情報係

❑ 業務の現況

(1) インシデント・アクシデントレポートの収集・分析、再発予防のための対策の検討
(2) 医療安全に関する啓発及び知識の普及
(3) 医療安全管理委員会の開催
(4) リスクマネジャーの教育
(5) リスクマネジャーへの助言

インシデント・アクシデントレポートの報告は、令和２年度は総数 1,672 件であった。その内訳は、薬剤 328 件、輸血６件、治療・処置 105 件、医療機器等 25 件、ドレーン・チューブ類 290 件、検査 159 件、転倒・転落 320 件、療養上の世話 231 件、医師報告事項は 35 件、苦情・クレーム 48 件、その他 125 件であった。

患者影響レベルは、レベル０：91 件、レベル１：700 件、レベル２：586 件、レベル３ａ：199 件、レベル３ｂ以上：40 件、レベルなし 56 件であった。

2020 年７月から、インシデント報告分析支援システムｅＰｏｗｅｒ／ＣＬＩＰに変更し報告数は増加した。インシデント・アクシデントレポート提出後、事故の事実関係を把握し、当該部署へ助言しながら問題の解決に当たっている。また、週報を作成し、タイムリーにフィードバックできるよう、医療安全カンファレンスで検討し

た。誤った医療の実施や警鐘事例を抽出し、是正レポートとして、当該部署への事後訪問を行い、現場評価や対策への助言を行った。医療安全管理委員会でレポート集計結果や事例の報告を行いリスクマネジャー会で事例を共有し、各部署への周知徹底を図った。さらに、安全管理ニュースにて職員へ情報提供を行った。また、レベル 3b 事例より、2 件事例検討を行い、医療安全ケースレポートを配信し、対策の周知を行った。

2019 年 7 月に発生した事例について、医療事故調査・支援センターへの報告を行い、院内事故調査を終了した。事故調査における報告書は、インシデント報告分析支援システム内で共有できるようにした。また、医療事故調査・支援センターからの再発防止に向けた提言集はイントラネットに掲載し共有した。

4 月からの新入職者対象に医療安全について教育研修を行った。全体研修はｅラーニングを活用し実施した。「患者誤認防止対策の実践方法、個人情報の取り扱い」受講率 98%、「心理的安全性」受講率は 100%であった。9 月～12 月にかけて第8回リスクマネジャー養成研修会を開催し 29 名が修了した。研修を修了したリスクマネジャーは計 186 名となった。また、フォローアップ研修としてリスクマネージャー19 名を対象に「ヒアリング、インタビューの方法」を実施した。

2019 年度より開始したＣＶＣ認定講習会では、新たに 17 名が受講し、修了者は計 19 名となった。

11 月厚生労働省主催医療安全推進週間では、医療安全ポスターの掲示及びＤＶＤの放映を行った。

医療安全対策の地域連携として、公立富岡総合病院へ訪問し、日高病院より訪問を受け相互評価を行った。また、青木病院、石井病院へ訪問し評価を行った。各病院の取組を参考に、医療安全管理体制の整備につなげた。

❑ 今後の目標

(1) インシデント・アクシデント報告の徹底
(2) 医療安全カンファレンスの充実、情報提供の促進
(3) リスクマネジャーの能力向上
(4) ＩＣ内容充実
(5) 安全文化の醸成
(6) 医療安全の地域連携推進
(7) メディエーションを活用した対応力の向上

感染管理係

❑ 業務の現況

(1) 感染対策に関する啓発及び知識の普及
(2) 医療関連感染の原因究明と対策立案
(3) アウトブレイクの早期発見と介入
(4) 感染対策関連サーベイランスの実施
(5) 職業感染防止への取り組み
(6) 感染管理に必要な環境整備
(7) ＩＣＴ（感染対策チーム）/ＡＳＴ（抗菌薬適正支援チーム）の活動調整

上記を主な活動とし、医療関連感染の低減と薬剤耐性菌の低減を目指している。令和 2 年度は、アウトカム指標である医療関連感染率、耐性菌分離率は低い傾向にあり、良好に管理されているといえる。

プロセスで重要となる職員教育は、研修医、新人、リンクナースなどターゲット研修のほか、全職員対象にオンデマンド配信を利用し「新型コロナウイルス感染症について①」「（同テーマ）②」について研修を行った。前者は追加研修を含め 98.3%、後者は 100%の参加率であった。抗菌薬適正使用に関する研修についても医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師等に行い参加率は 100%であった。

新型コロナウイルス対策では、クラスター発生を抑止する目的で、職員に対しユニバーサルマスキングや目の保護などの徹底を呼びかけ、遵守状況をモニタリングしている。患者協力も必要と考え、感染対策リンクナースの協力を得て入院時指導パンフレットを作成し、活用を始めた。その他、クラスター対策チームの参加や地域高齢者施設への感染対策訪問指導など地域活動も行っている。

サーベイランスでは、アウトカム指標として集中治療室における各種デバイス、消化器外科・心臓血管外科における手術部位感染、全病棟において中心静脈カテーテル関連血流感染、カテーテル関連尿路感染サーベイランスを実施し現場へのフィードバックとともに、改善活動に取り組んでいる。また、手指衛生の遵守率の向上を目的に看護部感染対策リンクナース委員を中心に啓蒙活動を行った結果、プロセス指標である擦式手指消毒薬の 1 患者当たりの使用量が令和元年度と比較し 3.05 から 6.52 回/1 患者/日へ増加した。今後、量的評価とともに質的評価を行っていく。

その他、チーム医療の推進に関連し排尿ケアチームとの協働によるカテーテル関連尿路感染の低減、ＲＳＴとともに肺炎予防に取り組んでいる。次年度以降も継続し医療の質向上を目指す。

今後の課題として、新興感染症に対する対応と感染対策の基本となる手指衛生等の感染防止技術の遵守率向上に向けた取り組み、病院清掃の質向上、ＡＳＴの介入内容の充実、耐性菌分離率低減、新型コロナ対策に関連する地域連携及び感染管理に携わる人材の育成などに取り組んでいく。

❑ **今後の目標**

(1) 新興感染症に対する体制整備
(2) 手指衛生遵守率向上
(3) 病院清掃の質向上
(4) 感染対策の地域連携推進
(5) ＡＳＴ活動の充実
(6) 感染管理に携わる人材の育成
(7) サーベイランスの充実

褥瘡管理係

❑ **業務の現況**

(1) 褥瘡対策に関する啓発及び知識の普及
(2) 褥瘡発生時の対応策の検討
(3) 褥瘡ハイリスク患者への対応
(4) 褥瘡回診の実施
(5) 褥瘡対策に必要な環境調整
(6) 医療関連機器圧迫創傷への対応

上記を主な活動とし、院内の褥瘡発生数の減少と褥瘡の早期改善をめざしている。令和 2 年度の褥瘡推定発生率は平均0.7%、褥瘡有病率は平均2.5%であった。褥瘡発生数は83名であり、持ち込み褥瘡数は184名であった。褥瘡ハイリスク患者ケア加算では761件の介入を行った。

院内褥瘡対策委員会及び院内褥瘡対策小委員会と連携を図り、院内で褥瘡発生時には原因に対する対応策の検討を行い、褥瘡回診時には創部の評価を行いケア方法の検討を行った。また、褥瘡を保有して施設や在宅へと移行する患者に関しては、退院前カンファレンスに参加し、褥瘡の評価やケア方法の伝達、体圧分散用具についての検討を行った。院内で使用している体圧分散用具に関し、令和 2 年度は耐用年数を超えたコンフォートＢの買換を行った。今後も体圧分散寝具の使用状況の確認を行いながら、体圧分散用具の効果的な使用方法について知識の普及に努めていく。令和 2 年度の医療関連機器圧迫創傷は合計85件の報告があった。医療関連機器の管理方法とともに個々の症例について対応策の検討を行った。

職員教育では、新人研修で褥瘡の発生原因、危険因子の評価、体位変換・背抜き、創部の洗浄方法など褥瘡対策に関する基本的な知識の普及を行った。また、10月に専任看護師の教育とともに、半年間以上の看護経験を有する看護師を対象に、褥瘡対策に関する診療計画書とDESIGN－R®についての研修を行った。さらに、12 月にラダーステップⅣ以上の看護師を対象にポジショニングについての研修を2回行った。

❑ **今後の目標**

(1) 褥瘡予防対策の標準化
(2) ポジショニング技術の向上・体圧分散用具の整備
(3) 褥瘡予防対策マニュアルの定期的な改正
(4) 褥瘡委員の能力向上
(5) 地域医療機関等との連携

（前田　昇三）

Ⅹ　会議･委員会・研究会・研修会等

X　会議・委員会・研究会・研修会等

1．会　　議

会　議　名	目　　的	開　催
幹　部　会　議	病院の最重要事項を審議し、基本的方針を決定する。	月２回 （第１水曜日、第３水曜日）
M　　C （経営会議）	病院の管理、運営における重要事項を審議するとともに、病院事業の充実発展及び業務を円滑に遂行するための調整を行う。	年４回
診　療　科 責任者会議	各部局又は各課(科)等の関連事項の協議、調整及び情報の交換伝達を行い円滑な業務運営を図る。	月１回 （第４金曜日）
医療運営会議	医療業務を遂行する上での関連事項の協議、調整及び情報の交換伝達を行い、適切な業務運営を図る。	月１回 （第１木曜日）
看護師長会議	看護業務を遂行する上での関連事項の協議、調整及び情報の交換伝達を行い、適切な業務運営を図る。	月１回 （第３火曜日）

2．委　　員　　会

委員会名	目　　的	開　催
働き方改革検討委員会	病院事業職員の健康保持及び仕事と生活の調和を図り、長時間勤務の是正に向けた取組等を検討し、病院事業における働き方改革を推進していくことを目的とする。	年2回
診療報酬対策委員会	医療保険制度の円滑な運用と診療業務の効率的運営を図る。	年11回
物流管理運営委員会	物品供給及び保管、新規医療材料の採否について審議し、もって有効かつ効率的な物流管理を図る。	年5回
病床機能分化検討委員会	病床機能を効果的に運用するための調査、検討を目的とする。	年3回
重症度、医療・看護必要度委員会	院内における重症度、医療・看護必要度の適切な評価を行うことを目的とする。	随　時
重症度、医療・看護必要度小委員会	重症度、医療・看護必要度の適切な評価を行い、看護職者の適正配置することを目的とする。	年11回
医療安全管理委員会	安全な医療を提供するための調査及び分析、評価等を行い医療事故防止や予防対策の推進を図る。	年12回
リスクマネージャー会	医療安全管理に関する取組みを推進する。	年22回
透析機器安全管理（水質管理）委員会	透析機器の安全管理を図る。	年12回
虐待対策委員会	院内における虐待に関する対応、方針を明確にし、被害者の権利の擁護に資することを目的とする。	年5回
感染対策委員会	院内における病原微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期する。	年13回
輸血療法委員会	院内で使用する血液の取扱いについて検討し、血液管理の円滑化を図る。	年6回
院内褥瘡対策委員会	病院内における褥創対策を討議・検討し、効率的な褥創予防の推進を図る。	年10回
院内褥瘡対策小委員会	院内褥瘡対策委員会と連携し、褥瘡ケアの質の向上を図り、院内の褥瘡推定発生率の低下を図る。	年12回

委員会名	目　　的	開　催
緩和ケア委員会	悪性腫瘍など生命を脅かす疾患に対し、身体・精神・社会・スピリチュアル等の苦痛緩和と、ＱＯＬの向上に向けて院内外の知識・技術の向上を図る。	年９回
緩和ケア小委員会	緩和ケア委員会と連携し、院内の緩和医療に対する意識を高め、緩和医療の知識・技術の向上を図り、看護実践の共有・改善、教育に関することなどを検討する。	年12回
クリニカルパス委員会	医療の標準化、効率化を図ることで患者により良い医療を提供し、病院業務の円滑な運営を図る。	年10回
クリニカルパス小委員会	現場でのクリニカルパス作成と分析後の変更等を推進する。	年22回
救急医療対策委員会	救急患者に対する良質で適正な医療サービスを提供するため、診療機能体制の円滑な運営を図る。	年９回
栄養管理委員会	理想的な栄養管理を確立し、医療の質の向上を図る。	年10回
ＮＳＴ委員会	患者の栄養状態及び治療成績、ＱＯＬ（生活の質）の改善を図るとともに、チーム医療の推進による医療の質の向上を目的として、適切な栄養アセスメント及び栄養指導を行う。	年11回
がん診療委員会	地域がん診療連携拠点病院として、地域における予防活動及びがんの早期発見と治療の向上を図る。	随　時
がん化学療法委員会	化学療法のレジメンの安全性などについて厚生労働省が承認した薬剤に基づき審査、管理、承認する。	年６回
病棟業務委員会	病棟の運営と、病床管理の適正化及び合理的かつ効率的運用を図る。	年11回
外来業務委員会	外来管理の適正化及び合理的かつ効率的運用を図る。	年９回
看護外来小委員会	通院治療を要する患者のＱＯＬ向上のために、看護外来の効率的運用と、看護外来の質の向上を図る。	年９回
慢性疾患療養指導委員会	慢性疾患療養指導に関する円滑な運営を図る。	年１回
糖尿病療養チーム小委員会	糖尿病の治療・指導を討議・検討し、その向上を図る。	年12回
腎臓病療養チーム小委員会	腎臓病の治療・指導を協議・検討し、その向上を図る。	年５回

委員会名	目　　的	開　催
呼吸器療養チーム小委員会	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の指導・教育及び人工呼吸、酸素療法についての職員研修体制を確保し、安全な看護を提供する。	年４回 （令和２年度は開催なし）
放射線安全管理委員会	放射性同位元素等の安全管理を図り、放射線障害の発生を防止する。	年１回
医療の質評価向上委員会	質の高い医療の実践に役立てるために、臨床指標などの評価指数を活用して、当院の医療の質を評価する。	年１回
病院機能評価委員会	病院の問題点を明確にし、その改善に向けて協議検討し、第３者による病院機能評価を受審し、医療の質の向上と地域住民の信頼を確保する。	年２回
伊勢崎市民病院先進医療審査委員会	厚生労働省が定める先進医療の当院での実施について、審査、検討を行う。	年２回
伊勢崎市民病院医師事務作業補助業務委員会	医師の負担軽減に資するための医師事務作業補助者を育成して、医師事務作業補助チーム要綱に準じて効率的な業務を行っているか監査を行う。	年１回
治験審査委員会	治験薬等の臨床試験の実施について倫理的、科学的及び医学的妥当性について審査等を行う。	随　時
伊勢崎市民病院倫理委員会	患者等の人権及び生命の擁護について、法律及び医学又は医療の倫理に照らし、適切な医療及び医学研究等が行われるよう審議する。	年１回
伊勢崎市民病院医療事故調査委員会	医療事故が発生した場合、その原因究明について調査を行うこと。	随　時
伊勢崎市民病院地域医療支援委員会	地域における医療の確保のために必要な支援を行う。	年２回
伊勢崎市民病院群初期臨床研修管理委員会	当病院を基幹型臨床研修病院とする医師の臨床研修の実施について、適切な指導及び管理運営を図る。	年２回
伊勢崎市民病院新専門医制度委員会	新専門医制度の基本理念の下、伊勢崎市民病院を基幹施設とする新専門医制度の充実を図ることを目的とする。	年１回
伊勢崎市民病院看護師特定行為研修管理委員会	医師のタスクシフト及びチーム医療を推進し、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、特定行為に必要な知識及び技術を教育し社会に貢献できる有能な看護師を育成するための特定行為研修を受ける看護師に対し、特定行為研修の円滑な指導、運営を図る。	年５回
情報システム委員会	医療情報システムで使用される機器ソフトウェア及び運用に必要な仕組み全般についての安全で適切な管理運営を図る。	年１回

委員会名	目　　的	開　催
診療情報開示検討委員会	診療情報の開示依頼があった場合、開示について検討する。	年９回
薬事委員会	病院で使用する医薬品等の副作用、薬効再評価情報、新規薬品の購入、在庫薬品の取扱いを検討し、より適正な病院経営及び診療・調剤の円滑化を図る。	年４回
地域医療連携室運営委員会	地域中核病院として関係機関との連携強化推進と、入退院患者の支援体制及び業務効率化の推進を図る。	年12回
退院支援委員会	患者の自己決定を尊重し、退院支援および退院調整を図ることを目的とする。	年11回
中央手術室運営委員会	各科との連絡調整と手術室の効率的利用について協議し、業務の円滑な運営を図る。	年７回
集中治療室運営委員会	集中治療室（ＩＣＵ）の円滑な運営と高度な医療を提供することを目的とする。	年６回
中央放射線科運営委員会	診療部門の連絡を緊密にし、中央放射線業務の充実と業務の円滑な運営を図る。	年１回
中央材料室運営委員会	医療機器具等の再処理を安全かつ効率的に供給する。	年１回
診療記録管理委員会	診療記録及び病歴管理について審議する。	年７回
検査業務委員会	診療部門の連絡を緊密にし、検査業務の充実向上と業務の円滑な運営を図る。	年４回
検診運営委員会	検診センターの適正かつ効率的運営を図る。	年１回
DPC／PDPS コーディング委員会	標準的な診断及び治療方法の周知並びに適切なコーディングを行う体制の確保を図る。	年４回
伊勢崎市民病院脳死判定委員会	本院で行われる臓器の提供を前提とした脳死判定に関する事項を審議する。	随　時
伊勢崎市民病院臓器提供対策委員会	院内で行われる臓器移植に関する事項を審議する。	随　時
伊勢崎市民病院内視鏡センター運営委員会	内視鏡センターの円滑な運営と質の高い医療を提供することを目的とする。	年２回
臨床研修委員会	医師臨床研修の指導体制及び円滑な研修運営を図る。	年５回

委員会名	目　　的	開　催
接遇改善委員会	職員の接遇向上を図り患者サービスの充実を図る。	年１回
新人看護職員研修制度委員会	新人看護職員への臨床研修の企画・運営・評価を行う。	年30回
図書・学術支援・研修委員会	研修並びに病院内の図書の有効利用、職員の学術調査、研究の支援を行う。	年２回
伊勢崎市民病院地域医療従事者等研修委員会	地域の医療従事者等の資質の向上のために策定した研修プログラムの評価・検討を行う。	年１回
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する。	年１回
個人情報保護対策委員会	個人情報の取り扱いについて、条例に基づき適正な管理運営を図る。	年１回
衛生委員会	職員の安全衛生及び健康管理について審議する。	年15回
防火防災管理委員会	病院における防火防災管理の徹底を期し、もって火災及びその他の災害に因る物的、人的被害を軽減することを目的とする。	年１回
診療用放射線安全利用管理委員会	診療用放射線に係る安全体制について企画または審議する。	年１回
広報編集委員会	病院広報誌の作成及び病院ホームページの管理を行う。	年３回
年報編集委員会	病院年報の編集を行う。	年１回

３．院内外定期研究会および抄読会

所　　属	院内・院外定期研究会および抄読会	開　催
全　　科	M&Mカンファレンス C.P.C 示説会	月１回 年４回
内　　科	症例検討会（内科系総合） 呼吸器カンファレンス（内科、外科、放射線診断科、放射線治療科） 消化器内視鏡カンファレンス	週１回
神経内科	症例検討会（内科系総合）、グランドカンファレンス、 病棟カンファレンス（医師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、ＭＳＷ） ショートカンファレンス	週１回 週１回 週５回
循環器内科	症例検討会（内科系総合）、研修医カンファレンス、心カテカンファレンス、 心臓病フォーラム、群馬県冠動脈治療懇談会	週１回 年1～2回
小　児　科	入院症例検討会 抄読会（英文） 伊勢崎佐波子ども健康教室	週１回 月２回 年1～2回
外　　科	病棟カンファレンス、術前術後検討会、レントゲンカンファレンス、抄読会、 呼吸器カンファレンス（内科、外科、放射線診断科、放射線治療科）、 キャンサーボード（消化管、肝胆膵）	週１回
整形外科	術前術後検討会、症例検討会 病棟カンファレンス（医師、看護師、作業・理学療法士、ＭＳＷ） 群馬整形外科研究会	週１回 年６回 年２回
心臓血管外科	心臓血管外科カンファレンス、術前症例検討会 伊勢崎佐波医師会循環器勉強会、群馬県末梢血管懇談会	週１回 年２回
皮　膚　科	術前検討会、皮膚病理組織検討会	週１回
泌尿器科	透析カンファレンス 病棟カンファレンス、入院症例検討会（医師）	月１回 週１回
産婦人科	入院症例検討会、術前検討会	週１回
耳鼻いんこう科	術前検討会	週１回
麻　酔　科	術前検討会	週５回
歯科口腔外科	術前検討会	週１回
緩和ケア内科	病棟カンファレンス（医師、看護師、薬剤師、うち理学療法士・管理栄養士　週１回） ミニデスカンファレンス、合同カンファレンス	週５回 不定期
リハビリテーション科	リハビリテーション科内カンファレンス リハビリテーション勉強会	隔週 月１回

所　　属	院内・院外定期研究会および抄読会	開　催
緩和ケアチーム	緩和ケアチームカンファレンス 多職種カンファレンス	週５回 週３回
中央放射線科	中央放射線科勉強会	月１回
中央検査科	臨床検査研究会	年１回
栄　養　科	ＮＳＴカンファレンス	週１回
看護部門	看護会議、看護教育部会、病棟勉強会 病棟カンファレンス 看護研究発表会 臨床倫理事例報告会	月１回 週４～５回 年２回 年２回
薬　剤　部	病棟カンファレンス 病棟薬剤業務・DI カンファレンス 群馬県病院薬剤師会研修会 部内新薬等説明会 伊勢崎佐波薬剤師会講演会 伊勢崎地区がん薬物療法勉強会	週１回 隔週 月１回 月１回 月１回 年１回
地域医療連携室	ボランティア活動研修会 群馬脳卒中医療連携の会 大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会地域連携パス部会 伊勢崎佐波地域医療連携実務者の会 症例検討会 患者サポートカンファレンス 伊勢崎市要保護児童対策地域協議会 伊勢崎地域緩和ケアネットワーク研修会 伊勢崎市こども支援部会 群馬県児童虐待防止ネットワーク研修会	年１回 年３回 年３回 年２回 年２回 年３回 年1～2回 週１回 月１回 年２回 年２回 年２回
医療安全管理室	医療安全カンファレンス 医療安全巡視 医療安全カンファ（全体研修） ICT/AST カンファレンス 伊勢崎感染対策カンファレンス	週１回 月２回 年２回 週１回 年５回

４．院内講演会および研修会

（単位　人）

年 月 日	演　　題	種　　類	受講者数	担 当 所 属
2.6.19 ～7.16	医療安全全体研修 ①	Web 研修	938	医療安全管理委員会
2.6.19 ～7.16	新型コロナウイルス感染症	Web 研修	925	感染対策委員会
2.7.1 ～3.3.31	ＢＬＳ研修	OJT	449	BLSワーキング
2.8.5	新規採用職員等研修会	職員研修	36	企画財政課
2.9.1 ～12.25	リスクマネージャー養成研修会	研修会	29	医療安全管理委員会
2.9.16	伊勢崎地区がん薬物療法勉強会 「乳癌の最新薬物療法について」 「令和2年度診療報酬改定　外来化学療法」	勉強会	20 (5)	がん化学療法委員会 薬剤部
2.9.10 ～12.23	糖尿病療養指導勉強会（９回コース）	勉強会	21	糖尿病療養チーム小委員会
2.11.16 ～3.1.8	伊勢崎市民病院クリニカルパス大会	Web 講演会	1,010	クリニカルパス委員会
2.11.24 ～12.28	コロナに関する感染対策とAMR対策	Web 研修	958	感染対策委員会
2.11.24 ～12.28	医療安全全体研修 ② 「心理的安全性と医療安全文化」	Web 研修	958	医療安全管理委員会
2.11.28	緩和ケア研修会	研修会	16	緩和ケア委員会
2.12.1 ～12.22	認知症とせん妄について	勉強会	341	認知症ケアチーム
2.12.12	診療用放射線の安全利用のための研修 「放射線に関する知識を深めよう」	Web 研修	231	放射線安全管理委員会

年 月 日	演　　題	種　　類	受講者数	担 当 所 属
3. 2. 1 ～2. 26	医療機関における個人情報保護対策	Web 研修	1, 000	個人情報保護委員会
3. 2. 16 ～2. 17	中級職員研修	職員研修	70	企 画 財 政 課
3. 2. 18 ～3. 19	災害医療活動訓練	Web 研修	1, 000	災害医療ワーキングチーム
3. 3. 1 ～3. 15	専門・認定看護師活動報告会	ポスター展示	―	専 門 ・ 認 定 看護師委員会
3. 3. 8 ～3. 22	当院におけるAMR対策について 「抗菌薬適性使用支援加算対策研修」	Web 研修	828	感染対策委員会

※（　　）参加者のうち院外参加者数

５．看護研究発表会

年月日	テ　　ー　　マ	所　　属	発 表 者	出席人数
2.9.18	脳血管疾患を発症した末期癌患者の在宅復帰への支援 ～渡辺式家族アセスメントモデルを参考にして～	8階A病棟	門井　順	62
	未熟児室での災害発生シミュレーション実施前後の看護師の認識の変化	5階A病棟	阿久津　真理	
	急性期病院の看護師が感じる認知症高齢者への陰性感情の変化 ～ユマニチュードを学んだ前後の比較～	8階B病棟	長谷川　千晴	
3.2.22	尿路ストーマ造設術を受けた患者に動画を用いたパウチ交換指導を行って ～動画指導の効果と指導上の課題を明らかにする～	7階B病棟	中野　ひとみ	45
	当病院循環器センターの看護師が心不全発症リスクの高い患者へ実施している患者指導の現状 ～大動脈ステントグラフト内挿術後患者への患者指導に焦点を当てて～	6階A病棟	竹澤　早紀	
	ケア板を用いた褥瘡カンファレンスによる集中治療室看護師の褥瘡予防に対する行動	集中治療室	山名　有美香	
	身体抑制のない看護の実現に向けた急性期病院 A 病棟看護師の具体的行動	9階B病棟	小平　雄希	
	当病院に入院中の一過性脳虚血発作（TIA）患者に対する退院指導の実態調査	8階A病棟	及川　敏毅	
3.3.4	看護師の抗がん薬職業性暴露に関する認識調査	外来	田端　里江	50
	当病院腎センタースタッフの維持血液透析患者のシャント穿刺に対する意識調査	腎センター	秋間　千代子	
	集中治療室に緊急入床した患者が在室中に感じたこと ～緊急入床した患者へのインタビューから今後の看護介入を考える～	集中治療室	田中　絵里香	
	大動脈ステントグラフト内挿術を受けた患者の定期受診に対する認識 ～未受診患者を対象とした調査～	6階B病棟	内藤　千里	

６．臨床研修および臨地実習指導

（1）医　療　部

期　　間		学　校　名	人　数	研　修　・　実　習　科　名		
臨床研修病院研修医	31.4.1～3.3.31	群　馬　大　学	8	初期臨床研修		２年次
	〃	自治医科大学	1	〃		２年次
	〃	秋　田　大　学	2	〃		２年次
	〃	杏　林　大　学	1	〃		２年次
	〃	産業医科大学	1	〃		２年次
	〃	愛知医科大学	1	〃		１年次
	2.4.1～4.3.31	群　馬　大　学	7	〃		１年次
	〃	自治医科大学	1	〃		１年次
	〃	山　形　大　学	1	〃		１年次
	〃	帝　京　大　学	1	〃		１年次
	〃	金沢医科大学	1	〃		１年次
	〃	鳥　取　大　学	1	〃		１年次
医学生実習	3.1.4～3.1.15	群　馬　大　学	1	外　科	臨床実習	
	3.1.4～3.1.29	〃	4	内　科	〃	
	〃	〃	1	麻　酔　科	〃	
	3.1.18～3.1.29	〃	1	心臓血管外科	〃	
	3.2.1～3.2.26	〃	4	内　科	〃	
	3.3.1～3.3.26	〃	4	〃	〃	
病院見学	2.7.1	山　形　大　学	1	臨床研修希望者病院見学		
	2.7.2	群　馬　大　学	4	〃		
	〃	山　形　大　学	1	〃		
	2.7.9	群　馬　大　学	2	〃		
	〃	秋　田　大　学	1	〃		
	〃	杏　林　大　学	1	〃		
	〃	大　阪　大　学	1	〃		
	2.7.16	群　馬　大　学	2	〃		
	〃	福　井　大　学	1	〃		
	2.7.30	群　馬　大　学	2	〃		
	2.8.5	日　本　大　学	1	〃		
	2.8.6	群　馬　大　学	2	〃		
	〃	日　本　大　学	1	〃		
	〃	高　知　大　学	1	〃		
	2.8.12	滋賀医科大学	1	〃		
	2.8.18	自治医科大学	1	〃		
	2.11.18	岩手医科大学	1	〃		
	2.11.19	群　馬　大　学	3	〃		

期間		学校名	人数	研修・実習科名
病院見学	2.12.21	新潟大学	1	臨床研修希望者病院見学
	2.12.24	群馬大学	1	〃
	〃	自治医科大学	1	〃
	3.2.18	群馬大学	1	〃
	3.3.18	群馬大学	1	〃
	〃	秋田大学	1	〃
	〃	日本大学	1	〃
	3.3.22	金沢医科大学	1	〃
	3.3.23	順天堂大学	1	〃
	3.3.24	山形大学	1	〃

（2）歯科口腔外科

期間	学校名等	人数	実習内容
2.7.10～2.7.22	太田医療技術専門学校	1	歯科衛生学科
2.8.18～2.8.31	太田医療技術専門学校	1	歯科衛生学科
2.9.7～2.9.18	太田医療技術専門学校	1	歯科衛生学科

（3）リハビリテーション科

期間	学校名等	人数	実習内容
2.10.19～2.12.11	群馬大学	1	理学療法総合臨床実習　4年生
3.2.8～ 3.2.26	群馬大学	1	理学療法臨床実習　3年生

（4）中央放射線科

期間	学校名等	人数	実習内容
2.7.27～2.8.7	群馬パース大学	5	核医学・放射線治療技術学臨床実習　4年生
2.8.31～2.9.30	群馬県立県民健康科学大学	17	診療画像技術学実習　4年生
3.2.15～3.2.18	群馬県立県民健康科学大学	9	診療放射線技術学導入実習　1年生

（5）中央検査科

期間	学校名等	人数	実習内容
2.7.6～2.8.28	帝京大学	1	臨床検査実習　4年生
2.7.6～2.8.28	群馬パース大学	2	臨床検査実習　4年生

（6）臨床工学科

期間	学校名等	人数	実習内容
2.9.1～2.10.7	太田医療技術専門学校	4	臨床工学技士臨床実習　3年生

（7）栄　養　科

期　　間	学　校　名　等	人 数	実　習　内　容	
3.3.1～3.3.12	桐　生　大　学	2	臨床栄養学実習	３年生

（8）看　護　部

期　　間	学　校　名　等	人 数	研修・実習科名	
2.7.1～2.7.22	上　武　大　学	10	急性期成人看護学実習	４年生
2.7.6～2.7.10	桐　生　大　学	6	成人看護学実習Ⅱ	３年生
2.7.14～2.7.15	桐　生　大　学	26	早期体験合同実習	１年生
2.7.20～2.10.2	群馬パース大学	2	助産専攻　助産学実習	
2.8.17～2.9.4	高崎健康福祉大学	72	基礎看護学実習Ⅱ	２年生
2.8.17～2.9.4	桐　生　大　学	11	看護セミナー	４年生
2.8.24～2.9.4	本庄児玉看護専門学校	4	成人看護学実習Ⅱ	３年生
2.8.24～2.9.4	桐　生　大　学	12	小児看護学実習	３年生
2.9.7～2.9.25	群馬県立県民健康科学大学	7	看護学研究Ⅱ（EBP）	４年生
2.9.28～2.10.9	本庄児玉看護専門学校	4	成人看護学実習Ⅰ	３年生
2.9.28～2.10.9	本庄児玉看護専門学校	4	小児看護学実習	３年生
2.9.28～2.11.6	伊勢崎敬愛看護学院	45	成人看護学実習Ⅲ	３年生
2.9.28～2.12.18	群馬県立県民健康科学大学	31	生涯発達看護学　母胎期実習	３年生
2.10.5～2.12.18	桐　生　大　学	2	助産専攻　助産学実習	
2.10.26～2.11.20	東群馬看護専門学校	8	小児看護学実習	３年生
2.11.10～2.11.20	桐　生　大　学	17	基礎看護学実習Ⅱ	２年生
2.11.16～2.12.4	伊勢崎敬愛看護学院	12	基礎看護学実習Ⅱ	１年生
2.11.24～2.12.4	上　武　大　学	25	受け持ち看護実習	２年生
2.12.7	上　武　大　学	50	病院オリエンテーション	１年生
2.12.8～2.12.18	上　武　大　学	50	看護体験実習	１年生
3.1.5～3.2.12	上　武　大　学	52	慢性期成人看護学実習	３年生

（9）薬　剤　部

期　　間	学　校　名　等	人 数	実　習　内　容	
2.11.24～3.2.14	高崎健康福祉大学	4	薬学生実務実習	５年生
3.3.29	高崎健康福祉大学	1	病院見学	５年生

（１０）地域医療連携室

期　　間	学　校　名　等	人 数	実　習　内　容	
2.10.8～3.2.2	東　京　福　祉　大　学	1	社会福祉相談援助実習	３年生

ＸＩ　研 究 業 績

XI 研 究 業 績

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

1．論　　文　（原著・総説・著書など）

（1）欧文論文

【内科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Ou Yamaguchi	Shinichi Ishihara, et al	Efficacy and safety of immune checkpoint inhibitor monotherapy in pretreated elderly patients with non-small cell lung cancer	Cancer Chemother Phamacol	85(4)	761-771	2020.4
Takashige Masuo	Masanori Sekiguchi, et al	Visible dysplasia with occult invasive cancer in inflammatory bowel disease : Benefit and limitation of interded curative endscopic resection	Digstive and Liver Disease	52(7)	782-783	2020.7
Hisao Imai	Shinichi Ishihara, et al	Efficacy and safety of S-1 monotherapy in previously treated elderly patients (age ≥75 years) with non-small cell lung cancer: A retrospective analysis	Thorac Cancer	11(10)	2867-2676	2020.10

【整形外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁(初頁-終頁)	発行年月
Sho Ishiwata	Haku Iizuka	Upregulated miR-224-5p suppresses osteoblast differentiation by increasing the expression of Pai-1 in the lumbar spine of a rat model of congenital kyphoscoliosis	Mol Cell Biochem	475(1-2)	53-62	2020.12

【心臓血管外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Shuichi Okonogi	Satoshi Ohki, Tamiyuki Obayashi, Kiyomitsu Yasuhara, Ayako Nagasawa, Takao Miki	Single-Stage hybrid procedure for ruptured calcified calcified thoracic aortic aneurysm caused by Takayasu's arteritis	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	69(3)	610-613	2021.3

【皮膚科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Masahito Yasuda	Atsushi Tamura, et al	Atypical hidradenitis suppurativa on the leg in a psoriatic patient	Indian J Dermatol	65(3)	231-232	2020.4
Michiko Hasegawa	Keisuke Ieta, Kyoko Shibusawa, Atsushi Tamura, et al	Generalized lentigines associated with familial gastrointestinal stromal tumors dramatically improved by imatinib treatment	J Dermatol	47(6)	e241-e242	2020.6

【泌尿器科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Nobuyuki Hinata	Toru Etsunaga, et al	A multicenter retrospective study of nivolumab monotherapy in previously treated metastatic renal cell carcinoma patients: interim analysis of Japanese real-world data	Interenational Journal of Clinical Oncology	25(8)	1533-1542	2020.8
Kazuto Ito	Mikio Kobayashi, Yutaka Takezawa, et al	Oncological Outcomes for Patients With Locally Advanced Prostate Cancer Treated With Neoadjuvant Endocrine and External-Beam Radiation Therapy Followed by Adjuvant Continuous/Intermittent Endocrine Therapy in an Open-Label, Randomized, Phase 3 Trial	Cancer	126(17)	3961-3971	2020.9
Akira Yokomizo	Yutaka Takezawa, Mikio Kobayashi, et al	Patient-reported outcomes following neoadjuvant endocrine therapy, external beam radiation, and adjuvant continunous/ intermittent endocrine therapy for locally advanced prostate cancer: A randomized phase III trial	Cancer Medicine	10(10)	3240-3248	2021.3

【放射線治療科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Hitoshi Ishikawa	keiko Higuchi, Yutaka Takezawa, Yoshitaka Saito, Toru Etsunaga, Mikio Kobayashi, et al	The effects of PSA kinetics on the outcome of hypofractionated salvage radiotherapy for biochemical recurrence of prostate cancer after prostatectomy	Journal of Radiation Research	61(6)	908-919	2020.11

（2）邦文論文

【小児科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
須田　峻平	髙野洋子、前田昇三、その他	当院で経験した咽後膿瘍例と咽頭後間隙病変を伴う川崎病例　両者の造影CT所見の比較	小児科臨床	第60巻第12号	1269-1273	2年9月

【皮膚科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
日高　太陽	長谷川道子、川田倫之、田村敦志、その他	IgG4関連疾患の診断基準を満たした木村病の1例	臨床皮膚科	第74巻第7号	509-514	2年6月
長谷川 道子	田村 敦志、その他	陥凹性病変を呈し保存的治療に抵抗したため外科的摘出術を行った須毛部尋常性疣贅	Skin Surgery	第29巻第2号	95-99	2年6月
齋藤　龍一	長谷川 道子、田村 敦志	多発性ケロイドを呈したeruptive vellus hair cystの1例 A case of eruptive vellus hair cysts with keloid formation	臨床皮膚科	第74巻第8号	601-605	2年7月
田村　敦志		陥入爪・巻き爪・肥厚爪の非観血的治療	WHAT'S NEW in 皮膚科学 2020-2021		178-179	2年7月
長谷川 道子	田村 敦志、その他	反復性の眼瞼浮腫発作を欠き持続的腫脹を呈したblepharochalasis ―症例報告とblepharochalasis内外報告81例の検討―	日本皮膚科学会雑誌	第130巻第8号	1821-1827	2年7月
田村　敦志		皮膚科セミナリウム：爪疾患の病理組織の見方	日本皮膚科学会雑誌	第130巻第10号	2193-2198	2年9月
齋藤　龍一	長谷川 道子、田村 敦志、その他	陰茎絞扼症状を呈し発癌が疑われた硬化性苔癬	日本皮膚外科学会誌	第24巻第1号	82-83	2年9月

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
齋藤　龍一	長谷川 道子、 田村 敦志、その他	巨大皮下膿瘍と菌血症を呈した背部放線菌症の１例 A case of actinomycosis of the back presenting as huge subcutaneous abscess and bacteremia	臨床皮膚科	第74巻 第11号	920-924	2年10月
長谷川 道子	田村 敦志、その他	Qスイッチレーザー治療が奏効した顔面のblaschkoid lichen planus pigmentosus―症例報告とlichen planus pigmentosus内外報告664例の検討―	日本皮膚学会雑誌	第130巻 第12号	2573-2577	2年11月
齋藤　龍一	長谷川 道子、 田村 敦志	足趾爪甲下に生じたsymplastic glomus tumorの１例	臨床皮膚科	第74巻 第13号	1051-1055	2年12月
田村　敦志		爪の解剖　―爪をすみずみまで理解する―	足爪治療マスターBOOK		p12-22	2年12月
田村　敦志	長谷川 道子	爪の異常	臨床雑誌内科	第125巻 第3号	431-433	3年3月

【泌尿器科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
竹澤　豊	牧野武朗、悦永 徹、齋藤佳隆、小林幹男、その他	患者と連携医へのアンケート調査に基づいた前立腺がん地域連携パスシステムの改善に関する考察	日本クリニカルパス学会誌	第22巻 第2号 77-84	191-194	2年7月
中澤　峻	竹澤 豊、冨田健介、牧野武朗、悦永 徹、齋藤佳隆、小林幹男、その他	腹水を契機に発見された進行性精巣腫瘍の１例	泌尿器外科	第33巻 第10号	1359-1362	2年10月

2．学 会 発 表

（1）座長・司会

【内科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
松井　綾子	座長　専修医セッション	日本消化器病学会関東支部第359回例会	2年5月	Web
小林　裕幸	座長　セッションⅥ	第178回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第241回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会	2年9月	Web
石原　眞悟	座長　一般演題	第111回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	2年12月	Web
石原　真一	座長　呼吸器1	第667回日本内科学会関東地方会	3年3月	Web

【整形外科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
飯塚　伯	座長　上位頚椎	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2年9月	Web
飯塚　伯	座長　疼痛2	第35回日本整形外科学会基礎学術集会	2年10月	Web

【皮膚科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
田村　敦志	座長　一般演題5　ボーエン・ＢＣＣ（1）	第36回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	3年1月	Web
田村　敦志	座長　一般演題	第105回日本皮膚科学会群馬地方会	3年3月	前橋

【麻酔科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
吉川　大輔	座長　教育講演2	令和2年第2回日本手術医学会教育セミナー	2年11月	前橋

【看護部】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
中野　恵美子	座長	メディカルスタッフのためのオンラインワークショップ in 群馬	3年3月	高崎

(2) 口演・示説

【内　科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
渋澤　恭子	石原 眞悟、増尾 貴成、吉成夫希子、一色 綾希、松井 綾子、堤　俊之、関口 雅則、その他	スギ花粉舌下錠により好酸球性食道炎を発症し、休薬することなく治療できた一例	日本消化器病学会関東支部第359回例会	2年5月	Web	口演
甲賀　達也	上野 敬史、関口 雅則、増尾 貴成、その他	Fontan術後に多発肝細胞癌を発症した１例	日本消化器病学会関東支部第359回例会	2年5月	Web	口演
椎名　貴行	関口 雅則、一色 綾希、渋澤 恭子、堤　俊之、石原 眞悟、増尾 貴成	Sliding tube 留置による整復に成功したS状結腸捻転症の一例	日本消化器病学会関東支部第359回例会	2年5月	Web	口演
関口　雅則	増尾 貴成、石原 眞悟、一色 綾希、渋澤 恭子、堤　俊之、その他	当院における潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブ初期投与経験	第106回日本消化器病学会総会	2年8月	Web	示説
吉成 夫希子	関口 雅則、一色 綾希、松井 綾子、渋澤 恭子、堤　俊之、石原 眞悟、増尾 貴成、その他	誤飲した異物の認識にCTの肺野条件が有用であった一例	第106回日本消化器病学会総会	2年8月	Web	示説
藤井　孝成	石原 眞悟、増尾 貴成、小林 裕幸、吉成夫希子、松井 綾子、一色 綾希、渋澤 恭子、堤　俊之、その他	発熱を伴う重篤な口唇・咽頭粘膜疹を繰り返したアセトアミノフェンによる固定薬疹の一例	第117回日本内科学会総会・講演会	2年8月	Web	口演
石原　眞悟		症状を訴えるが検査で異常を認めない患者は好酸球性消化管疾患（EGID）と判断され得るか	第99回日本消化器内視鏡学会総会	2年9月	Web	示説
佐藤　公洋	鈴木 邦明、笛木 瑛里、小林　頂、大貫 祐史、齋藤 康之、石原 真一、小林 裕幸、その他	TNF阻害薬投与中に粟粒結核によるARDSを発症した1例	第178回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第241回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会	2年9月	Web	口演
神宮　達也	鈴木 邦明、笛木 瑛里、小林　頂、大貫 祐史、齋藤 康之、石原 真一、小林 裕幸、その他	オシメルチニブ投与中に精巣転移を認めたEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の1例	第178回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第241回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会	2年9月	Web	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
藤井　孝成	鈴木 邦明、笛木 瑛里、小林　頂、大貫 祐史、齋藤 康之、石原 真一、小林 裕幸	肺原発上皮筋上皮癌の1例	第662回日本内科学会関東地方会	2年9月	東京	口演
上野　敬史	その他	C型非代償性肝硬変に対するソホスブビル/ベルパタスビルの有効性と安全性ー北関東肝疾患研究グループ多施設共同研究ー	JDDW 2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間	2年11月	Web	示説
峯村　浩之	石原 真一、その他	高齢者既治療非小細胞肺癌に対するS-1の効果および安全性の検討	第61回日本肺癌学会学術集会	2年11月	Web	口演
鏑木　琢也	石原 眞悟、堤　俊之、関口 雅則、増尾 貴成、小林 裕幸	吸入ステロイドが再狭窄の改善に寄与した腐食性食道炎による食道狭窄の１例	第667回日本内科学会関東地方会	3年3月	Web	口演

【神経内科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
髙橋　怜真	長嶺　俊、櫻井 篤志、菊地 聡一郎、その他	rt-PA静注療法の7日後に抗血栓薬2剤併用にもかかわらず急性心筋梗塞を発症した71歳男性例	第235回日本神経学会関東・甲信越地方会	2年12月	Web	口演
菊池 雄太郎	長嶺　俊、櫻井 篤志	Streptococcus dysgalactiae subspecies equisimilisによる脊髄髄膜炎をきたして両下肢対麻痺に至った63歳男性例	第236回日本神経学会関東・甲信越地方会	3年3月	Web	口演

【循環器内科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
椎名　貴行	樋口 京介、その他	外科手術後に心停止となりPCPSで救命しえた肺血栓塞栓症の一例	第256回日本循環器学会関東甲信越地方会	2年7月	Web	口演
新井　大輝	髙松 寛人、その他	３度目の意識消失発作で心停止に至った先天性QT延長症候群の１例	第667回日本内科学会関東地方会	3年3月	Web	口演

【小児科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
小針　靖子	稲田 雅弘、平形 絢子、今井　朗、徳永 真理、髙野 洋子、前田 昇三	「肩関節炎症状が先行し脳室内膿瘍を合併した遅発型B群溶血性連鎖球菌感染症の一例	第214回日本小児科学会群馬地方会	2年12月	Web	口演
前田　昇三	稲田 雅弘、平形 絢子、小針 靖子、今井　朗、徳永 真理、髙野 洋子	アスピリン中毒の１例	第215回日本小児科学会群馬地方会	3年3月	Web	口演

【外　科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
片山　和久	塚越 律子	進行再発乳癌に対するエリブリンの効果予測因子としてのリンパ球の検討	第28回日本乳癌学会学術総会	2年10月	Web	示説
富澤　直樹	田中司玄文、保田 尚邦、鈴木 秀樹、大澤 秀信、諸原 浩二、家田 敬輔、飯島　岬、塚越 律子、渡辺　裕、佐藤 公洋	経腟的標本摘出法による完全腹腔鏡下手術を施行した慢性便秘症の2例	JDDW 2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間	2年11月	兵庫	口演
富澤　直樹	田中司玄文、保田 尚邦、鈴木 秀樹、大澤 秀信、諸原 浩二、家田 敬輔、飯島　岬、塚越 律子、渡辺　裕、関　貴臣	A curative resected case for giant pelvic tumor combined resection of corpus ossis pubis	第75回日本消化器外科学会総会	2年12月	Web	口演

【整形外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
石綿　翔	飯塚 伯、その他	miR-224-5pを介したPAI-1発現増加と先天性側弯症の関連	第35回日本整形外科学会基礎学術集会	2年11月	Web	口演
根岸　涼介	その他	下腿解放骨折（Ｇｕｓｔｉｌｏ Ⅲ c）の加療中にＨＩＴ（ヘパリン起因性血小板減少症）を発症し、下腿切断に至った一例	第61回関東整形災害外科学会	3年3月	Web	口演

【心臓血管外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
安原　清光		弓部大動脈病変に対する治療戦略　-Najuta 知らずして TEVAR 語れず-	第183回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	2年7月	Web	口演
安原　清光		AFX の使用経験について	第26回日本血管内治療学会総会	2年7月	愛知	口演
安原　清光		大動脈治療の最前線 大動脈解離への TEVAR：Device 特性を考慮した治療戦略の検討	第50回日本心臓血管外科学会学術総会	2年8月	Web	口演
三木　隆生	長澤 綾子、小此木修一、安原 清光、大木　聡、大林 民幸、その他	当科における腹部大動脈瘤治療戦略の妥当性の検討	第50回日本心臓血管外科学会 学術総会	2年8月	Web	示説
三木　隆生	安原 清光、大林 民幸、大木　聡、小此木修一、長澤 綾子	EVAR における瘤内高濃度ブドウ糖液注入手技の術後 typenⅡエンドリーク発生抑止効果についての検討	第82回日本臨床外科学会総会	2年11月	Web	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
安原　清光	大林 民幸、大木　聡、小此木修一、長澤 綾子、三木 隆生、その他	胸腹部大動脈瘤に対するSurgeon modified fenestrated and branch stentgraft (Inner-Sleave Techunique)の1例	第34回心臓血管外科ウインターセミナー	3年2月	岩手	口演

【皮膚科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村 敦志、その他	MRIで液面形成（fluid-fluid level）を認めた大型のsolid-cystic hidradenoma	第119回日本皮膚科学会総会	2年6月	Web	示説
長谷川 道子	堀内あゆみ、田村 敦志	Sacrococcygeal bursitisの3例	第84回日本皮膚科学会東部支部学術大会	2年8月	Web	示説
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村 敦志	趾背に生じたpolypoid dermatofibromaの1例	日本皮膚科学会第394回福岡地方会	2年9月	Web	口演
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村 敦志	爪下に生じた神経鞘腫	第104回日本皮膚科学会群馬地方会	2年9月	前橋	口演
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村 敦志	Subungual schwannomaの2例	第35回日本皮膚外科学会総会・学術集会	2年10月	Web	示説
長谷川 道子	田村 敦志、その他	急速に増大した大型のangiomyofibroblastoma of the vulva	第38回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会	2年11月	Web	示説
長谷川 道子	田村 敦志、その他	限界線照射部位に生じた多発基底細胞癌と有棘細胞癌	第36回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	3年1月	Web	口演
栗山　裕子	田村 敦志、その他	爪部の稀な良性腫瘍の2例　～onychomatricomaとonychopapilloma～	第105回日本皮膚科学会群馬地方会	3年3月	前橋	口演
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村 敦志	臨床的に基底細胞癌が疑われた線維硬化性毛包上皮腫	第105回日本皮膚科学会群馬地方会	3年3月	前橋	口演

【泌尿器科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
冨田　健介	縣　知弘、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	ペムブロリズマブ投与後に腎障害を発症し血液透析導入に至った一例	第43回群馬県透析懇話会学術集会	2年6月	Web	口演
牧野　武朗	竹澤　豊、縣　知弘、冨田 健介、悦永　徹、齋藤 佳隆、小林 幹男	腹腔鏡下膀胱全摘除術における手術の検討-開腹手術との比較-	第34回日本泌尿器内視鏡学会総会	2年11月	Web	示説

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
縣　知弘	冨田 健介、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	ACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成（AIMAH）に対して腹腔鏡下両側副腎摘除術を施行した一例	第85回日本泌尿器科学会群馬地方会	2年11月	Web	口演
前野　佑太	縣　知弘、その他	尿管狭窄を来した尿管内膜症の１例	第85回日本泌尿器科学会群馬地方会	2年11月	Web	口演
竹澤　豊	縣　知弘、冨田 健介、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、小林 幹男	泌尿器腹腔鏡手術における安全性と可能性の追求	第25回群馬県内視鏡外科研究会学術集会	3年1月	Web	口演
縣　知弘	冨田 健介、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	浸潤性膀胱癌に対して術前GC療法施行中に大動脈血栓症・腎梗塞を生じた一例	第86回日本泌尿器科学会群馬地方会	3年2月	前橋	口演

【産婦人科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
阿美　寛人	狩野　智、その他	脳梗塞および心筋梗塞既往があり治療方針決定に難渋した悪性転化が疑われた巨大卵巣嚢腫の一例	第72回日本産科婦人科学会学術講演会	2年4月	Web	示説

【麻酔科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
福島　祐樹	その他	完全内臓逆位患者の急性大動脈解離に対する上行大動脈置換術の麻酔経験	日本心臓血管麻酔学会第25回学術大会	2年9月	Web	示説

【中央検査科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
金井　峻吾	熊川 慎一郎、松島 秀子	血液型判定に苦慮した一例	第65回群馬県医学検査学会	2年12月	桐生	口演
熊川 慎一郎	笹森 敏信、髙山 貞男、髙橋 凜、松島 秀子、荒木 和也	臨床検査技師における、新型コロナウイルスへの取り組み	第65回群馬県医学検査学会	2年12月	桐生	口演
鶴田　誠司		グリメリウス染色における染色原理についての１考察	第65回群馬県医学検査学会	2年12月	桐生	口演

【看護部】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
井上　祐子	石倉　美穂子、 渡邉　美代子、 新井　静江	血液透析患者への運動療法導入後の実態調査	第43回群馬県透析懇話会	2年6月	Web	口演
荒木　まどか	坂本　佳津江、 北　大介、 石山　真寿子	集中治療室に緊急入床した生命の危機的状況にある患者の家族と初めてコミュニケーションを図る場面の看護師の関わり	日本集中治療医学会第4回関東甲信越支部学術集会	2年9月	Web	口演
大畑　舞子	栗田　靖子、 中野　恵美子	フットケア外来に関わるCDEJが抱える問題～フォーカスグリープインタビューからわかったこと～	第25回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	2年9月	Web	口演
中島　亜紀子	佐藤　夏子、 小暮　郁恵、 福島　奈央美、 須永　知香子	緩和ケア病棟に配属された看護師が看護実践を行う上で抱える困難感	第24回群馬県看護学会	2年11月	Web	口演
赤澤　早織	角田　江理子、 八木　明枝、 入澤　のり子	小児科病棟に入院する患児の採血時にプレパレーションを導入した今後の課題	第24回群馬県看護学会	2年11月	Web	口演
阿久津　真理	木村　ゆかり、 八木　明枝、 入澤　のり子	未熟児室での災害発生シミュレーション実施前後の看護師の認識の変化	第24回群馬県看護学会	2年11月	Web	口演
亀山　聖津子	宮田　聡子、 小谷野　春美、 中野　恵美子	吸引が必要な患者を支える妻に対する病棟看護師の退院前訪問の効果	第24回群馬県看護学会	2年11月	Web	口演
石倉　美穂子	上星　浩子 (群馬パース大学 保健科学部 看護学科)	腎センター看護師が血液透析患者の自分史を知ることにより抱く感情～聞き書き活動で作成した血液透析患者の自分史を読んで～	第23回日本腎不全看護学会学術集会・総会	2年11月	Web	示説
石倉　美穂子	中島　智加実、 新井　静江	感染対策を踏まえた継続的な運動療法への取り組みについての報告	第44回群馬県透析懇話会	3年2月	Web	口演
根岸　雅子	井田　維世子、 原　有里子、 金井　靖子	特定妊婦への多職種が行っている支援内容を明らかにする～妊婦期から産後助産師外来終了までの支援内容を振り返って～	日本医療マネジメント学会　第20回神奈川県支部学術集会	3年3月	Web	口演

【薬剤部】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
町田　優太	大和　由美子	免疫グロブリン製剤投与後における副作用発現状況とその対策の検討	日本病院薬剤師会第50回関東ブロック学術大会	2年8月	Web	示説
名坂　輝子	吉田　武史、 大和　由美子	大腸癌 FOLFOXIRI+bevacizumab療法施行患者の治療動向について	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2021	3年3月	Web	示説

【地域医療連携室】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
政木　美由紀	栁岡　文恵	在宅医療相談会における退院支援職員の活動と今後の課題～１年間の活動内容を振り返って～	第24回群馬県看護学会	2年11月	群馬	示説

【医療安全管理室】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
石原　恵美子	前田　昇三 塚原　みどり	看護師が管理する内服薬に関するインシデント低減に向けた取り組み～内服管理の方法、配薬方法、手順の整備～	第15回医療の質・安全学会学術集会	2年11月	Web	示説

３．講　　演

【内　科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
小林　裕幸	COPD治療における最新の話題	呼吸器疾患カンファレンス in 伊勢崎	伊勢崎プリオパレス	令和2年9月10日
齋藤　康之	伊勢崎市民病院における COVID-19	感染症WEBセミナーIn群馬県	Ｇメッセ群馬	令和2年11月20日
上野　敬史	C型肝硬変に対するDAA治療	第18回群馬県肝疾患制御研究会	群馬ロイヤルホテル	令和3年1月7日
齋藤　康之	各職種によるCOVID-19の現状と課題	第38回北関東病院感染対策懇話会	ベイシア文化ホール	令和3年1月27日
石原　眞悟	当院における過去5年間の5ＡＳＡ不耐例についての検討	第23回北関東炎症性腸疾患研究会	ホテル1-2-3前橋 マーキュリー	令和3年2月5日
増尾　貴成	当院における潰瘍性大腸炎治療の取組みと地域連携	Ulcerative Colitis Expert Web-Seminar	Web開催	令和3年3月15日

【神経内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
櫻井　篤志	MS経過中に髄膜腫を合併した1例	上信越　MS　Web講演会	伊勢崎プリオパレス	令和2年12月11日

【循環器内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
樋口　京介	心不全診療ガイドラインと実臨床～知識と経験の融合～	伊勢崎心血管糖尿病フォーラム2020	Web開催	令和2年9月11日
樋口　京介	Rota導入初期に経験したLMTステント越しLCX入口部高度石灰化病変の一例	Gunma First Meeting ～Rotablator～	Web開催	令和3年1月20日
樋口　京介	心不全パンデミックー循環器内科医の苦悩と新時代の幕開けー	伊勢崎・玉村医療圏　ARNI Web　Seminar	伊勢崎プリオパレス	令和3年1月25日

【小児科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
前田　昇三	小児の感染症他	伊勢崎ファミリーサポート研修会	あかいし保育園	令和2年10月31日
髙野　洋子	FGF23関連低リン血症性くる病に対するｂurosumabの使用経験	群馬内分泌セミナー	群馬ロイヤルホテル	令和2年12月3日

【外　科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
片山　和久	ER+HER2-進行再発乳癌の治療～自験例から	伊勢崎佐波医師会学術講演会	Web開催	令和3年3月23日

【心臓血管外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
安原　清光	分枝領域に対する大動脈治療	第8回大分 Aorfic Endovascular Conference	大分大学	令和2年11月14日
安原　清光	胸腹部大動脈瘤治療の最前線	Terumo Aortic Web Seminar	Web開催	令和2年11月21日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
安原　清光	病期で決めない大動脈解離治療	第5回Z-conference on the Web	Web開催	令和2年12月16日

【皮膚科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
田村　敦志	爪疾患への外科的アプローチ	第119回日本皮膚科学会総会	Web開催	令和2年6月4日
田村　敦志	易しそうで難しい爪疾患と難しそうで易しい爪疾患～診断と処置のテクニック～	第44回三重皮膚科専門医会学術講演会	Web開催	令和2年10月15日
田村　敦志	爪の手術	第38回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会	Web開催	令和2年11月14日

【泌尿器科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
悦永　徹	自施設での腎細胞癌薬物療法経験について	群馬がん免疫療法リモートセミナー	Tiara　Gardens 伊勢崎	令和2年9月24日
悦永　徹	当院における免疫チェックポイント阻害薬の副作用マネジメント	群馬腎細胞講演会2020	Web開催	令和2年10月1日
悦永　徹	腎細胞癌におけるIO併用療法の使用経験	西毛地区腎細胞癌研究会	ホワイトイン高崎	令和2年10月30日
竹澤　豊	下大静脈腫瘍血栓を有する腎がんの手術	泌尿器科エキスパートセミナー	伊勢崎商工会議所	令和3年3月18日

【放射線診断科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
市川　智章	低電圧CT時代の肝多時相造影CT理論ー造影剤減量がいけない理由ー	Radiology Web Seninar in 北海道	Web開催	令和3年2月17日

【歯科口腔外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
五味　暁憲	痛みに漢方	群馬和漢診療フォーラム　30分漢方’s ROOM	前橋テルサ	令和3年3月16日

【看護部】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
髙橋　美鈴	助産管理	看護学科　前期講義	群馬パース大学	令和2年5月22日
町田　千恵	助産診断技術学演習	看護学科　前期講義	群馬パース大学	令和2年6月12日
福島　加代	成人看護援助論Ⅱ 乳がん患者のケア	看護学部　講義	群馬医療福祉大学	令和2年6月23日
岡崎　美香	成人看護学方法論Ⅱ～人工肛門造設術を受けた対象への看護～	看護専門学校　講義	本庄児玉看護専門学校	令和2年7月7日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
箱田　千恵	身体拘束とせん妄	令和2年度　准看護師スキルアップ研修	群馬県看護教育センター	令和2年8月20日
小谷野　春美	診療の補助技術	看護専門学校　講義	伊勢崎敬愛看護学院	令和2年10月6日 令和2年10月13日
坂本　寿満子	災害看護Ⅰ	看護専門学校　講義	伊勢崎敬愛看護学院	令和2年10月8日 令和2年10月15日 令和2年10月22日 令和2年10月29日
須永　知香子	成人看護学援助論Ⅳ　がん看護	看護専門学校　講義	太田高等看護学院	令和2年11月18日 令和2年11月25日
新井　友子	新人看護職員研修における教育担当者の役割	令和2年度新人看護職員研修事業　教育担当者研修	群馬県看護教育センター	令和2年11月2日
榎本　南美栄	専門職として働く～求められる看護専門職者像	総合演習Ⅱ 第12回進路・資格取得プログラム特別講義	群馬医療福祉大学	令和2年11月25日
坂本　寿満子	フィジカルアセスメント	令和2年度訪問看護師養成研修［ステップ１］	群馬県看護教育センター	令和2年12月8日
石倉　美穂子	看護学概論～透析看護の実際	臨床工学科　後期講義	群馬パース大学	令和2年12月10日

【医療安全管理室】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
後藤　恵 **柴草　仁志**	新型コロナウイルス対策	有料老人ホーム等における感染対策研修会	伊勢崎市役所	令和2年8月3日
後藤　恵 **柴草　仁志**	看護専門論Ⅴ　1-8	看護学科看護学　前期	桐生大学	令和2年8月5日 令和2年8月6日
後藤　恵 **柴草　仁志**	新型コロナウイルス対策	感染対策専門家による ラウンドと講義	障害者支援施設　青空	令和2年11月16日
後藤　恵	C-MAT活動で指導したこと	福祉施設向けオンライン研修	Web開催	令和3年2月18日
柴草　仁志	COVID-19の現状について	せせらぎ病院　院内講習会	Web開催	令和3年3月16日

4. C. P. C. (示説会)記録

(1)剖検状況

①年度別剖検状況

区 分＼年 度	28	29	30	元	2
死 亡 患 者 数 ( )は48時間以内死亡患者を含めた数です。	541 (694)	485 (635)	491 (634)	502 (627)	471 (671)
剖 検 数	10	5	9	8	7
剖 検 率 (%)	1.8	1.0	1.8	1.6	1.5

②死亡患者数・剖検数の疾患分類

種別		疾患分類																						
		Ⅰ 感染症および寄生虫症	Ⅱ 新生物	Ⅲ 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	Ⅳ 内分泌、栄養および代謝疾患	Ⅴ 精神および行動の障害	Ⅵ 神経系の疾患	Ⅶ 眼および付属器の疾患	Ⅷ 耳および乳様突起の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅹ 呼吸器系の疾患	ⅩⅠ 消化器系の疾患	ⅩⅡ 皮膚および皮下組織の疾患	ⅩⅢ 筋骨格系および結合組織の疾患	ⅩⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	ⅩⅤ 妊娠、分娩および産じょく(褥)	ⅩⅥ 周産期に発生した病態	ⅩⅦ 先天奇形、変形および染色体異常	ⅩⅧ 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	ⅩⅨ 損傷、中毒およびその他の外因の影響	ⅩⅩ 傷病および死亡の外因	ⅩⅩⅠ 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	ⅩⅩⅡ 特殊目的用コード	計
死亡患者数	合計	20	283		2		4			34	70	27		2	10				9	2			8	471
	内科	12	88		1					9	60	18		2	5				7	1			8	211
	精神科																							
	神経内科	2	1				4				1	1												9
	循環器内科		1							20	3				3				1					28
	小児科																							
	外科		21		1					1	1	5							1	1				31
	整形外科																							
	脳神経外科																							
	心臓血管外科	1								4	1	1			1									8
	皮膚科																							
	泌尿器科		10																					10
	産婦人科		12												1									13
	眼科																							
	耳鼻いんこう科		5																					5
	放射線科																							
	麻酔科																							
	緩和ケア内科	5	145								4	2												156
	救急科																							
	歯科口腔外科																							
剖検数	合計		2				2			2		1												7
	内科		2							1		1												4
	精神科																							
	神経内科						2			1														3
	循環器内科																							
	小児科																							
	外科																							
	整形外科																							
	脳神経外科																							
	心臓血管外科																							
	皮膚科																							
	泌尿器科																							
	産婦人科																							
	眼科																							
	耳鼻いんこう科																							
	放射線科																							
	麻酔科																							
	緩和ケア内科																							
	救急科																							
	歯科口腔外科																							

＊死亡患者数は、48時間以内死亡を除いた数である。

（2）Ｃ．Ｐ．Ｃ（示説会）記録

Ｃ.Ｐ.Ｃ回数	剖検番号	年齢性別	科名	臨床診断	病理解剖学的所見
414 (6.23)	S.1924	71歳 男	内科	筋萎縮性側索硬化症	1. 筋萎縮性側索硬化症 2. 両側腎盂腎炎・腎膿瘍、敗血症
〃	S.1926	78歳 男	内科	ニューモシスチス肺炎 アルコール性肝硬変 肝細胞癌	1. 侵襲性肺アスペルギルス症及びサイトメガロウイルス感染 2. 肝細胞癌 3. 甲状腺乳頭癌
415 (9.15)	S.1927	69歳 男	神経内科	クモ膜下出血	1. クモ膜下出血
〃	S.1930	68歳 男	内科	溺死	1. 肝硬変 2. 前立腺癌
416 (10.13)	S.1931	87歳 男	神経内科	胃癌 左アテローム性 血栓性脳塞栓症	1. 胃癌穿孔・汎発性腹膜炎
417 (2.26)	S.1932	76歳 男	神経内科	筋萎縮性側索硬化症	1. 筋萎縮性側索硬化症
〃	S.1933	80歳 女	神経内科	右脳出血	1. 右前頭葉出血、アミロイドアンギオパチー

ＸⅡ　介護老人保健施設 ひまわり

XII　介護老人保健施設　ひまわり

1．業　務　概　要

1．スタッフ

施設長１名、副施設長１名（兼務）、課長１名(兼務)、係長１名、主査１名（再任用職員１名)、支援相談員２名（会計年度任用職員１名)、看護師長１名、看護主任１名、看護副主任２名、看護員３名、理学療法士４名（兼務３名)、作業療法士４名（兼務２名、会計年度任用職員２名)、言語聴覚士１名（兼務)、介護主任４名、介護福祉士14名（会計年度任用職員３名)、介護補助員１名（会計年度任用職員１名)、会計年度任用職員事務員２名(兼務)、医師（兼務）８名、薬剤師（兼務）１名、管理栄養士（兼務）１名、調理師（兼務）２名、計56名。

2．業務の現況

入所サービスにおいては、在宅復帰支援を継続的に行った結果、在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）の算定要件を引き続き維持することができた。

１日平均入所者は42.0人、利用率は84.0%であった。

通所リハビリテーションサービスにおいては、年間を通じて一定の利用者を確保でき、１日平均利用者が9.6人、利用率64.0%となった。

3．今後の目標

超高齢社会の中で、老健施設の役割は益々重要視されている。多様化する施設サービス事業者の中から、利用者に信頼され選ばれる施設を目指す。また、利用者のニーズに応えられるよう努力するとともに、限られた利用者定数の中で医療機関や居宅介護支援事業所との連携を密にして、在宅復帰を支援しながら継続的に利用率の向上を図り、経営努力を推進していきたい。

（松原　弘和）

2．経　営　状　況

（1）損益計算書

（単位　千円，%）

年度 / 科目	28		29		30		元		2	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
運営事業収益	235,263	99.4	244,553	103.9	239,747	98.0	241,610	100.8	219,019	90.6
施設介護料収益	150,116	95.9	154,980	103.2	151,492	97.7	152,096	100.4	153,509	100.9
居宅介護料収益	61,584	105.8	64,006	103.9	63,341	99.0	61,865	97.7	38,922	62.9
利用者等利用料収益	23,563	106.9	25,567	108.5	24,914	97.4	27,649	111.0	26,588	96.2
その他運営事業収益	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
運営事業外収益	1,501	148.6	1,019	67.9	849	83.3	636	74.9	804	126.4
受取利息配当金	257	98.8	170	66.1	100	58.8	70	70.0	102	145.7
その他運営事業外収益	1,244	165.9	849	68.2	749	88.2	566	75.6	702	124.0
特別利益	0	－	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増
個定資産売却益	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
過年度損益修正益	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
その他特別利益	0	－	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増
収入計	236,764	99.6	245,572	103.7	240,596	98.0	242,246	100.7	221,273	91.3
運営事業費用	236,179	95.6	239,579	101.4	247,944	103.5	248,618	100.3	242,911	97.7
給与費	178,819	98.6	178,781	100.0	185,362	103.7	185,569	100.1	184,634	99.5
材料費	9,457	103.9	10,099	106.8	9,727	96.3	10,234	105.2	9,629	94.1
経費	34,669	93.3	36,981	106.7	39,014	105.5	39,523	101.3	35,254	89.2
減価償却費	12,567	68.5	13,404	106.7	13,404	100.0	13,051	97.4	12,859	98.5
資産減耗費	244	皆増	0	皆減	0	－	0	－	381	皆増
研究研修費	423	38.0	314	74.2	428	136.3	241	56.3	154	63.9
運営事業外費用	0	皆減	1	皆増	2	200.0	2	100.0	4,387	219,350
支払利息及び企業債取扱諸費	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
雑損失	0	－	0	－	0	－	0	－	4,387	皆増
その他運営事業外費用	0	皆減	1	皆増	2	200.0	2	100.0	0	皆減
特別損失	0	－	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増
固定資産売却損	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
過年度損益修正損	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
その他特別損失	0	－	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増
支出計	236,179	95.6	239,580	101.4	247,946	103.5	248,620	100.3	248,748	100.0
収支差引	585	－	5,992	1024.3	△7,350	－	△6,374	－	△27,475	―

（2）貸借対照表

（単位　千円，%）

科目＼年度	28		29		30		元		2	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	251,888	96.7	238,485	94.7	225,971	94.8	216,786	95.9	204,320	94.2
有形固定資産	251,815	96.7	238,412	94.7	225,898	94.8	216,713	95.9	204,249	94.2
償却資産	553,161	99.9	553,161	100.0	553,870	100.1	557,737	100.7	550,880	98.8
減価償却累計額（Δ）	301,346	102.7	314,749	104.4	327,972	104.2	309,622	94.4	346,633	112.0
無形固定資産	73	100.0	73	100.0	73	100.0	73	100.0	73	100.0
流動資産	254,244	104.1	276,024	108.6	286,918	103.9	293,860	102.4	284,969	97.0
現金及び預金	213,428	104.4	237,578	111.3	249,792	105.1	255,765	102.4	250,108	97.8
未収金	36,816	103.0	34,769	94.4	33,126	95.3	34,094	102.9	30,861	90.5
有価証券	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0
資産合計	506,132	100.3	514,509	101.7	512,889	99.7	510,646	99.6	489,289	95.8
固定負債	14,173	112.3	15,724	110.9	19,794	125.9	24,444	123.5	30,233	123.7
退職給付引当金	14,173	112.3	15,724	110.9	19,794	125.9	24,444	123.5	30,233	123.7
流動負債	21,143	97.4	21,977	103.9	23,638	107.6	23,118	97.8	23,447	101.4
未払金	3,848	79.1	4,520	117.5	5,315	117.6	3,923	73.8	4,210	107.3
引当金	12,587	104.5	12,735	101.2	13,610	106.9	14,517	106.7	14,573	100.4
その他流動負債	4,708	98.2	4,722	100.3	4,713	99.8	4,678	99.3	4,663	99.7
負債合計	35,316	102.9	37,701	106.8	43,432	115.2	47,562	109.5	53,681	112.9
資本金	508,718	100.0	508,718	100.0	508,718	100.0	508,718	100.0	463,083	91.0
剰余金	△37,902	98.5	△31,911	84.2	△39,261	△123.0	△45,635	△116.2	0	－
利益剰余金	△37,902	98.5	△31,911	84.2	△39,261	△123.0	△45,635	△116.2	0	－
資本合計	470,816	100.1	476,808	101.3	469,457	98.5	463,084	98.6	435,608	94.1
負債資本合計	506,132	100.3	514,509	101.7	512,889	99.7	510,646	99.6	489,289	95.8

3．業　務　統　計

（1）月別延べ利用者数

（入所実日数　366 日）　（通所実日数　254 日）（単位:人）

月	3 階（短期入所再掲）		4 階（短期入所再掲）		入所延べ人数	入所			退所			通所者	平均入所者数	平均通所者数
						3 階	4 階	計	3 階	4 階	計			
4 月	633	(46)	606	(32)	1,239	6	11	17	4	6	10	0	41.3	0
5 月	650	(0)	660	(0)	1,310	4	3	7	6	7	13	45	42.3	9.0
6 月	610	(57)	618	(46)	1,228	15	15	30	15	13	28	233	40.9	10.6
7 月	595	(44)	740	(79)	1,335	19	18	37	21	20	41	254	43.1	11.0
8 月	601	(82)	710	(128)	1,311	17	27	44	14	28	42	207	42.3	9.9
9 月	660	(105)	658	(109)	1,318	22	23	45	24	24	48	210	43.9	9.5
10月	668	(130)	625	(111)	1,293	29	29	58	23	28	51	225	41.7	10.2
11月	671	(125)	560	(107)	1,231	18	27	45	23	30	53	219	41.0	10.4
12月	617	(91)	632	(112)	1,249	23	32	55	26	25	51	202	40.3	10.1
1 月	598	(28)	726	(19)	1,324	8	7	15	3	6	9	167	42.7	8.4
2 月	555	(0)	644	(0)	1,199	2	3	5	4	5	9	149	42.8	7.5
3 月	600	(0)	678	(0)	1,278	7	4	11	7	5	12	189	41.2	8.2
合計	7,458	(708)	7,857	(743)	15,315	170	199	369	170	197	367	2,100	42.0	9.6

許可数：50 床（3 階 24 床・4 階 26 床）　通所定員：15 人/日　※入所延べ人数は当日退所の数を含む

（2）年度別延べ利用者数

（単位：人）

年度／月	入所延べ人数				通所延べ人数				平均入所者数				平均通所者数			
	29	30	元	2	29	30	元	2	29	30	元	2	29	30	元	2
4月	1,085	1,302	1,293	1,239	252	257	275	0	36.2	43.4	43.1	41.3	12.6	12.2	12.5	0
5月	1,273	1,274	1,323	1,310	311	277	288	45	41.1	41.1	42.7	42.3	13.5	12.0	12.5	9.0
6月	1,323	1,296	1,260	1,228	309	264	198	233	44.1	43.2	42.0	40.9	14.0	12.6	13.2	10.6
7月	1,352	1,331	1,248	1,335	258	286	261	254	43.6	42.9	40.3	43.1	12.3	13.0	11.3	11.0
8月	1,377	1,343	1,429	1,311	258	305	266	207	44.4	43.3	46.1	42.3	11.2	13.3	12.1	9.9
9月	1,172	1,255	1,385	1,318	271	265	268	210	39.1	41.8	46.2	43.9	12.9	13.3	12.8	9.5
10月	1,243	1,234	1,360	1,293	273	274	287	225	40.1	39.8	43.9	41.7	12.4	11.9	12.5	10.2
11月	1,365	1,273	1,244	1,231	273	300	248	219	45.5	42.4	41.5	41.0	12.4	13.6	11.8	10.4
12月	1,459	1,333	1,244	1,249	265	283	271	202	47.1	43.0	40.1	40.3	12.6	14.2	12.3	10.1
1月	1,480	1,379	1,437	1,324	252	251	221	167	47.7	44.5	46.4	42.7	12.6	12.6	11.1	8.4
2月	1,331	1,261	1,309	1,199	246	251	212	149	47.5	45.0	45.1	42.8	12.3	12.6	10.6	7.5
3月	1,313	1,364	1,332	1,278	255	266	189	189	42.4	44.0	43.0	41.2	11.6	12.7	8.6	8.2
合　計	15,773	15,645	15,864	15,315	3,223	3,279	2,984	2,100	43.2	42.9	43.3	42.0	12.5	12.8	11.7	9.6

4．会議・委員会・研究会等

（1）委員会

委員会名	委員数	委員会の目的
判定委員会	9	施設利用希望者（入所・通所）及び一定期間利用が経過している者の継続利用について適切であるか審査し、施設の効率的利用を図る。
行事・余暇・編集担当	4	行事・慰問・余暇等を企画・実施し、利用者の心身の安定・向上を図り充実した施設生活を送ってもらう。また、「ひまわり通信」を発行し、家族や地域への広報活動を行う。
抑制廃止委員会	4	身体拘束がもたらす悪影響を理解し、身体拘束を行わないケアを継続するため、問題提起と職員教育を行う。
安全推進委員会	5	良質な医療・看護・介護を提供するために、職員の安全に対する意識を高め、安全管理、事故防止の徹底を図る。
給食委員会	3	利用者の栄養状態や嚥下状態に留意するとともに、個々にあった食事の提供ができるように食事に関する問題点を明確にし、検討改善を図る。
褥創対策委員会	4	入所者の褥創に関する問題点を明確にし、改善を図る。褥創の予防、対策に関する情報収集及び職員教育を行う。
教育・研究担当	3	年間の教育プログラムを作成し勉強会を通して、知識・技術の向上を図り、実践出来るようにする。研究活動を活性化し、施設内外の発表に向けて支援する。
ケアマネジメント・カルテ・R4担当	3	多様化する利用者が増える中で、個々のニーズに対応したケアマネジメントを行う。日々のケアマネジメント業務の見直しを行い、効率良く業務が行えるよう改善していく。
学生指導担当	5	充実した学習が行えるよう、学校等と協力し、実習環境を整える。

委 員 会 名	委員数	委 員 会 の 目 的
感 染 対 策 委 員 会	4	職員の感染についての知識の向上を図り、感染予防に努める。また、感染発生時の対応を行い、集団感染を予防し、被害を最小限にする。
福祉用具管理・整備担当	5	福祉用具機器を安全かつ清潔な状態で提供できる。
認知症ケア委員会	3	認知症について理解を深め、認知症利用者それぞれに合った適切なケアを行う。
サービス向上委員会	4	利用者及び家族が安心して利用できる環境を作り、職員が接遇意識をもって働くことができる。

（2）行　　事

月	行 事 名	概　　要
4　月	仮装して写真撮影	みんなで楽しもう
5　月	風船バレー大会	元気に体を動かそう
6　月	ひまわり交流会	スタッフと利用者でダンスと交流
7　月	手作りうちわ作り	創作で楽しく刺激
8　月	かき氷とわたアメ作り	夏らしいものを食べよう
9　月	敬老会　～対抗戦ゲーム大会～	対抗戦を楽しもう
10 月	公園散歩（西部公園）	季節の変化を肌で感じよう
11 月	運動会	みんなで元気に体を動かそう
12 月	仮装大会	いつもと違うオシャレをしよう
1　月	マスクケース作り	創作で楽しく
2　月	節分（職員劇）	職員と利用者の寸劇
3　月	座位で行う太極拳	太極拳で体幹を鍛えよう

※毎月開催：誕生日会、書道クラブ、映画鑑賞

ＸⅢ　訪問看護ステーションいせさき

XIII　訪問看護ステーション　いせさき

1．業　務　概　要

1．スタッフ

所長１名、看護副師長１名、看護副主任２名、看護員２名、課長１名(兼務)、係長１名(兼務)、主査(再任用職員)１名(兼務)、会計年度任用職員２名　計11名

2．業務の現況

ステーションの基本理念として「利用者に対し安全、安楽な看護を提供する」を掲げ、利用者及び家族の意思を尊重し介護主体、医療器機装着、ターミナル等、幅広く対応している。紹介元は併設する伊勢崎市民病院からの依頼が約75%、ケアマネジャーからの依頼は19%、開業医からの依頼は6%だった。また、ターミナル療養費・ターミナルケア加算の算定数は9件、在宅看取6件で前年度より3件減少した。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者の訪問開始数と訪問延べ回数の減少により、令和2年度の収益は6,458千円の赤字であった。

3．今後の目標

(1) 利用者からの意見、要望に耳を傾けた看護を行い、地域医療・介護連携を強化し利用者の増加を図る。

(2) スタッフの個々の教育に力を注ぎながら、訪問看護ステーションとして組織のケア力を高めていく。

(3) 選ばれる居宅サービス事業者として、また、病院併設の居宅サービス事業者として、各関連機関と良い協力関係を継続し、信頼される質の良い看護を提供して行きたい。

(登山　寿美江)

2．経　営　状　況

(1) 損益計算書

(単位:千円, %)

科目＼年度	28		29		30		元		2	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
運営事業収益	53,120	94.5	54,095	101.84	52,021	96.2	50,119	96.3	47,265	94.3
介護保険収益	32,153	103.0	30,669	95.4	30,526	99.5	26,764	87.7	23,930	89.4
医療保険収益	20,325	83.7	22,764	112.0	20,827	91.5	22,675	108.9	22,708	100.1
その他利用料収益	642	90.2	662	103.1	668	100.9	680	101.8	627	92.2
運営事業外収益	189	113.2	177	93.7	135	76.3	273	202.2	491	179.6
受取利息配当金	91	96.8	30	33.0	40	133.3	9	22.5	41	455.6
その他運営事業外収益	98	134.2	117	119.4	95	81.2	264	277.9	451	170.8
特別利益	0	−	0	−	0	−	0	−	350	皆増
固定資産売却益	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−
過年度損益修正益	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−
その他特別利益	0	−	0	−	0	−	0	−	350	皆増
収入計	53,309	94.6	54,272	101.8	52,156	96.1	50,392	96.6	48,106	95.5
運営事業費用	50,850	97.1	51,782	101.8	52,999	102.4	53,583	101.1	54,012	100.8
給与費	47,955	97.5	48,278	100.7	49,649	102.8	50,469	101.7	51,178	101.4
材料費	185	90.7	272	147.0	235	86.4	249	106.0	390	156.6
経費	1,553	76.4	2,057	132.5	1,861	90.5	1,931	103.8	1,876	97.2
減価償却費	1,128	129.1	1,030	91.4	1,182	114.8	844	71.4	550	65.2
資産減耗費	0	−	48	皆増	0	皆減	49	皆増	0	皆減
研究研修費	29	80.6	96	331.9	72	75.0	41	56.9	18	43.9
運営事業外費用	0	−	0	−	0	−	0	−	202	皆増
支払利息及び企業債取扱諸費	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−
雑損失	0	−	0	−	0	−	0	−	202	皆増
その他運営事業外費用	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−
特別損失	0	−	0	−	0	−	0	−	350	皆増
固定資産売却損	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−
過年度損益修正損	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−
その他特別損失	0	−	0	−	0	−	0	−	350	皆増
支出計	50,850	97.1	51,782	101.8	52,999	102.4	53,583	101.1	54,564	101.8
収支差引	2,459	61.0	2,490	101.3	△843	−	△3,191	−	△6,458	−

（2）貸借対照表

(単位：千円，%)

科目＼年度	28		29		30		元		2	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	7,069	118.2	7,210	102.0	7,210	100.0	1,222	16.9	671	54.9
有形固定資産	3,268	98.9	3,297	100.9	2,115	64.1	1,222	57.8	671	54.9
償却資産	3,268	98.9	3,297	100.9	2,115	64.1	6,231	294.6	6,231	100.0
減価償却累計額（△）	3,801	142.2	3,913	102.9	5,095	130.2	5,009	98.3	5,560	111.0
流動資産	103,082	104.6	107,913	104.7	110,504	102.4	110,958	100.4	107,122	96.5
現金及び預金	86,352	105.9	91,973	106.5	95,191	103.5	94,465	99.2	91,358	96.7
未収金	8,730	97.1	7,940	91.0	7,313	92.1	8,493	116.1	7,764	91.4
有価証券	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0
資産合計	106,350	104.4	111,210	104.6	112,619	101.3	112,180	99.6	107,793	96.1
固定負債	23,954	110.4	26,212	109.4	28,470	108.6	30,728	107.9	32,986	107.3
退職給付引当金	23,954	110.4	26,212	109.4	28,470	108.6	30,728	107.9	32,986	107.3
流動負債	12,302	98.3	12,379	100.9	12,372	99.9	12,867	104.0	12,680	98.5
未払金	365	64.1	409	111.9	418	102.2	484	115.8	473	97.7
引当金	3,710	100.8	3,763	101.4	3,737	99.3	4,175	111.7	3,982	95.4
その他流動負債	8,191	99.6	8,207	100.2	8,217	100.1	8,208	99.9	8,225	100.2
負債合計	36,220	106.0	38,591	106.5	40,842	105.8	43,595	106.7	45,666	104.8
資本金	51,765	102.2	52,854	102.1	53,963	102.1	53,963	100.0	53,963	100.0
剰余金	18,365	107.8	19,765	107.6	17,814	90.1	14,622	82.1	8,164	55.8
利益剰余金	18,365	107.8	19,765	107.6	17,814	90.1	14,622	82.1	8,164	55.8
資本合計	70,130	103.6	72,619	103.6	71,777	98.8	68,585	95.6	62,127	90.6
負債資本合計	106,350	104.4	111,210	104.6	112,619	101.2	112,180	99.6	107,793	96.1

3．業務統計

（1）訪問実人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	42	43	46	48	50	47	49	45	47	44	39	40	540
医療保険	27	26	31	27	27	26	27	23	29	31	33	38	345
合計	69	69	77	75	77	73	76	68	76	75	72	78	885

（2）訪問延べ回数

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	189	196	232	246	217	226	237	220	237	201	190	201	2,592
医療保険	177	165	196	155	156	173	158	130	161	183	171	233	2,058
合計	366	361	428	401	373	399	395	350	398	384	361	434	4,650

（3）疾患別対象者

(単位：人)

疾患名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
悪性腫瘍	26	27	31	27	27	25	27	20	27	31	31	37	336
脳・神経	3	3	3	6	6	6	6	7	6	6	4	6	62
呼吸器	9	11	10	10	9	6	6	7	9	8	8	8	101
循環器	16	14	15	16	16	16	15	14	16	15	9	14	176
消化器	6	6	6	5	5	6	6	6	7	5	3	6	67
泌尿器疾患	4	3	3	2	2	2	3	3	2	3	3	3	33
整形外科	4	4	4	4	4	4	4	5	4	5	5	5	52
内分泌	3	4	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	45
認知症	2	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	2	37
難病	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
その他	4	4	4	4	4	4	4	6	5	4	4	5	52
合計	80	80	84	82	82	78	80	75	84	84	75	91	975

*重複計上

（4）年齢別対象者

(単位：人)

年齢別	～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～
	81	26	56	64	145	164	220	154

（5）訪問内容

(単位：回)

訪問内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保清の援助	211	199	230	219	185	234	229	210	205	213	174	204	2,513
排泄の援助	155	142	148	146	100	147	141	133	87	119	118	101	1,537
医療器具の管理	136	155	156	153	132	174	181	148	183	188	155	195	1,956
褥創処置	39	27	58	67	44	48	31	26	7	26	19	47	439
リハビリ	21	12	25	13	10	23	19	19	15	10	5	3	175
内服・処置・介護指導	347	351	384	374	345	395	363	339	383	383	361	433	4,458
福祉サービスのすすめ	0	3	12	8	2	16	2	34	2	9	4	12	104
精神的ケア	366	361	428	401	373	399	395	350	398	384	361	434	4,650
整容の援助	137	161	203	163	130	182	200	166	199	169	172	188	2,070
ターミナルケア	62	74	94	47	65	90	64	41	55	100	81	128	901
他部門との連絡	34	41	65	42	32	43	48	47	50	51	39	81	573
ＩＶＨ管理	24	14	17	18	13	26	19	7	22	22	17	17	216
注射・採血・検査	38	33	32	33	27	29	28	17	43	45	42	45	412
死後の処置	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	5
合計	1,570	1,573	1,853	1,684	1,458	1,806	1,721	1,538	1,649	1,719	1,549	1,889	20,009

*重複計上

（6）訪問時間（介護保険利用者のみ）

(単位：回)

時間	30分未満	30～60分	60～90分	90～120分	120分以上
	998	1,464	54	76	0

（7）医療機器装着者数

(単位：人)

医療機器名称	4月	5月	5月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素療法	9	7	9	7	8	7	6	7	8	9	8	6	91
吸引器	3	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	0	22
CVポート	4	6	7	4	5	5	5	4	6	6	5	3	60
経管栄養	4	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	24
留置カテーテル	8	8	10	7	8	7	8	8	8	9	8	6	95
人工呼吸器	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
気管カニューレ	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
人工肛門	8	8	8	7	7	7	7	7	8	10	10	10	97
人工膀胱	3	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	31
盲腸ポート	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	19
合計	43	38	43	35	38	36	37	37	38	43	40	32	460

※重複計上

（8）利用者の開始（紹介）状況：保険別

(単位：人)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
市民病院	医療保険	2	1	4	6	6	3	1	1	4	4	7	10	49
	介護保険	0	1	1	0	0	0	0	2	2	1	0	1	8
開業医	医療保険	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	介護保険	1	0	0	3	2	0	1	2	0	0	0	0	9
施設	医療保険	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	5
	介護保険	0	4	0	0	0	0	0	0	3	0	1	2	10
合計		4	8	6	9	8	3	2	6	11	5	9	13	84

（9）訪問終了状況：保険別

(単位：人)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	医療保険	3	3	1	8	2	6	0	1	3	3	2	5	37
	介護保険	0	1	1	1	2	0	3	1	3	1	0	2	15
施設入所	医療保険	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	介護保険	0	1	1	2	0	0	0	0	2	1	2	1	10
在宅死亡	医療保険	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4
	介護保険	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
軽快	医療保険	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	介護保険	3	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	8
合計		6	5	5	13	6	6	4	4	10	5	5	10	79

(10) 時間外携帯電話利用状況

(単位：回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間外	5：00～8：30	4	4	6	5	4	8	4	0	3	0	5	7	50
	17：15～22：00	9	8	10	7	7	8	10	3	3	7	14	5	91
	22：00～5：00	1	0	6	4	1	0	4	3	2	10	3	2	36
	計	14	12	22	16	12	16	18	6	8	17	22	14	177
土曜・日曜・祝日	5：00～8：30	0	3	3	4	8	3	3	1	1	0	8	5	39
	8：30～17：15	12	19	14	11	17	19	6	3	10	7	14	14	146
	17：15～22：00	6	8	0	3	10	2	5	2	0	1	4	0	41
	22：00～5：00	4	6	1	4	2	2	1	0	2	1	9	3	35
	計	22	36	18	22	37	26	15	6	13	9	35	22	261
合計		36	48	40	38	49	42	33	12	21	26	57	36	438

(11) 緊急訪問件数

(単位：回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	8：30～17：15	5	2	4	3	0	1	8	3	1	6	4	15	52
時間外	5：00～8：30	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	17：15～22：00	1	1	1	0	2	2	2	0	2	1	5	2	19
	22：00～5：00	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	6
土曜・日曜・祝日	5：00～8：30	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	8：30～17：15	2	2	6	4	2	3	2	1	5	3	3	4	37
	17：15～22：00	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
	22：00～5：00	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	4
合計		9	6	15	10	5	6	15	5	8	10	14	23	126

4．実習

(1) 実習指導

期　　間	学　校　名	人　数	実　習　内　容
2年6月15日～10月30日	桐　生　大　学	29	在宅看護論　　3年生

ⅩⅣ　群馬県立赤城特別支援学校
伊勢崎市民病院内教室

XIV 群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室

1．開　設　の　趣　旨

昭和52年度から地域医療の充実を図るための一環として小児科医師を2名から4名に増員し、5月1日小児科専門病棟を開設した。小児慢性疾患等のため長期入院治療を必要とする患者の増加に伴い、地域住民から病弱学級を設置して就学に対する不安を解消し、継続して入院治療を受けられるよう強い要望があり、10月18日県知事、県教育委員会に陳情した。その結果、関係者の小児長期入院患者の教育問題に対する熱心な配慮が実を結び、昭和53年4月1日群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室が開設された。

2．沿　革

昭和53年 3月　　伊勢崎病院西1階病棟8部屋222.15㎡（共用部分を含む）を伊勢崎病院分教室として建物使用許可
昭和53年 4月 1日　群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室開設
　許可学級　3（複々式学級　小2・中1）　教職員　教諭3
　教室等　普通教室3、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和53年 4月 8日　入学式　児童生徒数　17名
昭和54年 4月 1日　群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室に名称変更
昭和55年 4月 1日　群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校昇格
　許可学級　4（複々式学級　小2・中2）　教職員　教頭1　教諭3
　教室等　普通教室4、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和56年 4月 1日　許可学級　5（複式学級　小3・中2）　教職員　教頭1　教諭4
　教室等　普通教室5、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和58年 4月 1日　許可学級　6（複式学級　小3・単式学級　中3）
　教職員　教頭1　教諭5
　教室等　普通教室6、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和61年 4月 1日　教職員　教頭1　教諭6
昭和62年 4月 1日　教職員　教頭1　教諭7
平成元年 4月 1日　教職員　教頭1　教諭8
平成 3年 4月 1日　伊勢崎市民病院東1階病棟に移転、141.52㎡建物使用許可
　教室等　普通教室6、職員室
平成 9年 4月 1日　群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校に名称変更
平成10年12月18日　伊勢崎市民病院南棟1階に移転、341.26㎡建物使用許可
　教室等　普通教室6、理科家庭科室、多目的室、プレイホール、職員室
平成27年4月1日　群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室に名称変更
　認可学級5　教職員　教諭5

3．児　童　生　徒　数

年間在籍者数　（単位　人）

学年／年度	小学部							中学部				合計		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	男	女	計
28	0	1	0	0	0	0	1	4	2	0	6	3	4	7
29	0	2	0	1	1	4	8	3	2	2	7	7	8	15
30	0	0	0	0	0	2	2	2	0	2	4	5	1	6
元	0	0	0	2	0	1	3	6	2	1	9	6	6	12
2	0	0	1	1	0	1	3	4	3	4	11	10	4	14

４．教 育 目 標

児童生徒一人一人が、自己を大切にするとともに自立と社会参加を目指して自ら学び、好ましい人間関係の中で明るく元気に明日へ向かって生きる豊かな人間性を身に付ける。

５．学校病院連絡会議

学校病院連絡会議は、学校側と病院側の職員が参加し、学校・病院運営の相互の理解、学校行事、学習指導、生活指導、児童生徒の病状等の事項を連絡協議して連携を図り、協力の充実に努める。

ＸＶ　編 集 委 員 名 簿

XV　編集委員名簿

編集委員

委員長	病院長	小林裕幸
副委員長	副院長兼経営企画部長	大和克弘
委員	副院長	大林民幸
	副院長兼看護部長	木村恭子
	薬剤部長	大和　由美子
	リハビリテーション科技師長	丸橋俊弘
	中央放射線科技師長	武田　久
	中央検査科技師長	松島秀子
	栄養科主任	齋藤克哉
	経営企画部副部長兼総務課長	小此木　聡
	財務課長	松原弘和
	医療サービス課長	須斎暁男
	地域医療連携室長	大下洋美

事務局

総務課	桑名隆毅
	大月　剛
	福島将志
	松井咲絵
	小林文雄

伊勢崎市民病院年報

第　44　号

令　和　4　年　3　月　1　日

編集発行　伊勢崎市民病院

〒372-0817　伊勢崎市連取本町12番地1

電話（0270）25－5022

印刷所　第一印刷株式会社

〒372-0812　伊勢崎市連取町1344

電話（0270）25－0919